

創立60周年

記念誌

東日本建築教育研究会

# 目 次

## 創立60周年記念誌発刊に際して

平 林 博 (会長・都立葛西工高校長) .....	7
佐 藤 則 夫 (前会長・都立蒲田高校長) .....	8

## 祝 辞

池 守 滋 (文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室 教科調査官・ 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官) 9	
能 知 功 (元会長・前都立田無工高校長) .....	10
佐 藤 清 親 (元会長・都立総合芸術高校長) .....	11
原 田 昭 (元会長・元都立墨田工高校長・日本工業大学工業教育研究所所長教授) .....	12

## 研究会の思い出

赤 地 龍 馬 (元副会長・元東京都立田無工高) .....	13
山 崎 敏 弘 (元副会長・元神奈川県立神奈川工高) .....	15
土 田 裕 康 (元副会長・元東京都立蔵前工高) .....	16
大 庭 孝 雄 (元副会長・元神奈川県立小田原城北工高) .....	17
佐 藤 哲 (元副会長・元千葉県立市川工高) .....	18
松 井 貞 二 (元副会長・元東京都立蔵前工高) .....	19
大 間 俊 彦 (参与・元私立関東第一高) .....	20

## 総会の思い出 (第50～59回)

第50回栃木大会 増 淵 政 幸 (元栃木県立宇都宮工高) .....	21
第51回青森大会 岩 城 伸 行 (元青森県立十和田工高) .....	21
第52回東京大会 塩 澤 泰 (東京都私立関東第一高) .....	22
第53回山梨大会 小 池 逸 朗 (元山梨県立甲府工高) .....	23
第54回群馬大会 石 黒 由 美 (元群馬県立高崎工高) .....	24
第55回岐阜大会 宮 田 忠 夫 (元岐阜県立岐南工高) .....	25
第56回静岡大会 名 倉 悦 男 (静岡県立浜松工高) .....	26
第57回岩手大会 外 里 昌 治 (岩手県立久慈工高) .....	27
第58回北陸大会 袖 野 貴 義 (石川県立小松工高) .....	28
第59回埼玉大会 吉 城 守 (埼玉県立春日部工高) .....	29

## 夏期研究協議会に参加して

### 会員の声 (建築ニュース)

平成16年度 畠 山 司 (秋田県立能代工高) .....	35
平成17年度 平 井 柳 太 (北海道小樽工高) .....	36
平成18年度 中 田 智 晴 (石川県金沢市立工高) .....	38
平成20年度 富 田 眞理子 (東京都立総合工科高) .....	40
平成21年度 山 口 廣 訓 (栃木足利工業大学附属高等学校) .....	42

学校紹介 .....	47
------------	----

## 分科会報告

製図分科会主査・小島 聡 (千葉県立東総工高) .....	71
計画分科会主査・三野輪 雄大 (埼玉県立大宮工高) .....	74
法規分科会主査・米原 良慈 (東京都立田無工高) .....	76
構造分科会主査・高橋 豊 (神奈川県立神奈川工高) .....	82
施工分科会主査・塩山 昇 (埼玉県立大宮工高) .....	86

## 委員会報告

編集委員会	・鈴木 健 (元委員長) .....	90
資格取得推進委員会	・五十嵐 忠彦 (委員長) .....	91
製図コンクール運営委員会	・塩澤 泰 (委員長) .....	93
広報委員会	・榎本 吉晃 (委員長) .....	94

研究会のあゆみ (年表) .....	95
--------------------	----

協賛広告 .....	106
------------	-----

編集後記 .....	119
------------	-----



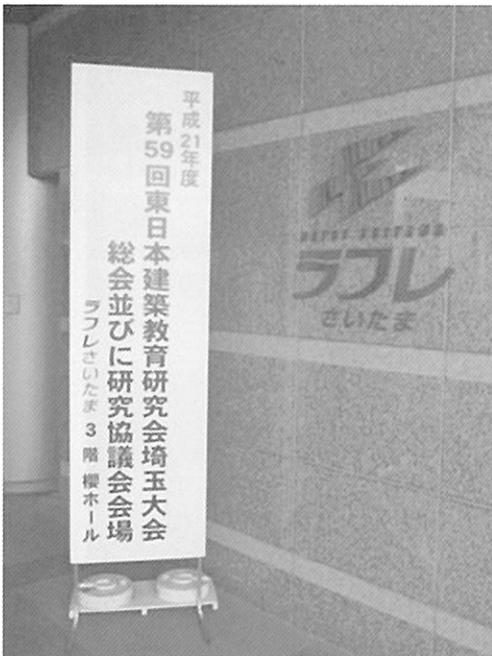
第52回東京大会総会・研究協議 開会式



第58回北陸大会総会・研究協議 開会式



第59回埼玉大会総会・研究協議 開会式



第59回埼玉大会 計画分科会



第4回建築科教員のための建築指導者研修会

ものづくりコンテスト関東大会 競技風景



平成21年度 夏期研究協議会



表参道ヒルズ見学会



平成20年度 夏期研究協議会



第59回埼玉大会 構造分科会

# 東日本建築教育研究会 創立60周年を迎えて

東日本建築教育研究会会長 平林 博  
(東京都立葛西工業高等学校長)

本研究会は昭和26年に結成され、これまでの長い間、日本の工業高校建築教育発展のため尽力して参りました。ここに60周年記念誌を発刊できますことを、会員の皆様と共に慶びたいと思います。

この60年の長きにわたって、建築関連の諸機関をはじめ業界の皆様、本会員の皆様の心温まるご支援を賜りましたことをここに深く感謝申し上げる次第でございます。

さて60年と言う歴史はまさしく「還暦」であり、満60年で生まれた干支の年に還ることから、数え年で61歳を意味します。これまで歩んできた建築教育の集大成の年でもあり、折り返し点でもあり、新たな出発点でもあります。

本研究会の母体は昭和26年に元蔵前工業高等学校長の伏見三郎会長を中心に「関東地区建築教育研究会」として始まり、その後、昭和28年に現在の東日本建築教育研究会に改名されました。現在の会員校は北海道から岐阜にわたる144校から構成されております。その後、西日本地区からもいくつかの学校が活動に参加しております。

本研究会が現在もなお輝かしい研究を維持・継続し、その研究の成果が各界に期待されるに至ったことは、諸先輩方の並々ならぬ努力と熱意であり、めまぐるしく変化する建築技術教育の60年間にわたって地道に努力してきた成果でございます。

特に建築教育に関連する教育課程、学習指導、施設・設備等の在り方については各部会にて研究を重ね多くの研究成果をあげてまいりました。その中でも特にこの数年力を入れてきましたことは「2級建築施工管理技術検定」であります。在学中に学科試験を受験し合格すると卒業後3年の実務を終えることで、二次試験（実地試験）が受験できます。このように今では東日本地区のみならず全国的な規模に渡り、建築教育に貢献してまいりました。今後ともさらに建築教育の充実を目指し、さらに建築に関わる様々な資格取得数の向上やインターンシップ等で関連する団体と連携し、力強く建築教育を推進していきたいと考えます。

社会情勢は一昨秋のリーマンショック以来、景気は依然と厳しく、技術者の大量退職を迎え後継者育成の緊急的な課題は山積しておりますが、前向きに「ピンチをチャンス」に変える良い時期でもあります。

今後とも会員各位をはじめ建築関係各位のご協力を賜りたく会長の挨拶といたします。

# 北陸大会にて

佐藤 則夫

(前会長 東京都立蒲田高等学校長)

東日本建築教育研究会創立60周年おめでとうございます。

最初に私自身のことを少し述べさせていただきます。私の専門教科は数学なものですから、普通高校の経験が長く、工業高校に在籍したのは、平成9年から2年ほど、都立向島工業高校に在職しました。当時の都立向島工業高校には、機械科・電気科・化学科の三科があり、それぞれの科の生徒の様子が異なっていたことが強く印象に残っています。三科の職員室の雰囲気も違って、一つの学校の中に三つの学校があるような気がしていました。現在の都立向島工業高校は都立高校改革の中で、新しいタイプの専門高校として、工業と商業の特徴を合わせ持った、工業高校でも商業高校でもない「産業科」の都立橋高校となっています。その後、二度目の工業高校として、平成18年に校長として葛西工業高校に着任しました。そして、平成20年7月30日、北陸大会において、能智功第21代会長（前都立田無工業高等学校長）の後任として、会長に就任いたしました。

北陸大会では短時間ずつでしたが、すべての分科会の発表を聞かせて頂きました。その時の印象は、どの分科会も「熱」を感じました。それは先生方の生徒に対する熱意であり、教科指導への熱心さ、建築教育に対する情熱、先生方の熱気の「熱」です。

また、数学の大会での分科会は、まず、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲなどの科目の分科会があり、評価法、教育課程、指導法、教具、大学入試などの分科会がありますが、どうしても指導法に関する発表が多くなります。ところが北陸大会での製図・計画・法規・構造・施工の各分科会の内容は、建築科の先生方にとっては、当たり前と思われることかも知れませんが、私にとっては初めてのことばかりで、大変面白く、かつ驚く事が多くありました。特に法規分科会は、高校教育の全国大会で、法律関係の分科会があるなど想像もしていませんでした。先生方の発表ばかりでなく、生徒の製図コンクールの優秀作品の展示があり、とても素晴らしい作品が多くあり、先生方の熱意あるご指導と生徒達のひたむきな努力を感じ取りました。普通高校に居ては経験できないことばかりの北陸大会でした。夏の金沢市はとても暑かったですが、研究協議会会場の金沢歌劇座もとても熱かったです。

「教育は国家百年の計」と言われます。教育は生徒を通じて未来を創造する崇高な仕事です。これからも会員の先生方には「熱」を持って、生徒を育てて頂きたいと存じます。平成21年4月に都立葛西工業高校から都立蒲田高校に、予想していなかった異動により、会長職は一年でした。事務局や各分会の主査の先生方には大変お世話になり、ありがとうございました。最期に、東日本建築教育研究会の益々の発展と先生方のご活躍を祈念しております。

# 東日本建築教育研究会創立60周年を祝う

文部科学省初等中等教育局児童生徒課産業教育振興室 教科調査官  
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官  
池 守 滋

東日本建築教育研究会が、創立60周年を迎えられますことに、心からお祝い申し上げます。

東日本建築教育研究会は、工業高校における建築教育の改善・向上を目指し昭和26年に結成され、工業教育に関する教育研究会の中でも最も伝統のある会であります。以来、先輩諸賢のたゆまざる御尽力により、建築に関する教育課程、技術革新に応じた教材・教育方法の研究及び研修会の開催、各種の補助教材の刊行、製図コンクールなどを積極的に行うことにより、我が国の建築教育の充実・発展に多大の貢献をしてくれました。本年、60周年を迎えられるまでに発展されましたことに対して、関係の皆様方の御尽力に心より敬意を表します。

さて、安全・安心な社会作りの要請及び建築物に対する耐震性や省エネルギー対策など社会が求めるものが変化して参りました。さらに、建築士制度の大幅な改正なども建築教育を取り巻く環境が大きく変化しております。

また、文部科学省では、昨年三月に新しい高等学校学習指導要領を告示し、工業教育に関しては、工業技術の高度化、環境・エネルギー問題への対応、情報化ネットワーク化の進展への対応、技術者倫理の要請への対応等の観点から、環境に関する基礎的な科目の新設やコンピュータシステムに関する内容の充実を図るとともに、技術者としての倫理観を養うことを明記するなどの改善を図ったところであります。このような状況の中、工業高校の建築教育に関する専門的な研究発表の場である本会の役割は、これまで以上に重要になっております。

貴会の皆様には、この60周年を一つの節目に、高校の建築教育と本研究会が果たす役割の大切さを改めて御認識いただき、建築教育のますますの発展・充実に向けて、貴研究会の一層のご発展を祈念申し上げ、祝辞といたします。

# ごあいさつ

元会長 能 智 功

(前東京都立田無工業高等学校長)

この度、東日本建築教育研究会60周年を迎え、おめでとうございます。

私は平成17年岐阜大会（7月28日（木）～29日（金）、岐阜観光ホテル「十八楼」開催）において前会長佐藤清親校長から会長を引継ぎ、平成18年度静岡大会（浜松）、平成19年度盛岡大会を経て平成20年金沢大会（7月31日（木））で後任の都立葛西工業高等学校佐藤則男校長にバトンタッチいたしました。

事務局の校長が会長というのが伝統的に行われてきたというご縁で引き受けましたが、事務局長鈴木健先生には苦勞をおかけしました。現況を聞き、理事会等でその進展を把握するように努めました。大会では、壇上に開催地の県の関係者、市長、多くの教育委員会関係者の方が列席して下さり、頭が下がる思いです。これというのも、東日本という大きな組織であることが大きな理由であります。会の運営においても各理事が定期的に集まり、活発な意見をおして諸問題を共通認識し、解決策を見出そうとしていました。また大会の各分科会で参加者が率先的に参加し、活発な意見交換している状況に心強く感じました。

国に働きかける時には全国組織が非常に重要であることを再認識したことがあります。それは平成18年7月頃に大きな問題となった「2級建築士受験資格問題」です。偽装耐震問題から端を発し、1級建築士受験を厳しくすることが遡上にあがりました。その影響が2級建築士受験にも出て、工業高校建築科卒業生が実務経験を経ても受験できないことが予想されました。

そこで、東日本建築教育研究会として、今後この問題にどう対処していくかが大きな問題となりました。全国組織の「全国高等学校建築教育連絡協議会」を前面に出し、国土交通省に研究会の理事の先生方と霞ヶ関に行き、「是非とも受験可能」を要請しました。その結果は皆さんのご承知の内容です。「学校認定は難しい。個人申請となり、従来型の建築科のカリキュラムならば大丈夫である」という感触を持ち、全国にその旨の発信をしたことが記憶に残っています。ここで重要だったことは「東日本」単独でなく、「全国」である必要がありました。そして、幸いにも私が全国工業高等学校長協会理事長をしていたため、その肩書きも全面に出すことで、担当者は「全国を代表している組織」という認識を持って下さったようでした。その後、大きな混乱もなく現在に推移しています。

その時の状況を考えると「建築科で2級建築士を受験出来ないことは建築科の存在意義が薄れるので何としてもそれだけは継続したい」という危機感が理事全体にありました。前年の平成17年には「高校在学時に2級建築士受験の機会を」という動きの中、数県の建築士協会は前向きに考えて下さり、今後どうその動きを展開していこうかという翌年でした。私は方針転換し、卒業後の受験可能が重要であることに軸を移し、意欲的に取り組みました。

今後、また本研究会に難題が起こるかも知れません。その時に、今回記したことを思い出していただければ何かの役に立つのではないかと思います、皆さんに以上のことを述べさせていただきました。

最後となりましたが、今後とも、貴研究会のますますの発展を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

# 総合技術力教育の推進をより着実に

元会長 佐藤 清親

(東京都立総合芸術高等学校長)

研究会設立60周年まことにおめでとうございます。

本来工業教育の門外漢である私と本会とのご縁は、前任の堀川会長の後を継ぎ平成15年から17年までの足かけ3年間を会長として務めさせていただいたことに因ります。着任しました東京都立小石川工業高等学校は平成20年3月末をもって閉校いたしました。当時は本会の主査会が定例で開催されました。毎回都内外から多くの委員が出席し、各分科会および各委員会から豊富な話題が出され、活発な研究活動の基盤がここに見えると思えました。

現在は、芸術専門高校の新規開設を担当していますが、新宿区富久町の同校跡地に校舎を新築します。旧校舎の取り壊しを担当した企業にも息子さんが同校の卒業生であったという部長さんが担当者であったことなど、宿命的なものを思わざるをえません。現在は更地となった同校跡に建設予定の新校舎の実施設計も終了し、現地の管理事務所(改修工事のために残された旧体育館)で月1回の定例総合会議が開催され、進捗状況の報告を受けたり、様々な課題の整理と対応が報告されたりします。先日の会議で施工業者に私が依頼したことは、基礎から完成までの高所からの定点撮影です。現場を仕切る課長も、ちょうど同様に記録として撮影を予定していたことからすんなりと受け入れていただき、23年夏の竣工まで画像がデータで届くようになります。

第53回の山梨大会と第54回群馬大会において開催県の先生方や全国から参加された先生方と建築教育の振興というひとつの想いを共有できたことを、つい先日のごとくのように記憶しています。研究会には、各県の先生方の実践報告とともに、コンクール作品などの生徒の製作物が展示され、楽しみに拝見していました。施工分科会であったと思いますが、建築現場の進行を建築期間中現場で工程を撮影した手作り教材を発表していましたが、まさにそのような発想が現在の自分に浸透していると考えます。

社会的には、その直後にいわゆる姉齒事件が発覚し、建築確認における構造計算書の偽造という許しがたい事態が明らかになり、国会での証言などもあり、日本全国で建築に対する不安と失望を掻き立てる報道がされました。折しも勤務校の法規の授業を拝見していたことから、前を素通りすることなく一読する習慣が身に付いた建築計画の表示に問題の関係会社名を見つけたこともありました。

建築という分野は工業の中でも、総合技術力が求められます。特に我が国の様な地震が多発する中で、周辺環境と共存させたり、都市計画として美しい街並みを整備するために、実に多くのことを生徒に学ばせなくてはならないと考えます。限られた時間の中ではどうしても各領域独自の目標を定め、絞り込んだ知識や実習に集中させる傾向がありますが、時間を費やしてより安全で信頼のおける総合技術力を次代に継承・発展させることが重要です。そのためには定められた時間の外で、生徒の放課後はもとより日常そのものを通した学びの在り方をご指導いただければ、より発展的な教育活動が可能になると考えます。

本研究会のますますのご発展を祈念して、60周年のご挨拶とさせていただきます。

# 東日本建築教育研究会会長として思い出

元会長 原田 昭

(元東京都立墨田工業高等学校長・日本工業大学 工業教育研究所長 教授)

私は、平成13年度～15年度までの2年間、会長職を仰せつかり、務めさせていただきました。

それまで、私は、関東甲信越地区機械工業教育研究会、東京都機械工業教育研究会に携わっていましたが、建築教育研究会の分野は初めてでしたので、戸惑いでしたが、事務局の先生方のご支援により、微力ながら役目を果たすことができました。

一番の印象は、製図、計画、法規、構造、施工の分科会等が、大変熱心に、レベルの高い研究に取り組まれていることでした。建築科の設置学校数は、機械・電気に比べると少ないのですが、会員の先生方の結束力の強さに関心いたしました。

また研究会後の懇親会は、いつも和気あいあいと楽しく、賑やかでした。

総会には、栃木大会と青森大会に出席しました。いずれの大会も充実した研究協議が行われていました。栃木大会の2日目は、日光の「神橋」の改修工事の真っただ中で、50年に一度といわれる工事の様子を橋の下から見学できたことは貴重な体験でした。また、日光東照宮見学の折には、テレビでもおなじみの宮司さんから、わかりやすいユーモラスな解説をいただいたのが印象的でした。

青森大会は、県下の先生方の温かい歓迎のもと、古牧温泉で開催されました。印象に残っているのは、渋沢公園内の「渋沢邸」が見学できたことです。港区三田より移設された和館・洋館の木造建築のお屋敷及び渋沢栄一、渋沢敬三氏が使用していた貴重な調度品などを見学することができました。

会長職の2年目は、全国工業高等学校等学校長協会理事長職との兼務でしたので、十分な働きができず、皆様にご迷惑をおかけいたしました。東京大会の途中で北海道へ飛んで行ったことを思い出します。

会員の先生方には、全国工業高等学校等学校長協会主催のものづくりコンテスト高校生大会木材加工部門の立ち上げにご尽力をいただきました。課題、審査基準の作成から、当日の運営まで、献身的に取り組んでいただきました。

東日本建築教育研究会のますますのご発展をご祈念申し上げます。

# 研究会の思い出

元副会長 赤地 龍馬  
(元東京都立田無工業高校)

創立60周年お芽出とうござ座居ます。私は平成6年(1994)3月、都立田無工高を定年退職、その後も5年間嘱託員として勤務しました。

平成12年(2000)の創立50周年記念大会(栃木県)では、研究会の「副会長または、事務局長経験者」ということで、同世代の仲間数名がお招きいただき、記念式典での「研究会50年の歩み」講演会「日光東照宮の謎」では、深い感銘を受けたこと、そして、お招きいただいた仲間との昔話に花を咲かせた事が思い出されます。ありがとうございました。

私が研究会と係り合ったのは、勤務校(墨田工高)の上司、宇都宮先生が昭和39年(1964)ご退職のため、代行として製図分科会の委員として参加したことでした。ところが製図分科の委員だけでなく、実教出版の検定教科書(昭和35年(1960)発行、緑色の表紙上・下)の改定の編集作業が進行中であり、宇都宮先生のご担当であった「木造2階建専用住宅」の部分も代行することになりました。

改定の理由は、建築製図通則(JISA 0150)に「位置の表示」が追加され、図面は平面的にはX軸方向・Y軸方向、立体的にはZ軸方向に組立基準線を用いて作図することでした。組立基準線による参考図もなく、大変苦心しましたが、編集委員長の冨塚先生(向の丘工高校長)や、先輩の先生方のご指導で、「灰色」というか「ねずみ色」の検定教科書が完成したときは、途中からの参加でしたが、達成感を味わうことができました。

昭和55年(1980)、製図分科会の主査を五十嵐先生(東工大附属工高)から引き継ぎ、諸先生方のご協力ご支援により、平成2年(1990)までの10年間、主査を務めさせていただきました。主査としての10年間を回想しますと、昭和57年(1982)研究会主催の製図コンクールの発足です。当時(昭和55年)工高生を対象とした製図コンクールは、「全国工業高等学校設計競技」(日本大学理工学部)、「工高生デザインコンクール」(日本建築協会(大阪))、「全国工高製図コンテスト」(株・トンボ鉛筆)の三つだけでした。「全国工高製図コンテスト」の課題は、各学年ごとの課題で、全生徒が参加できる特徴がありました。ところが、主催者の都合で、昭和56年(1981)第12回で中止することが、昭和55年(1980)決定しました。

そこで、この課題に特徴のある製図コンクールは「継続すべきである」との思いから、製図分科会が中心となって協議した実施案が理事会で承認されましたが、運営費等については十分なものではありませんでした。

ところが、運営費については、常任理事の白石先生(市川工高)の協力により(株)建築資料研究社からのご援助が得られることになりました。

このようにして昭和57年(1982)スタートした製図コンクールも、本年度で第29回目を迎える訳ですが、その間、継続的にご援助いただいている(株)建築資料研究社、そして作品提出にご協力して下さる各校の先生方、またコンクールの運営に関係する先生方に、スタート時の委員長として感謝申し上げます。

夏期研究協議会は、計画、構造、施工、製図の四分会持ち回りで毎年開催され、製図分科は、私が主査として、分科会の先生方のご協力のもと、3回開催しました。

第1回目は、昭和60年(1985)、8月1・2・3日の3日間「パソコンの実技演習」を、日本工業大学のパソコン教室で開催しました。開催にあたっては東京工業高校の遠藤先生はじめ、同校の若い先生方には、大学のキャンパス内にある宿泊施設(工業会館)に前泊して、全面的なご協力をいただきました。

第2回目は、平成元年（1989）7月25・26日の2日間「CADの実技演習」を、大宮工高（埼玉県）で開催、製図分科会の委員であった松本先生（大宮工高）には、大変無理なお願いをしました。CAD室の空調設備が故障しており、暑くて多人数での実習は無理であるということでしたが、松本先生の大変なお骨折りで修理を早めていただき、快適な環境で実技演習ができました。

第3回目は、平成2年（1990）8月6・7・8日の3日間「透視図の着彩と添景の実技演習」を東京工業高校（現 日工大付属駒場高校）で開催されました。

この講習会は、先生方の要望が多かった「透視図の着彩と添景」に答えるもので、若い助手の先生方の参加もあり、教室の間仕切りを取り除き、2教室分のスペースが満員でした。会場校の遠藤先生はじめ建築科の先生方には大変お世話になりました。

以上、研究会との係り合い、製図分科会主査としての10年間を振り返ってみましたが、研究会の思い出としては、昭和57年（1982）前後が、最も印象的で、その残像が色濃く思い出されます。

本研究会の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍とご健勝を祈念して、思い出の記とします。創立60周年記念大会のご成功を祈念いたします。

# 研究会の思い出

元副会長 山崎 敏弘

(元神奈川県立神奈川工業高校)

創立60周年おめでとうございます。

昭和47年8月に施工分科会による第1回夏期研究協議会が市立横須賀工高で開催されました。その時、私は委員の一人として参加させていただきました。それ以来、29年間施工分科会委員、同主査及び本教育研究会副会長などを勤めさせていただきました。この研究会で、私は多くの先生方のご指導とご協力を賜り有意義な教員生活を過ごすことができたことを心より感謝申し上げます。

施工分科会の思い出として、夏期研究協議会があります。同研究会の会場、授業実習に併せた実習項目の選定と内容、予算、等。汗をかきながら、検討・準備・開催でき、その結果ご参加の先生方との懇親会などで好評をいただきました。開催会場の市立横須賀工高、盛岡工高、東京工高・赤倉研修所、武蔵越生高・軽井沢研修所、向の岡工高、神奈川工高などには大変お世話になりました。

毎年の委員会では、課題を決め、議論をし、総会資料を作成し総会会場で討議をしていきました。委員会開催会場は、夏期研究協議会の会場工高および甲府工高、葛西工高、春日部工高、熊谷工高、昭和第一学園高、藤沢工高、東工大附属工高など委員の勤務している学校・地域を見学しながらお世話になり、会議後の懇親会も楽しみの一つでした。

副会長としての思い出は、平成5年に「資格取得検討委員会」が設置され、平成8年に第1回「建築施工技術者試験」が実施されました。その経過や“問題集”の作成などに携わりました。そのころ、西日本工高建築連盟の総会に出席し、“資格試験”についての説明と西日本の研究会および総会の内容を拝見してきました。本研究会と大分違うところがあり、参考になりました。

平成2年に創立40周年記念大会が神奈川県で開催されました。私も同県の一委員として参加し、会場の選定や総費用の捻出、運営など大変な苦勞があったと思いました。そこで、いままでの総会開催も費用について悩みのことと思ひ、これからは費用のかからないあり方をと議論を重ねました。

平成12年に創立50周年記念大会が栃木県で開催されました。総会で私が50年間の概要を話すことになり、諸先輩先生方の資料を拝見し、情熱を持って真摯に本研究会に取り組んでいる様子が伝わってきました。整理し短くまとめ発表しましたが大変緊張しました。終わってから、“よかった”と伺い、ほっとしました。

委員の間、多くの総会開催会場県に参加し、各県の先生方との交流と風土も見学することができました。感謝するとともに思い出をいただき、ありがとうございました。

本研究会の創立60周年の成功とこれから益々のご発展を祈念いたしております。

# 研究会の思い出

元副会長 土田 裕康  
(元東京都立蔵前工業高校)

平成12年3月、都立蔵前工高を定年退職してから、早くも10年が過ぎてしまいました。その年はちょうど東日本建築教育研究会創立50周年記念大会の年で、栃木県の岡田先生はじめ多くの先生方のご協力により栃木県で開催されました。私が研究会と係り合ったのは、昭和40年に都立田無工業高校に赴任した年からで、当時会の事務局は都立小石川工業高校に置かれ、岡登先生が事務局長を担当されていました。昭和42年事務局が田無工業高校に移り、森安先生が事務局長を担当されました。その年の総会研究協議会は前橋工業高校にて開催され、伊香保温泉が宿泊場所でした。

その年に「高等学校における職業教育の多様化について」の答申が出され、協議会においても多様化の是非が活発に議論されていました。

その後、昭和45年頃、東工大附属工高の五十嵐先生が主査をされていた製図分科会に森安先生の推薦で参加することとなりましたが、委員としては、高山先生（蔵前工高）、加藤先生（川崎市立工高）、落合先生（向の丘工高）、赤地先生（墨田工高）、大仁田先生（市川工高）、松本先生（大宮工高）、角田先生（向の丘工高）、諏佐先生（蔵前工高）等の方々がおりました。

委員会の活動としてはいろいろなことを行ってきましたが昭和52年実施された「透視図の書き方、着色実技」の講習会は、会員からの要望も多く、好評でした。

教科書づくりの面では、教育課程の改定のたびに実教出版の製図教科書の編集作業を分科会で手伝いました。昭和57年改定の教科書では、2階建住宅の基本図面の作業を担当することとなりましたが、プランは何度も変更され、決定するのに2年程かかり、教科書作りの難しさを実感しました。

昭和57年には、製図コンクールが発足しました。これは昭和46年頃トンボ鉛筆や三菱鉛筆が製図コンクールを始めましたが財政上の問題で中止となったので、それにかわるものということで始めました。このコンクールを始めるとは、財政上の問題等もありましたが、市川工高の白石先生はじめ多くの理事の先生方と建築資料研究会のご協力により今年の第29回目を迎えることとなりました。最初の委員長は赤地先生で、問題作成、採点、賞状の作製、図面返却等皆で分担して夜遅くまで作業し、そのあと打ち上げの飲み会をしたことを懐かしく思い出します。平成10年からは、50周年記念大会の記念誌編集委員として記念誌作成を手伝い、平成12年の記念大会に間に合わせられたのは、当時の編集委員会委員の皆さまのお陰と感謝しております。

以上昭和42年から平成12年の50周年記念行事までを振り返ってみましたが、教育制度の変化や社会の変化等による困難な問題が山積するなかで、本研究会の果たしてきた役割と成果は大いに評価されてよいものと思われまふ。今日、各都道府県の財政上の問題から、会の年会費や大会参加費等が公費で負担されないケースが増えているように聞いておりますが、そのような状況下においても、本研究会が先導的役割を果たすべく活動を継続されることを切にお願いいたします。本研究会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念して、思い出の記とします。60周年まことに  
おめでとうございます。

## 顧みて「研究会」を思う

元副会長 大庭 孝雄

(元神奈川県立小田原城北工業高校)

東日本建築教育研究会の創立60周年の節目の年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。かつて、創立40周年記念誌の編集に携わったことが、昨日のこのように鮮明に蘇ってまいります。

思いおこしますと、20年前の平成2年度は、創立40周年の節目の年にあたり、記念式典を東京で、総会・研究協議会を神奈川で執り行いました。折り悪く、高度成長期からの急激な景気の低迷で、神奈川県のみならず大会運営にあたる各県の負担はかつてないほどの厳しい状況にありました。各所で、総会の在り方とともに、その必要性をも取り沙汰され、研究会の先行きに一抹の不安を抱かされた時期でもありました。

あれから、はや20年の年月を経て、今日、研究会は、益々活発に活動され総会・研究協議会や分科会活動が脈々と厳然と執り行われている由、あらためまして、その意義に思い馳せているところです。

私事になりますが、故あって民間会社から、全く未知の世界である工業高校の教員に転身いたしましたのが、「いざなぎ景気」と世に言われた大阪万博に沸き立つ頃の昭和40年代でした。しかし、この活況も間もなく急速に下降して、生徒の就職活動など工業教育の現場にも不況の影を色濃くおとしてきておりました。建築の世界に身を投じてから、さしたる技術の習得も経験もないままでの実学の教育現場への転身は、不安が一杯で、この先、如何にして自身のスキルアップを図るか思案にくれる日々でした。

地方都市の教育現場では、急速に進む建築技術や絶え間ない法改正などに追従するタイムリーな情報の入手や研修の機会が得にくく、なすすべもなく、日々の教科指導に埋没していくなか、閉塞感やらいらだちを募らせておりました。

研究会とは、こんな葛藤の最中、分科会の委員として活動に加わる機会を得て出会うことができました。時々、東京で行われる分科会や夏の研究協議会などへの参加は、ローカルな情報に偏りがちで単調な教育現場での勤務に、大いなる変化と刺激、活力を与えてくれました。研究活動は、学校現場から距離をおいた視点で、建築の世界を見聞したり、建築教育のあり方を考える絶好の機会となっていきました。

総会では、時々、教育現場で直面する共通の問題や文科省の動向を直接的に伺い知ることができました。また、研究協議会では、担当県ならではの貴重な研究発表を拝聴させていただき、明日からの教科指導や自身の学習にも少なからず役立てることに繋がりました。

日々厳しさが増す学校現場にありまして、研究会を司る事務局や年度総会の担当県の会員の皆様方のご苦勞はいかばかりかと、想像に余りあるものがあります。しかし、東日本各地の異なる学校組織に籍をおく会員の皆様が、一同に会して情報を共有し共通の課題に取り組む機会が得られることは、きわめて意義深いことで今日の建築教育には欠せない存在かと存じます。

長きに渡り、脈々と続けられる研究活動の積み上げは、やがて、その歴史的変遷に学び、意味深い教訓として、後世の教育現場に大いに役立つことと確信いたしております。

## 研究会の思い出

元副会長 佐藤 哲  
(元千葉県立市川工業高校)

平成10年3月千葉県立市川工業高校を定年退職して、現在は専門学校で教鞭をとり微力ながら建築教育に鞭打っております。

振り返りますと当時千葉県の工業教育で建築科を設置している県立の工業高校は唯一市川工業高校のみでしたので、建築科教員の交流がない中で東日本建築教育研究会の存在は私にとってはとても意義深いものでした。理事会や研究会での先生方との交流は、とても新鮮であり、感動的なものでありました。勿論会合の後には言うまでもなく酒を酌み交わし、よく建築教育談議に花を咲かせたものです。理事会や研究会の会場はほとんどが東京でしたので千葉在住の自分にとっては、乗務員の方から終電ですよと声をかけられることがたびたびで、一生懸命に生きてると星と戯れたものです。

特に印象深いのが、平成6年吉村先生が会長をしておられたとき、建築技術者試験の実施について建設省へ要望書を提出することになり会長自ら建設省に足を運ばれ、いろいろご苦労されておられたことがつい最近のように思い出されます。建設省への要望書提出には全国規模の団体の申請でないといけない等の条件がつき、団体規模をどのようにして結成するかいろいろ苦労したものです。

最終的には西日本工高建築連盟や、中国、四国、九州各地区の高校建築教育研究会の先生方の理解と協力を得て全国高等学校建築教育連絡協議会を結成することになりましたが、結成までには会長（故吉村義弘）、事務局（事務局長：松井貞二）、資格取得検討委員会（委員長：岡田義治）の先生方のご苦労は並大抵のものではありませんでした。丁度そのころ私も西日本工高建築連盟の総会に東日本建築教育研究会の代表として出席させていただきました。会長先生の温かい出迎えを頂き、総会の式次第の説明を受けました。先生丁度良いときに来ていただきました。吉村先生からも全国高等学校建築教育連絡協議会（仮称）の件は聞いております。その件で今日の総会に議題として提案するつもりですがその前に先生のほうから経緯と現状について説明してほしいとのことで、手続の問題として全国規模が必要で具体的にどのように結成していくかで先生方も苦労されている旨の説明をしたわけです。早速OBの先生（総会にはOBの先生も参加されている）方から意見があり、趣旨は良くわかるが協議会の会則等もはっきりしない中で協議会が1本化することで西日本工高建築連盟の研究会に支障が出る恐れもあるのではないかと心配される声が多かった。総会終了後の夕食会でOBの先生方から西日本工高建築連盟の立ち上げの苦労話など生の声で熱く語っていただき建築教育に取り組んでこられた情熱と真摯な姿に感銘しました。それゆえにいろいろ心配されたんだと理解を深め明日の建築教育の発展を核心しながら帰路に着いたような気がします。全国の先生方の理解と協力を得て全国高等学校建築教育連絡協議会が結成され、さまざまな難問を解決して、平成8年第1回 建築施工技術者試験が実施の運びとなったのです。建築科生徒が在学中専門的な資格を取得させようと先生方の努力と情熱の結晶が実現した第一歩でもありました。

吉村先生！ 建築科の先生方はみな血気盛んで純粹だよと盃を傾けながらの笑顔 私も大好きでした。あまりにも早い別れ残念です。建築教育発展のため情熱を傾けていただきまして有難うございました。合掌・・・。

創立60周年という歴史の重さを改めてかみ締めながら建築教育充実のため、東日本建築教育研究会の益々のご発展を祈願しお祝いを申し上げます。

# チーム力

元副会長 松井 貞二  
(元東京都立蔵前工業高校)

東日本建築教育研究会創立60周年を迎え、会員の皆様とともに心よりお喜びを申し上げます。これまで本会を育て発展させて来られた先輩の方々の情熱と努力に深く敬意と感謝申し上げます。

私は昭和39年4月東京都立田無工業高等学校に就職しました。その時の建築科長が本会の事務局長を務められたことのある森安四郎先生でした。その頃千葉県立市川工業高等学校での総会に参加したことがつい昨日のように思い出します。本会の目的は「工業教育、特に建築課程に関する研究を行い、その向上改善を図ると共に、相互の連絡を密にすること」とあり、まさに本会は私にとって建築教育の指針となりました。

その中でも私が本会ととくに深く関わりましたのは、東京都立葛西工業高等学校で事務局をお引き受けした平成5年度から平成7年度の頃でした。当時の葛西工業高校建築科の先生方は若くて活気がありました。校舎も新築された後で学校全体が盛り上がっていたような気がします。その平成5年4月に故吉村義弘校長をお迎えしました。

吉村校長は、第43回茨城大会で本会会長をお引き受けされましたが、その時すでに手腕を発揮され大会中に主査の方々を部屋に呼んで、これからの本会の行く末と先生方のあり方について情熱を持って意見を述べられておりました。同じ年、夏期研究協議会が葛西工高で行われました。このときは構造分科会の担当で分科会の先生方と葛西工高建築科の先生方が一致団結して「振動模型の製作とそれを利用した振動実験」をテーマに行われ、機械科工場を借りての振動模型の製作、振動台を利用した各種振動実験、耐震構造・免震構造・制震構造についての講義（構造設計教科書一部の基となる）という内容で参加者総勢50名を超える研究協議会となりました。蛇足ですが後の教育懇親会が大いに盛り上がったことを記憶しています。

平成6年度には、工高側からの要望を受けて、当時の建設省と建設産業人材確保・育成推進協議会が若年雇用促進の上から、建築科高校生に二級建築施工管理技士の受験資格を与えたらという話が持ち上がりました。（土木施工技術者試験はすでに実施されていた。）

当時宇都宮工業高等学校の岡田義治先生がいち早くこの件に気づき、故吉村会長と私に連絡をしてくださいました。早速、岡田先生に葛西工高にお出でいただき協議しました。

すぐに「資格取得検討委員会」を立ち上げ建築施工技術者試験（仮称）実現に向けて行動を開始しました。それからは全国建設業協会・全国工業高等学校長協会・建設省・建設業振興基金ほか関係機関を足繁く3人で駆け回りました。関係機関からは次々と疑問や要求や課題が出されましたが、故吉村会長は即座に対応され私たちに適切な指示を出しました。この間、岡田先生も宇都宮から頻りに上京し活発に行動されました。さらに西日本工高建築連盟への働きかけ、全国高等学校建築教育連絡協議会の設立、専門学校との協力体制づくりなどに精力的に活動し協力しました。そしてついに平成8年度に第1回の建築施工技術者試験が実施され、12,526名が受験したのです。

振り返ってみると、自分が事務局長として活動出来たのは葛西工高建築科先生方が何時もバックアップしてくれたからです。故吉村会長、岡田先生そして私と葛西工高建築科職員は一つのチームで行動したように思います。

現在、本会を取り巻く環境はきわめて厳しい状況にあらうかと思えます。こんな時期だからこそもう一度本会の目的を見直し、一人一人が努力し協力し合うことが大切だと考えます。生徒の幸せのために先生方の力を結集して本会を維持・発展させていただくよう心より祈念して還暦を迎えた本会へのお祝いといたします。

# 研究会の回想

参与 大間俊彦

(元私立関東第一高等学校)

研究会に携わって40数年になり、あらためて研究会を振り返ってみたいとおもいます。

私が元研究会で活躍された山田晃一先生の要請を受け、建築科ができた関東第一高等学校に着任したのが昭和41年でした。それから計画委員として研究会に参加するようになりました。当時、大学では習わなかったことばかりの高校の授業、しかも教員不足であらゆる科目を教えなければならなかったため、実教の教科書をもとにあらためて勉強の連続でした。その際に、研究会への出席で得たあらゆる情報が大変役にたったことを思い出します。それは、現在も参与として研究会のお手伝いをしておりませんが、いまだに知識を得る場ともさせていただいております。

計画分科会では、委員の方々との研究活動や問題集作成、懇親など充実した活動をさせていただきました。総会の分科会では、司会の際、貴重なご意見や、悩みなど、各先生方の真剣な発言が、日々ご指導に苦勞されているのをひしひしと感じました。教科書の編修も大変貴重な体験となりました。法規でしたので、高校生に理解できる文章で重要内容を網羅し、簡潔にという条件で大変苦勞しました。また、製図コンクール運営委員会に計画委員として赤地先生時代から参加しました。20数名の先生方で白熱した審査をしたこと、構造的と意匠的での意見の違いでのやりとりなどが思い出されます。毎回、審査やその後の懇親会で、普段会うことの少ない先生方との会話、親睦が忘れられません。

常任理事会にも名を連ねるようになりました。事務局の苦勞を目の当たりにして、会の運営に少しでも協力できればとの思いで務めました。参与の現在も変わらず、分科会、委員会への若い先生方の参加が少ないのを憂慮しております。

編集委員会では、会員名簿と建築ニュースの発行が主な作業でした。名簿の原稿依頼と移動の時期、新学期が重なったため集まるまで苦勞しました。以前は住所も入っていたため校正も大変でした。名前、地名での外字作成もありました。予算が少なく、広告に頼らざるをえなくなり、学校、企業を回ったことも思い出します。名簿、建築ニュースでの原稿依頼、お忙しいなか、協力いただいたことを感謝いたします。

急遽行われることとなった東京の総会では、司会を担当させていただきました。東京都の先生方が一丸となって準備、運営し無事終了したことを思い出します。

今日あるのは先生方のおかげです。心からお礼申し上げます。これからも研究会の発展のために、多くの先生方の協力が必要です。若い先生方の参加で、ますます発展していくことを期待しています。

# 総会の思い出

## 平成12年度第50回栃木大会 総会・研究協議会 50周年記念式典

元栃木県立宇都宮工業高等学校

増渕 政幸

平成12年度東日本建築教育研究会総会・研究協議会並びに50周年記念式典が7月26日～27日の2日間鬼怒川温泉「ホテルニュー岡部」にて、来賓・招待者・会員合わせて190名の参加により盛会のうちに開催された。

1日目 午前中理事会、午後から開会式・総会が開催され高桑正克大会実行委員長、稲見辰夫会長の挨拶に始まり、大会実施要項に従い議事案件が審議された。役員の改選においては、新会長に原田 昭・都立墨田工業高等学校長が承認された。

50周年記念式典では、元会長・副会長・事務局長あわせて20名を招待し、文部省佐藤義雄教科調査官を始め、栃木県教育委員会、全国工業高校長協会、西日本工高建築連盟からの来賓の挨拶があり盛会に挙行された。その後記念講演として、日光東照宮・高藤晴俊氏より「世界文化遺産 日光東照宮の謎」と題してスライドを中心に日光東照宮の魅力がふんだんに紹介され大変意義の深い講演であった。夕刻には、教育懇談会が開かれ第1日目の日程を滞りなく終了した。

2日目は研究協議（分科会）で共通テーマ「新学習指導要領にからむ建設教育の在り方」のもとに製図・計画・構造・施工の4分科会に分かれ、各会それぞれサブテーマを持ち、新教育課程への取り組みについて熱心な協議がなされた。分科会報告は製図分科会（菊池主査）、計画分科会（江口主査）、構造分科会（大久保主査）、施工分科会（内藤主査）の各先生より協議内容のまとめと年間活動内容について報告があった。

分科会報告の後、文部省佐藤義雄教科調査官が次の会議のため中座され、代わって栃木県教育委員会・池守滋指導主事より「先生が、生徒が、地域が喜ぶ学校づくり・建築科づくり」を目指してほしい旨の講評があった。

閉会式では原田昭会長より盛会な大会のお礼があり、次期開催県の太田代志郎十和田工業高等学校長から来年度第51回大会が青森県の古牧温泉に於いて、7月26日・27日に実施予定であり、多くの先生方の参加を呼びかけられ、最後に高桑正克大会実行委員長のお礼の挨拶で2日間の協議を閉じた。

午後の研究視察は120名がバス3台に分乗して『日光・輪王寺大猷院・二荒山神社神橋改修工事』を見学。暑い中、貴重な神橋改修工事と350年ぶり初公開の家光廟の文化遺産を見学し全日程を終了できました。参加者の皆様のご協力に心から感謝いたします。

## 平成13年度第51回青森大会総会・研究協議会

元青森県十和田工業高等学校

岩城 伸行

平成13年度東日本建築教育研究会総会・研究協議会が7月26日～27日青森県三沢市古牧温泉渋沢公園「古牧第二・第三・第四・渋沢文化会館」にて、来賓・招待者・会員合わせて200名を越える参加者により盛会のうちに開催された。

1日目 午前中に理事会、午後から開会式が開催され、磯部光宏大会実行委員長、原田昭会長並びに青森県高等学校長協会会長、青森県高等学校教育研究会工業部会会長の挨拶があり、大会要項に従い文部科学省佐藤義雄教科調査官、花田隆則青森県教育次長の祝辞をいただいた。その後来賓紹介があり、休憩の後、佐藤義雄教科調査官より、「新教育課程の編成と建築教育の展望」と題する講演をいただいた。高等学校の改定のねらい、4本の柱、教育課程の構成、教科・科目の編成、総合的学習のねらい、配慮事項、教科「工業」の評価の観点及びその趣旨等々について、来るべく時代の工業教育の在り方を具体的に指摘した意義深いものであった。休憩の後、共通テーマである「21世紀を拓く建築教育」－高校建築教育再構築への取り組み－についてを基調とし、製図・計画・構造・施工の各分科会がそれぞれのサブテーマを持ち、熱心な協議がなされた。夕刻には、青森県教育庁 橋本 都副参事より心温まる来賓を戴き盛大な教育懇談会が開かれ第1日目の日程を滞りなく終了した。

2日目 全体会において研究発表があった。文部科学省より平成11年から平成14年まで研究開発校として指定を受けた青森県立南部工業高校の高橋和雄先生の「社会の変化に対応した小規模校」について、同じく指定を受け研究に取り組んだ青森県立青森工業高校の蝦名博先生から「コース制を実施しての諸課題」についての研究発表があった。

南部工業高校では学校設定科目、地域連携、生徒の個性を生かす教育等について発表があった。特にテクノボランティア活動の単位認定に向けた学校設定科目の新設及び評価とその在り方等高校建築教育の再構築に向けた意気込みを感じた次第である。

続いて、各分科会の主査の先生方から協議内容のまとめと年間活動内容などについて報告があり、成田秀造青森県総合学校教育センター産業教育課指導主事から現今の教育キーワードである「生きる力、豊かな心」等を基調とした講評をいただいた。講評後すぐ閉会式に入り、原田昭会長より実り多い研究大会であったとの挨拶があり、次期開催県の東京都を代表して関東第一高等学校の吉村正昭校長より平成14年7月25日・26日に江戸川区総合区民ホール・関東第一高校を会場として実施の予定であり、多くの先生方の参加を呼びかけた。最後に磯部光宏大会実行委員長よりお礼の挨拶があり2日間の協議を終了した。午後の研究視察では三内丸山遺跡と古牧温泉渋沢公園の2コースに分かれ見学をし全日程を終了しました。参加者の皆様のご協力に心から感謝いたします。

## 平成14年度第52回東京大会総会・研究協議会

関東第一高等学校

塩澤 泰

平成14年度第52回東日本建築教育研究会東京大会総会・研究協議会が、第1日目7月25日(木)江戸川区総合区民ホール、第2日目7月26日(金)関東第一高等学校にて、来賓・招待者・会員合わせて250名を越える参加者により盛会のうちに開催されました。

前年度から東京都建築教育研究会の会員校12校で準備委員会・実行委員会を設立し、多くの委員に参加していただき準備・検討いたしました。

テーマも、つくられる側の立場から見た建築教育とはどのようなものなのかという主旨から、上記表題にある「これからの建築教育に求められるもの」に決定しました。この表題は、パフレットの表紙に使用したデータをしてお



開会式の様子

ります。CGソフトを導入し、生徒と一緒に表紙を作成しました。

第1日目は理事会の後、開会式が開催され吉村正昭実行委員長・原田昭会長の挨拶に始まり、その後の総会では大会要項に従い議事案件が審議され承認されました。研究協議Ⅰ(全体会)においては・榎木保匡氏の福祉と建築教育に関する講演、佐藤義雄調査官の指導に関する講演をいただき、夕刻には教育懇談会が開かれ、和やかな中にも情報交換などもなされ第1日の日程を滞りなく終了しました。

第2日目は朝から研究協議Ⅱ(分科会)が開催されました。製図分科会から、パネルディスカッション「これからの製図教育にもとめられる手書き製図・CAD製図について」・計画分科会から、講演及び質疑「理想的設計手法の追求ー最近の事例をもとにしてー」・構造分科会から、講演及び質疑「建築を志した若者が建設業界を担ってゆくとき、何をしなければならないか?」・施工分科会から、報告及び質疑「高校生ものづくりコンテストブロック大会」について、の内容で進行了しました。

分科会の後、佐々木哲指導主事からの講評をいただき、閉会式では、堀川忠義新会長(代理)より挨拶、次期開催県の山梨県を代表して加藤正弘校長(代理)より、山梨大会へ多くの先生方が参加されるよう呼びかけがあり、2日間の協議を無事終了いたしました。

初日の前日から、委員の方はビジネスホテルに泊まり朝食もそこに準備にあたったこと、第2日の昼食は本校の家庭科の職員と生徒につくっていただき、委員の方もエプロン姿で手伝っていただき、家庭科室にて食事を取っていただいたこと、都内の建築科の生徒の作品を展示させていただいたこと、そして参加された方々と共に、すばらしい経験をさせていただいたことを感謝いたします。



研究協議会会場



教育懇談会の様子



打ち合わせの様子

## 平成15年度第53回山梨大会総会・研究協議会

元山梨県立甲府工業高等学校

小池 逸朗

この大会は、山梨では27年ぶり（S33，S51）3回目の開催であった。甲府工業高校の建築科主任として、2年目に迎えた大会であったが、準備は前年3月から始まっていた。学科主任を引き継ぎ覚悟はしていたものの、全国大会の事務局長だといわれ、一時腰の引ける思いであった。大会準備では、前

回東京大会や青森大会の事務局長から資料提供を頂き参考としたり、各県理事や常任理事、特に各分科会主査の先生方にはアドバイスを頂いたりして準備に当たった。幸い、小生平成元年より、施行委員会の委員として分科会に係っていたので、研究会の組織や分科会活動について多少知っており、顔見知りの先生も多く大変心強かった。当時、東日本本部事務局長 岩見立也 先生には、準備から大会終了まで公私にわたり大変お世話になった。また、中央工学校 参与 原田静男 氏には、雑誌「建設業しんこう」への大会報告の投稿等では貴重なアドバイスを頂いた。大会には佐藤義雄教科調査官、数野山梨県教育長の出席を頂いたが、出席の依頼や時間設定などに大変気を使ったことを覚えている。

大会は「新たな建築教育を目指して」をテーマとして、各分科会とも熱心な議論が交わされた。平成15年度は、新学習指導要領が施行されていた頃で、佐藤義雄調査官の講話を熱心に聞いた覚えがある。調査官は、本研究会の活動を高く評価された後、「これからの建築教育がどうあるべきか、どういう人材を産業界に送り出すのか」といった議論が少ないことや「2級建築士を目指さないもっと軽い建築教育があってもいいのではないか」と提言されたことを鮮明に覚えている。高校生ものづくり大会も始まったばかりで、参加した先生方も大変意欲的で熱のこもった大会であった。大会要項や参加申込書を、初めてホームページにUPしたり、大会後の視察研修旅行を廃止したりと新しい試みも行われた。狭い会場の一角に、企業の展示と模型や製図、プランターなど生徒の作品を展示したこと、懇親会では一升瓶のワインを振舞ったことなど懐かしく思い出される。大会PRと協賛金のお願いで、土橋英俊大会会長と県内企業を訪問したことも良い思い出である。大会には、山梨県内3校の建築系の先生方34名が一致協力して準備・運営に当たった。大会後、建築系の先生方の連携も強まり、分科会の活動が盛んになった。各種講習会の開催や高校生ものづくり大会への参加、3級技能検定試験の指導など、今まで以上に積極的な活動が見られようになった。この大会は本県の建築教育に良い刺激となったといえる。また、大会運営は大変ではあったが、小生にとって貴重な経験となった。改めて、ご協力を頂いた先生方に感謝するとともに、東日本建築教育研究会の益々の発展を祈念申し上げます。

## 平成16年度第54回群馬大会総会・研究協議会

元群馬県立高崎工業高等学校

石黒 由美

平成16年度第54回東日本建築教育研究会総会・研究協議会（群馬大会）が、伊香保温泉の『ホテル天坊』にて、平成16年7月26日（月）～27日（火）に行われた。来賓・招待者・会員合わせて200名を超えた参加者があり、盛会に行われた。

最近の工業教育を取り巻く環境は、社会の構造変化や景気不振さらに少子化という影響を強く受け、学科の改編、より深刻な生徒の多様化などにより大きな変革を求められている昨今である。このような情勢を踏まえ群馬大会では『時代に即した効果的な建築教育を目指して』というテーマを掲げ、新しい建築教育に向けた熱意ある研究協議がなされた。

第1日目は午前中に都道府県理事会が行われ、午後にはまず開会行事が行われ諸団体よりご挨拶をいただくと共に、来賓紹介が行われた。

その後総会が行われ、役員・事業・会計関係の報告・計画が提案され承認された。特に今年度の特徴として、①ブ

ロック活動、②個人会員制度が提案され、併せて規約改正を含めて承認された。総会に引き続き東京商工会議所より「福祉住環境コーディネーター検定試験®」の資格について説明頂き、今後の資格指導の参考となる紹介をして頂いた。

その後前述した共通テーマを基本に、4分科会（製図・計画・構造・施工）別にそれぞれのテーマで講演・研究発表・ディスカッションが熱心に行われた。

2日目の最初は「研究発表」として、次期開催県である岐阜県を代表して前橋先生（中津川工高）、さらに開催県群馬として寺林先生（桐生工高）、村田校長（前橋工高）の3先生より発表があった。引き続き第1日目に行われた分科会の報告を行った。

群馬県教育委員会より講評頂いた後、閉会行事を行い群馬大会を盛会の内に終了した。

群馬大会を総括すると、会議中の熱心な質問もさることながら、休憩時間や教育懇談会などにおいても積極的な情報交換、意見交流が行われ大変有意義な大会となった。また新しい活動としてブロック活動が承認され、今後の活動を期待する次第である。

大会運営は群馬県内建築科設置校6校で実行委員会を構成し、高崎工高を事務局校として担当県として活動してきました。当日は遠路から時間をかけて来県されたり、1週間前の台風による風水害の対応に追われる中参加して頂いたり、多方面からご支援・ご協力を頂き深く感謝する次第です。不行き届きの点も多々あったと思いますが、紙面をお借りしてお詫び申し上げます。また、来年度の岐阜大会（H17.7.28（木）-29（金）：岐阜市）がさらに充実した大会となりますようにお祈りすると共に、群馬大会が無事終了したことに對しお礼申し上げる次第です。

## 平成17年度第55回岐阜大会総会・研究協議会

元岐阜県立岐南工業高等学校

宮田 忠夫

平成17年度第55回東日本建築教育研究会総会・研究協議会（岐阜大会）が、長良川畔の岐阜観光ホテル『十八楼』にて、平成17年7月28日（木）～29日（金）に開催された。東日本地区1都1道21県から建築系教員179名と県内外の来賓及び企業39名が一堂に会し、日頃の研究成果、貴重な体験発表及び各種情報交換ができた。

学習指導要領の方向性が大きく変わろうとしている現状を踏まえ、工業教育が抱えている課題や問題点を明確にし、現在非常に高まっているニーズに応え『建築教育に求められる社会貢献』という共通テーマで、これからの建築教育に向けた熱心な研究協議がなされた。

第1日目は午前中に都道府県理事会が行われ、午後の閉会式では国土交通省をはじめ多くのご来賓よりご挨拶をいたさんと共に、来賓紹介が行われた。その後総会においては、事業・会計・役員の報告、事業計画が承認された。今年度は本部事務局を小石川工から田無工へ引き継がれた。また、佐藤会長の退任に際し、その功績を称え感謝状が贈呈された。その後前述した共通テーマのもとに、製図・計画・構造・施工の4分科会に分かれて、それぞれのテーマで講演・研究発表・ディスカッションが熱心に行われた。

2日目の最初に研究発表として、次期開催県である静岡県を代表して野末先生（天竜林業高）、さらに開催県の岐阜県を代表して恩田先生（関商工）の2先生より発表があった。次には、前日に行われた4分科会の報告を各主査より行い、岐阜県教育委員会より講評をいただいた。続いて昼食の後、愛知県国際博推進局の松井氏と文部科学省教科調査官の池守氏より講演をいただいた後、閉会式を行い岐阜大会を盛会の内に終了した。

岐阜大会を総括すると、アスベストに代表されるような環境問題や高齢化・福祉問題等これからの建築教育に求められる社会貢献の在り方について、いろいろな視点で検討する絶好の機会となり、大変有意義な大会であった。

大会運営は岐阜県内建築系学科7校の41名で実行委員会を組織し、岐南工を事務局校として、活動してきた。前年度の群馬大会の視察段階では、まだ手探りの状態であり、前々年度の事務局長の小池先生（甲府工）や前年度の事務局長の石黒先生（前橋工）に運営資料等を提供していただき、大変参考となりました。

大会当日は前々日の台風を心配しましたが、台風一過の快晴の中、清流長良川と織田信長ゆかりの岐阜城を望む岐阜市において、このような歴史ある大会を盛会裏に終えることができました。不行き届きの点多々あったことと思うが、紙面をお借りしてお詫び申し上げます。来年度の静岡大会が、さらに充実した大会となるように祈念すると共に、今回の岐阜大会に対して、ご支援・ご協力をいただいた皆様方に深くお礼を申し上げる次第です。

## 平成18年度第56回静岡大会総会・研究協議会

静岡県立浜松工業高等学校

名倉 悦男

平成18年度 第56回東日本建築教育研究会総会・研究協議会（静岡大会）が、平成18年8月1日（火）～2日（水）、静岡文化芸術大学を会場に開催され、東日本地区1都1道21県から建築系教員167名と県内外の来賓及び企業29名が一堂に会し、日頃の研究成果、貴重な体験発表及び各種情報交換ができました。

工業教育が抱えている課題や問題点を明確にしながら、「意欲を高める建築教育のあり方」という共通テーマで、これからの建築教育に向けた熱心な研究協議がなされました。

第1日目は、午前中に本部事務局主査会及び都道府県理事会が行われ、午後の開会式では静岡県教育委員会をはじめ多くのご来賓よりご挨拶をいただくと共に、大会実行委員長より来賓紹介が行われました。その後の総会では、事業・会計決算・会計監査・会則改正・役員改選の報告があり、事業計画・予算案が承認されましたが、会則改正によって、今年度より法規委員会が法規分科会としての活動を展開できることになりました。その後、分科会及び教材・編集・製図コンクール運営・資格取得推進・広報の各委員会からの活動報告と諸連絡で閉会し、前述した共通テーマのもとに製図・計画・構造・施工の4分科会に移って研究発表・ディスカッションが熱心に行われました。また、第1日目の締めとして文部科学省教科調査官の池守先生より中央教育審議会教育課程部会の最新情報をお聞きすることができました。

2日目は、最初に次期開催県となる岩手県を代表して石井先生（大船渡工高）、さらに開催県の静岡県を代表して五十嵐先生（修善寺工高）の2先生より研究発表、続いて各分科会主査より前日に行われた4分科会の報告が行われ、

静岡県教育委員会より講評をいただきました。その後、静岡文化芸術大学大学院の川口教授による講演、閉会式を行い静岡大会を盛会の内に終了することができました。

静岡大会を総括すると、進路意識・興味関心・理解力・創造力等、多様化する生徒の資質をいかに把握し、意欲を高めていくかについて、様々な視点で検討する絶好の機会となり、たいへん有意義な大会であったと思われま

す。大会運営は、静岡県内建築系学科6校の31名による実行委員会を組織し、浜松工高を事務局校として活動してきました。できる限り経費を押さえた簡素な運営を目指し、案内表示等は、すべて手作りとし

ました。大会当日は、酷暑の心配をよそにおだやかな天候に恵まれる中、盛会裏に終えることができました。不行き届きの点も多々あったことと思いますが、紙面をお借りしてお詫び申し上げます。来年度の岩手大会が、さらに充実した大会となるように祈念すると共に、静岡大会に対しまして、ご支援ご協力いただいた皆様方に深くお礼を申し上げる次第です。

## 平成19年度第57回岩手大会総会・研究協議会

岩手県立久慈工業高等学校

外里 昌治

平成19年度 第57回東日本建築教育研究会総会・研究協議会（岩手大会）は、平成19年7月26日（木）～27日（金）、つなぎ温泉ホテル大観を会場に開催され、東日本地区1都1道21県から建築系教員172名と県内外の来賓及び企業29名が一堂に会し、日頃の研究成果、貴重な体験発表及び各種情報交換が行われました。

工業教育が抱えている課題や問題点を明確にしなが

ら、「実践に根ざした建築教育の再構築」という共通テーマで、これからの建築教育に向けた熱心な研究協議がなされました。第1日目は、午前中に本部事務局主査会及び都道府県理事会が行われ、午後の開会式では岩手県教育委員会をはじめ多くのご来賓よりご挨拶をいただくと共に、大会実行委員長より来賓紹介が行われました。総会においては、事業・会計決算・会計監査・会則改正・役員改選の報告があり、事業計画・予算案が承認されました。その後、分科会及び教材・編集・製図コンクール運営・資格取得推進・広報の各委員会からの活動報告と諸連絡を行い、総会を終えました。研究協議Iでは、前述した共通テーマのもとに製図・計画・構造・施工と本年度より法規分科会を加えた5分科会に分かれて、研究発表・ディスカッションが熱心に行われました。

2日目は、最初に文部科学省教科調査官の池守先生より講演をいただき、中央教育審議会教育課程部会の最新情報をお聞きすることができました。次に次期開催となる北陸3県を代表して福井県の橋本先生（武生工高）、さらに開催県の岩手県を代表して野田先生（久慈工高）の2先生より研究発表、続いて各分科会主査より前日に行われた5分科会の報告が行われ、文部科学省教科調査官の池守先生より講評をいただきました。その後、休憩の間に本年度より計画・実施されたポスターセッションを行いました。最後に閉会式を行い岩手大会を盛会の内に終了することができました。

岩手大会を総括すると、実社会が求めている建築教育への対応、特に近年多発している地震等の災害に対応した建築教育の在り方について、様々な視点で検討する絶好の機会となり、たいへん有意義な大会であったと思われま

大会運営は、岩手県内建築系学科7校の38名による実行委員会を組織し、盛岡工高を事務局校として活動してきました。前年度静岡大会の視察段階では、まだ手探りの状態でしたが、岐阜大会事務局長の宮田先生（岐南工高）や静岡大会事務局長の柳原先生（浜松工高）に運営資料等を提供していただき、大変参考となりました。

大会当日は、梅雨の時季とは思えぬほどの快晴の中、盛会裏に終えることができました。

第57回の東日本建築教育研究会総会・研究協議会が岩手で開催されることが決定して以来、何をどうしていいのかも分からないまま、多くの不安を抱えながら準備を進め当日を迎えましたが、東日本建築教育研究会会長能智先生をはじめ、各役員・理事・主査等々多くの先生方のご指導、ご支援を頂き、また岩手県内の各高校から実行委員として参加して頂いた先生方のご協力により、どうにか無事に岩手大会を終了することができました。

岩手大会に対しまして、ご支援ご協力をいただいた皆様方に深くお礼を申し上げます。

何年後かにまた岩手大会を開催できるよう、岩手県の工業高校に建築科が存続していることを希望し第57回東日本建築教育研究会総会・研究協議会岩手大会の報告とします。

## 平成20年度第58回北陸大会総会・研究協議会

石川県立小松工業高等学校

袖野 貴義

### 1. 共通テーマ

『生徒の可能性を引き出す建築教育』

—かわるもの かわらないもの—

### 2. 日程・会場・参加人数

日 程：平成20年7月31日（木）

～8月1日（金）

会 場：金沢歌劇座（金沢市下本多町）

参加人数：197名

### 3. 来賓者講話

「建設産業をめぐる最近の情勢について」

国土交通省総合政策局建設市場整備課長 石崎 仁志

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 池守 滋

### 4. 会長引継ぎ

元東京都立田無工業高等学校長 能智 功 会長 から

東京都立葛西工業高等学校長 佐藤 則夫 会長へ

### 5. 総会運営の裏話

昭和62年に石川大会が行われて以来21年ぶりにここ石川県で総会が開催されることを知ったのは、現在の小松工業高校に赴任した平成17年だった。当時の県理事から聞いたのだが、「能登で開催したいと思っている」と、当時の県理事はとても意気込んでいた。

しかし、翌平成18年、事件が起こった。当時の県理事が転勤。しかも、建築科ではない。そう、会員校ではないの



である。この先どうなるのであろうか。不安ばかり募る。

平成18年10月、「そろそろ幹事校を決めない」という声上がり、話合いの結果本校が引受けることになったのである。

各校の役割分担、資金面での調達計画などを決めて動き始めた時、本部から「北陸大会」となり、3県で運営してほしいとの連絡が入った。それで新たに組織を組直し、各校の役割分担、資金調達計画を練直した。岩手大会の会場で初めて北陸3県の先生方と話合いを行った。隣県とはいえ、なかなか話し合いの時間をとることは難しい。よって、大会運営全般を石川県で、各分科会を富山・福井両県にお願いし、資金面は3県で協力し合うことにした。

何をするにも、3県で足並みを揃えなければならない。各県教育委員会（福井県は教育庁）、建設業協会・建築士会などの後援依頼。また、協賛依頼などなど。文書の内容は他県に配慮するような形に変えた。隣県の担当の先生方には大変ご苦勞をおかけし、また配慮もして頂いた。

また大会3日前、金沢市を流れる浅野川が氾濫し大きな被害が出た。会員の方々からの問合せも多数あった。

いろいろあったが、大会当日を迎え、無事に2日間の日程をこなすことができた。関係各位、各校の皆様方、後援・協賛をいただいた団体等に感謝を申し上げたい。

## 6. 終りに

平成22年3月。統廃合や学科改編により石川県立珠洲実業高校・金沢市立工業高校定時制廃校。県立小松工業高校建築科廃科。よって、「建築科」として科を持つのは金沢市立工業高校1校となった。

これから先、ここ石川県のように統廃合や学科改編によって様々な変革を遂げていくのだろう。すると、総会を運営するのが単県では難しくなり複数県での開催や他科の協力を得ながらというケースが増えてくると思われる。しかし、私の経験上の提案であるが、開催県は単県で、隣県は協力で行うのが望ましいと考える。前述したように、他県への気配りが多いためである。また、資金面でもできるだけ質素にできる範囲でやればよいと思う。

この会は建築を志す高校生にとって、また教員にとってとても大切な会である。今後もこの活動を後世に伝え残していかなければならないことはとても多い。そのためにも本部役員をはじめ、会員校の皆様にも期待したいと思う。

それを私自身、身を持って体験できた貴重な時間だったことを付け加えます。



## 平成21年度第59回埼玉大会総会・研究協議会

埼玉大会事務局長 埼玉県立春日部工業高等学校  
吉 城 守

### 1. はじめに

昭和63年に埼玉大会が行われて以来、埼玉県で21年ぶり3回目の「東日本建築教育研究会・総会並びに研究協議会」が、さいたま市の「ラフレさいたま」を会場に開催された。

川越工業高等学校長の田中良司先生を実行委員長とし、県内5校（大宮工全・定、春日部工、川越工、熊谷工）の

職員。建築系管理職並びに東日本建築研究会準会員の2名の先生方にも協力をいただき、大会の準備・運営を行った。

## 2. 本研究会の目的

本会は工業教育、特に建築教育に関する研究を行い、その向上改善を図ると共に、相互の連絡を密にすることを目的とする。

## 3. 日程・会場・参加人数

日 程：平成21年7月30日（木）～7月31日（金）

会 場：ラフレさいたま（さいたま新都心）

参加人数：203名

（内訳 会員164名、賛助会員31名、来賓8名）



ラフレさいたま



看板

## 4. 共通テーマ

『未来へはばたく建築教育』－原点を見つめて－

## 5. 大会概要

《第1日目 7月30日（木）》

### ○主査会

大会日程、進行などについて最終確認。

### ○都道県理事会

挨拶、各理事紹介、総会内容の確認、各ブロックでの活動報告。

### ○開会式

来賓として、

全国工業高等学校長協会 村田敬一事務局次長

埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課 細田宏課長

埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課

持田雄一指導主事

埼玉県工業高等学校長会 渡辺勉会長

埼玉県工業教育研究会 新井誠会長

社団法人埼玉建築士会 塩川通正副会長

社団法人埼玉建築設計監理協会 桑子喬会長

西日本工高建築連盟 矢谷元林先生

以上の先生方の出席を得て、開会式が行われた。



開会式

### ○総会

事業・会計決算・役員改選の報告があり、事業計画・予算案が承認された。今年3月に異動された佐藤則夫会長（東京都立蒲田高等学校）から平林博新会長（東京都立葛西工業高校校長）への会長引き継ぎが行われ、新会長から

ご挨拶をいただいた。

#### ○講演 I

「工業高等学校の学習指導要領に基づく教育課程の変遷」

日本建築学会建築教育本委員会委員 三原 斉先生

工業高校の教育課程の歴史を墨田工業高校の例をもとに、分かりやすくご講演いただいた。

戦後、学習指導要領の変遷とともに、人材養成の目標が変化して行った。今後の課題として、人材養成の目標の明確化と教育課程の再検討が重要である。建築学会建築教育本委員会では、建築系科目の変遷を今後も調査し、将来必要とされる人材を分析して、それを教育現場へフィードバックさせる取組みを続けて行く。



講演 I

#### ○研究協議 I (分科会)

・製図分科会 「建築製図の在り方と評価のポイント-3」 -コンペ指導をとおして-

製図分科会では、コンペ指導をとおして自分の考え（アイデア）を図面や模型・透視図などで表現する。また、相手に自分の考えを伝える（プレゼンテーション）訓練をし、建築に関する総合的な力を身につけ、建築の楽しさを生徒に実感させる取組みを行っている。今回、事例に基づき、指導法、卒業生の声、卒業後の指導者の所感（ビデオレター）等の発表を行った。また、発表後、全国高校生建築設計競技優秀作品展を見学した。



製図分科会

・計画分科会 「住宅設計の評価指標について」

計画分科会では、4名を1グループとして、5つのグループに分かれ、住宅設計の評価を行った。今回は「夫婦寝室（洋室）の設計」という課題で実際に生徒が計画した平面図を基に、各先生方が「①動作空間 ②環境（開口部）③配置（家具・関係諸室）④収納 ⑤設計趣旨（アイデア）」の5つの項目、計10点で評価し、評価に対する意見交換を行った。

・法規分科会 「ポイント解説：2級建築施工管理技士の制度・法令について」

法規分科会では、財団法人地域開発研究所の深谷氏を講師に迎え、「2級技術検定と施工技術者試験の一本化に、受験率と合格率推移等」について、ご講演を頂いた。その後、質疑並びに各校の指導方法や実施状況について意見交換を行った。

・構造分科会 「JW\_CADによる問題作成Ⅱ」

構造分科会では、北陸大会アンケート集計結果報告の後、準備からレイヤを使った解答作成方法、図登録の活用について、配布CDに沿って、わかりやすく説明を行った。フリーソフトのJW\_CADを構造設計等の問題作成に利用していくことにより、「1、作問例の共有化。2、図登録の活用による手軽な問題作成が可能である。」との発表があった。また、先生方でデータを共有し活用していただけるように、研究会のホームページにアップしていく方向である。

・施工分科会 「3級技能検定（建築大工工事）について」

施工分科会では、埼玉県立大宮工業高等学校の権田先生より、3級技能検定（建築大工工事）の取組について発表があった。動画を交えながら作業の流れに沿って重要事項や注意点の話があり、特に、墨付け、加工、組立について

は、細かい説明があった。

○教育懇談会「ラフレさいたま 櫻ホール」

会員並びに賛助会員、来賓を含め約150名で、活発な情報交換が行われた。

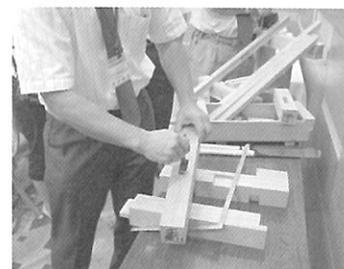
《第2日目 7月31日（金）》

○講演Ⅱ

「建設業の今」

国土交通省総合政策局建設市場整備課長補佐 八木俊樹先生

建設現場の死亡災害発生状況、労働環境、年間総賃金額、年間所定内労働時間・超過実労働時間等、生徒達が卒業後直面する建設業界の現状を詳しく説明していただいた。また、建設業人材確保や育成モデル構築支援事業の状況などについても説明があった。



施工分科会



講演Ⅱ

○研究協議Ⅱ（全体会）

・研究発表

「地域との連携を目指して」

福島県立会津工業高等学校 建築インテリア科 池上邦彦

会津ものづくり人材育成事業、デュアルシステムものづくり実践の授業、セミコン・ジャパン2008への出展、ものづくり研究WG（地元企業技術者と共同の新ツールの開発）、ものづくりフェア・ものづくり学園祭への参加等、会津工業高校のさまざまな地域連携の取組みを紹介され、その中で、建築インテリア科が独自に地域との連携として取組んでいる中心商店街活性化案や茶室「麟鶴（りんかく）」の組み立て実演などの発表があった。発表の中で、「なぜこのような地域との連携やるのか？」

「学校の宣伝。生徒の意識の向上。」という部分は多くの学校でも参考になったと思います。また、「地域との連携を図るには？」「地域出身の先生の力を使う。行政をうまく使う。」という地方ならではの内容もあった。



研究発表（池上）

「地域産業の担い手育成プロジェクトについて」

埼玉県立熊谷工業高等学校 建築科 吉野博行

熊谷工業高校と熊谷商工会議所・企業等の連携事業である「地域産業の担い手育成プロジェクト」について発表があった。具体的には、企業へのアンケート調査、全生徒へのインターンシップの実施、熊工版「デュアルシステム」の実施、高度熟練技能者による実践指導、ものづくり座談会の実施等の取組みについて説明があり、「地域産業の担い手育成プロジェクト」を行った結果、教育現場と社会をつなぐ柱となった。今後の課題は、地元を根を張り、地元企業とともに生きる「中堅技能・技術者」の育成が必要だと報告された。



研究発表（吉野）

・分科会報告

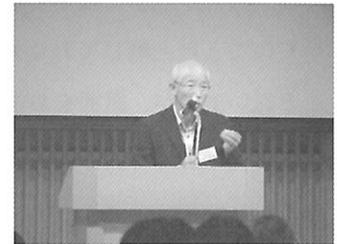
各主査より前日に行われた分科会の報告があった。どの分科会も3年を1つの区切りとして研究を進めている。特

に3年目に当たる分科会は結果と反省、今後の課題などが報告された。

### ○講評

全国工業高等学校長協会村田敬一事務局次長並びに埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課持田雄一指導主事より研究発表を含めた、本研究協議会の講評をいただいた。

全工協・村田先生の講評において、各分科会の取り組みについて詳しく理解することができた。現在行っている建築教育が、社会のニーズに合った内容かどうか。また、企業・中学生・保護者が求めている建築教育のあり方がどうかを調査研究してほしい。そして、5分科会の内容をどのように組み合わせて行くのかを協議した方が良い。新学習指導要領については、環境エネルギーに関して、建築計画の一分野だけで取り上げるのではなく、構造としての環境等を踏まえ、建築全体の中で取り上げてほしいとのご指導があった。



講評



開催県挨拶

### ○閉会式

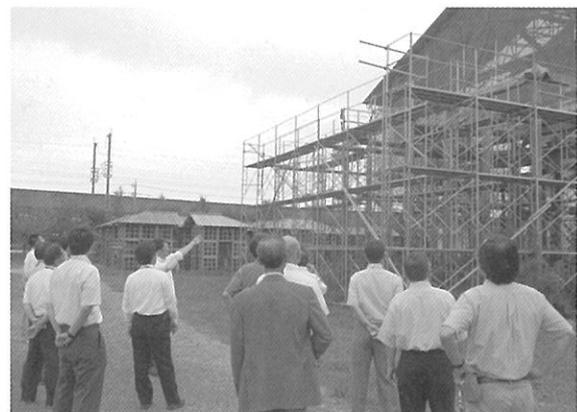
会長挨拶、次期開催県代表挨拶、開催県挨拶

### ○教育視察

教育視察として、埼玉県内にある日本工業大学並びに、ものづくり大学の施設見学を行った。日本工業大学・ものづくり大学それぞれ約40名の参加があり、有意義な見学会となった。



日本工業大学視察風景



ものづくり大学 視察風景

## 6. おわりに

埼玉大会の運営に際し、約2年前から準備委員会を立ち上げ、昨年度からは実行委員会としてこの日に臨みました。実行委員長の田中良司先生（川越工業高等学校長）を中心に各校の代表が集まり準備を行い、大会に埼玉県内の建築系職員が一致団結をして運営に臨むことが出来たことは、県内職員にとって、大変意味のある大会になったと感じています。特に若い先生方には、東日本建築教育研究会がどのような取組みを行っているのか、知る良い機会になったと思います。私自身、前回の埼玉大会は採用1年目の初任者であり、東日本建築教育研究会がどのような会であることも分からないまま、大会運営に参加したことを覚えています。まさか21年後の大会で事務局長を仰せつかるとは夢にも思いませんでした。また、前埼玉大会事務局長の加藤昭夫先生が私の恩師であったことも、何かの縁だと感じて

おります。

この大会に事務局長として準備から携われたことで、多くの先生方や関係者の方々と出会う事ができ、また、ご指導いただいたことは、大変勉強になったと感じております。特に本部事務局長の鈴木先生（葛西工高）や北陸大会事務局長の袖野先生（小松工高）に運営資料や助言をいただき、大変参考になりました。

埼玉大会が無事に終了できたことは、本部役員の先生方を始め、賛助会員様など多くの皆様方のご支援ご協力があったことだと感じております。改めて感謝し、お礼申し上げます。また、皆様には不行き届きな点が多々あったことと思いますが、紙面をお借りしてお詫び申し上げます。

来年度の福島大会が、さらに充実した大会となるよう祈念いたします。

本大会は、運営費の一部を埼玉県教育委員会・埼玉県産業教育振興会・埼玉県教育公務員弘済会から助成いただきました。また、賛助会員様並びに県内関係団体・企業様からご協賛いただきました。厚く御礼申し上げます。

# 会員の声

## 16年度夏期研究協議会に参加して

秋田県立能代工業高等学校

畠山 司

平成16年7月29日から30日の2日間にわたり、東京都品川区にある東京都立品川技術専門校において「労働安全衛生法による技能講習」が、東日本各地から建築科の先生方を中心に54名の参加者で行われました。

第1日目 7月29日(木)	8:00~8:30	受付
	8:30~8:55	開会式
	9:00~12:00	講習
	12:00~12:40	昼食
	12:40~17:40	講習
第2日目 7月30日(金)	9:00~12:00	講習
	12:00~12:40	昼食
	12:40~16:40	講習
	16:40~17:40	検定
	18:00~18:15	閉会式

以上のような日程で講習会が行われました。この講習は、固定された木工機械を3台以上所有する職場においては、労働安全衛生法による木材加工用技能講習を修了した管理者を置かなければならないということで、木工機械の実務経験3年以上の教職員を対象に行われました。夏休みが始まり、少し気持ちがゆるんできた矢先の講習会で、しかも暑さも厳しい盛りでしたので、自分自身に少し気合いを入れながら講習会に望みました。

まず1日目の講習会では、小玉先生による学科講習が行われました。小玉先生はペースメーカーを入れており、しかも年配の方でしたので多少心配な面もありましたが、とても元気で情熱のある先生でした。また、職人気質のある先生で、自分の豊富な経験をもとに木工機械の構造、安全装置、保守点検まで自分が今まで経験してきた事例を上げながら、実に詳しく丁寧に指導して頂きました。特にギヤングリップパーという機械のことでは、講習会場が爆笑することもありました。また、自分達が休憩や昼食を済ませて帰ってくると、次の講義の為の板書等を済ませているという状況で、本当にきちんとしていました。

後でわかったのですが、小玉先生は83歳で今回の講習で『最後』という締めくくりの講義だったそうです。とても驚き、ただただ頭の下がる想いでした。

2日目は品川技術専門校の筒井先生より安全教育や、治具の製作と使用方法をプロジェクターを用いて指導して頂いたり、実習場を使用しルーターマシンの使用方法や丸のこ盤の口板の加工方法などを2班に分かれ実技指導して頂きました。途中、いろんな加工方法の質問にも解りやすくお答えいただき大変参考になりました。実習場にある機械

はとても整備されており、また新しい機械も入っているようで羨ましい限りでした。そして何より当然のごとく空調設備（エアコン）が整備されていることが何とも羨ましかった。

さらに、少しの時間ではありましたが木工技術科の実習の授業を見学させて頂きました。生徒が真剣に小引き出しの製作をしていました。各部材に工具を使って墨付けをしたり、ノミでほぞ穴などの加工をしている生徒の目の輝きに驚かされました。

また、1日目に引き続き小玉先生に関係法令等も詳しく指導して頂きました。全講義が終了後は4択問題の学科試験が行われたのですが、この2日間の成果が問われるということもあり、先生方もみな必死になって問題と格闘していました。幸い受講者54名全員が、木材加工用機械作業主任者に合格することができ、無事講習会を終えることが出来ました。

このようなことで2日間の日程を終了したのですが、この講習を通して各先生方の得たものは非常に大きいものだったと思います。物づくりに対する心構えだけではなく、その前に安全指導というものを改めて感じさせられた様な気がします。ふだん自分達が無気なく使っている木工機械は大変便利なものであるが、反面その怖さは計り知れないものだということです。今回の講習会に参加した先生方全員が講習の成果を表すためにも、絶対怪我のないように授業を進めて行かなければなりません。また、物づくりの楽しさや難しさも同時に教えていきながら、今回の貴重な経験を授業を通して生徒に伝えていくことが我々の使命ではないかと思っています。さらに、今回の講習が無駄にならないようにこれから自分達もいろんな場面で努力していかなければならないと切に感じているところです。

最後に今回の研修会にあたり、会場の準備や資料の作成などにご苦労された、担当校ならびに施工分科会の先生方に心から感謝申し上げますとともに、研修会に参加された先生方の益々のご活躍を祈念いたしまして参加の感想といたします。

## 17年度夏期研究協議会に参加して

北海道小樽工業高等学校

平井 柳太

平成17年8月1日から2日にわたり、千葉県市川市にある千葉県立市川工業高等学校において、『木造耐震診断研修会』が実施され、東日本各地から46名の先生方が研修に参加されました。

日程は以下の通りです。

### 日 程

第1日目	受 付	12:30~13:00
	開会式	13:00~13:15
	木造耐震診断研修Ⅰ・Ⅱ	13:15~17:30
	教育懇談会	18:00~20:00
第2日目	受 付	9:00~9:30
	木造耐震診断研修Ⅲ	9:30~12:00
	昼 食	12:00~13:00

木造耐震診断演習	13:00～17:00
(市川市民が参加しての演習)	
閉会式・記念撮影	17:00～17:30
解 散	17:30

今回の研修会では、「木造耐震診断研修会」と題して特別講師の八島先生により、耐震診断ソフトによる演習を中心に、耐震設計法の理論や方法の研修。また、千葉県立市川工業高等学校での市民をまじえた耐震診断の演習の取り組みなど豊富な内容でした。

1日目は、市川工業高校での耐震診断（課題研究）の取り組み紹介や地震の発生メカニズム、過去の住宅被害耐震診断の方法の紹介がありました。市川工業高校の生徒たちによる家屋の耐震診断活動が紹介され、本格的な活動に驚きを感じました。その後、八島先生の指導により、地震のメカニズムなどの説明後、国土交通省監修によるフリーソフトを使用し演習が行われました。実際に各先生方の持参した平面図により耐震診断の体験を行いました。各平面図により入力時間が違いましたが、補助の生徒たちに聞きながらの作業となりました。公開講座で鍛えたせいかわ生徒たちの適切なアドバイスに驚きを感じながらの入力作業となりました。自邸の診断結果は、少々心配ではありましたが、無事診断することができました。休憩を挟み続いて、購入図書『耐震診断』の紹介と、新耐震設計と限界耐力計算（伝統建築）と題し講義がありました。この研修では、実際に伝統建築を現地調査し耐震診断を行った事例の紹介がありました。その中で伝統建築の地震に対する強さや、生徒達の真剣な取り組みが紹介され驚きを感じました。その他に八島先生による既存住宅の耐震補強の紹介や、木造軸組の荷重試験の紹介がありました。八島先生の耐震補強は鉄骨を使いコスト重視の補強という説明がありました。私の知識の不足もありますが、木造住宅を外部または、内部より鉄骨によって補強する事例は初めて勉強させていただきました。木造軸組の荷重試験も本格的で、このような実験ができることに驚きを感じました。

2日目は、(財)日本建築防災協会の一般診断法と演習、市川工業高校での公開講座と題して行われました。

八島先生の作成したフリーソフト『「木造住宅の耐震診断と補強方法」(改訂版)日本建築防災協会に準拠して作成したソフト』の説明及び入力の紹介がありました。

昼食をはさみ、一般市民向け公開講座「我が家の耐震診断」が行われました。地震メカニズムの説明があった後、一般市民が真剣に間取りを入力し耐震診断を行っていました。ここでも市川工業高校の生徒たちが活躍していました。市民と生徒たちが一体となり、講座に取り組む姿は真剣そのものでした。また、研修に参加された先生方も市民講座に混じり体験しました。参加市民の年齢構成もさまざまに地震に対する関心の強さを改めて感じました。ここでは紹介できませんが、そのほかの公開講座の様子や、耐震診断に対する取り組みは大変勉強になりました。さらに、少しの時間ではありますが学校内の見学をさせていただきました。生徒が製作したとは思えないような精密な神輿や木工作品には感心しました。機会があれば製作風景も見学したいとも思いました。

2日間のこの講習会を通して各先生方の得たものは、非常に多くたいへん参考になったのではないかと思います。

私がこの研修に参加したきっかけは、2003年北海道十勝沖地震を経験し地震の怖さを体験したからです。建築に携わる者として地震に対して認識が不足していたようにも思います。高校生が耐震診断を通し地域住民の安全を考えるきっかけとして、また地域と連携した開かれた工業高校を作り上げることででき本当にすばらしい講座、授業の取り組みだと思いました。講座、授業の展開には市川工業の先生方や講師の先生方の大変な努力があったのではないかと思います。地域に密着した専門高校のあり方、専門教育に対する考えかたを改めて考えさせられた様な気がし

ます。今回の研修を通して得たものを、授業にとおして少しでも生徒に還元できればと考えています。さらに、このたびの研修が無駄にならないように努力、勉強していかねばならないと感じています。

最後に今回の研修会にあたり、会場の準備、資料の作成にご苦勞された、担当校ならびに構造分科会の先生方から感謝申し上げますとともに、研修会に参加された先生方の益々のご活躍を祈念いたしまして参加の感想といたします。

## 18年度夏期研究協議会に参加して

石川県金沢市立工業高等学校

中田 智晴

平成18年7月25日から26日の2日間にわたり、つくば市で夏期研究協議会が実施され、東日本各地1都13県から27名の先生方が参加されました。UR都市再生機構茨城地域支社をスタートし『建築博物館都市つくばを歩く』という内容で、つくばの街並みをウォッチングするという例年とは違った趣向で大変有意義な研修会でした。

日程は下記の通りです。

日 程		
第1日目	受 付	13:00~13:30
	つくば開発の概要説明	13:30~14:30
	地域冷暖房システム	14:30~15:15
	葛城地区見学	15:30~16:45
	質疑応答 解散	16:45~17:00
	教育懇談会	17:30~19:30
第2日目	受 付	9:00~9:20
	建築研究所見学	10:00~11:30
	街並みウォッチング	11:30~16:30
	昼食 (メモリーズ)	

1日目は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社ニュータウン事業部TX事業計画チームの関根様により、つくば開発の概要を、都市・自然・知を融合しつくばスタイルをつくり出そうとしているという説明を受けたのち、1年前に完成したTX沿線で街づくりが進められている葛城地区を見学しました。

葛城地区は国の機関や研究機関につとめる研究者の社宅や集合住宅が中心に建築されているそうです。その先には地域冷暖房システムを見学し、概要、設備、供給先の説明を受けた後、施設も見学しました。

また、『つくばフェスタ』というイベントの中で建設された鶴太郎ハウスや現在は移転しわずかに痕跡を残す自動車研修所高速周回道路、つくば万博の跡地を見学しました。日が沈んでからは教育懇談会会場から南第3駐車場の



ライトアップを見学しました。

2日目は、独立行政法人建築研究所を訪れ、建築研究所全体の説明を受けた後、「ユニバーサル実習棟」「通風実験棟」を見学しました。

その後、つくば街なみウォッチング『建築博物館都市つくばをあるく』と題し様々な建築物をNPO法人つくば建築研究会の若柘さん、柳田さんのガイドで見学しました。

また、ランチもすごく興味深い建築物の中で自然をいっぱい取り込んだお料理をいただき大変満足でした。



『建築博物館都市つくば』の名のごとく様々な建築物が点在し『研究学園都市つくば』というイメージを一掃させられ、都市全体を博物館と表現された思いに共感する見学会でした。本当に盛りだくさんの見学先があり時間があっという間に過ぎてしまい、最後の見学先「カスミつくばセンター」が時間の都合で見学できなくてとても残念でした。



2日間の研修会も大変有意義なものでした。建築の楽しさを感じ始めた頃、大学のゼミの仲間と色々な建築物をみて歩くのが本当に刺激的でした。今年の研修会はその刺激を再び感じることでできる内容でした。教員になって10年、生徒たちに建築を学ぶ楽しさを伝えられているのだろうか？自分自身に問いたがすきっかけになりました。この見学会を通してよみがえった思いを生徒に還元できるよう時間を見つけてウォッチングに出かけたいと思っています。

最後に今回の研修会にあたり、会場の準備、資料の手配にご苦勞された製図分科会の先生方に心から感謝申し上げますとともに、研修会に参加された先生方の益々のご活躍を祈念致しまして参加の感想といたします。



## 20年度夏期研究協議会に参加して

東京都立総合工科高等学校

富田 真理子

「夏期研究協議会 建築法令指導講習会」に参加させていただき、8/4（月）の「建築家会館」に於ける佐久間順三からの講習と8/5（火）「表参道ヒルズ」及び近隣の建築物見学など、貴重な内容を受講させていただきました。

第1日目の午前中は、改正建築基準法における変更点から「建築確認・検査の厳格化について」「指定確認検査機関の業務の適正化」「図書保存の義務化」「建築士および建築士事務所の業務の適正化」「罰則の強化」について、また、「シックハウス対策」、「天空率」、「4号建物の緩和規定」などについても詳しくご説明いただきました。特に、法改正前後の運用に関する現状については、現場の混乱を避けるための措置や法の適用前後の産業界への影響など実務に就いておられる先生ならではの話を伺うことができ、興味深く拝聴しました。午後はスライドによる接合端部にかかる引張り・圧縮力の説明の後、木造2階建ての課題演習を行いました。実際に問題を解き解説をしていただくことによって内容の再確認を行うとともに、より深く理解をすることができました。高校生にもマスターさせておいて欲しいとの先生のお話を伺い、卒業後実務に耐える生徒を育てる使命について再考しました。

第2日目午前中は、「表参道ヒルズ」の見学を行いました。館長の荒川様より「同潤会 青山アパート」以前からの経緯や海の森から明治神宮の森へと続く東京のグリーンベルト構想、さらに表参道の傾斜に合わせた館内スロープの勾配の設定についてのお話を伺いました。中でも、東側の「同潤館」の再現については戦時中の空襲で「青山アパート」で多くの方々が亡くなった辛い記憶を思い出すため古くからの住民の方からの反対もあった事を初めて知り、法の改正や都市の再開発など大きな影響力を持つ事業には社会の実現との細かい調整が必要であることを昨日の研修に続いて考えさせられました。



「同潤館」外観



「同潤館」入口内部



避難用縄梯子（保存）

地下3階事務室でのご説明の後、2班に分かれて上階へと館内を見学させていただきました。館内の見学では、スパイラルスロープを歩き店舗を見ながら負担なく上階へと上っていく心地よさを感じると同時に、何階にいるのか認識しづらい点や水平部分とスロープが接する部分での小さな段差などの問題に対する避難計画や安全対策について関心を抱きました。この2点については、テナント間の親睦を図る工夫や1フロアごとに防災責任者を設けて避難訓練を実施していること、また段差部分には森ビルでプランターを設置し注意を喚起していることなどをご説明いただき、

建築物がハードとソフトの両面から成立していくことを再実感しました。



表参道と同じ勾配のスロープ



店舗外観



店舗ディスプレイ



段差対策のプランター



水平部とスロープ



水平部よりスロープを見る

その後、「同潤館」見学、外部見学を経て新しい住居部分のモデルルーム、さらに屋上緑化見学に案内していただきました。

外部の表参道との間にある幅60cm程の流れは「斜面と境界」を認識させる効果的なデザインだと思いました。スタッフの方々が始めた週4回の表参道の清掃が、新しい施設が周囲に受け入れられる働きを果たしたとのお話も興味深いものでした。



重力で流れ、ポンプで循環させる水（雨水利用）



表参道側外観

通常では拝見出来ない新しい住居部分へ3階の外部通路から続く小さな門を入ると、商業ビルの賑やかさからは一転して静かな空気が流れます。この住居部分は旧「青山アパート」の居住者の他にクリエイター、デザイナーなどを対象とし、情報発信源としての住居を意図しているとお話でした。モデルハウス内部は暖かみのある白木と白色を基調とした機能的なデザインで、大きなテーブルが印象的でした。奥行の広いベランダからは表参道ヒルズがその高さを超えないようにしたケヤキの街路樹が見えます。「同潤館」と新しい住居部分、それぞれから見下ろす表参道の

眺めの違いに数十年の時の流れを感じました。



住居部分入口



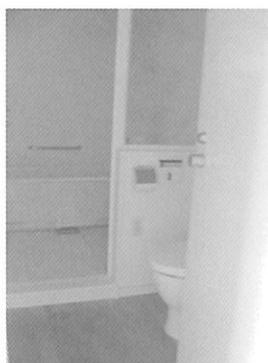
モデルルーム内部



同 ベッドスペース



モデルルームキッチン



モデルルームバス・トイレ



モデルルームベランダ



旧青山アパートから表参道を見る



モデルルームベランダから表参道を見る

午後は、近在する建築物の見学をしました。雷雨に見舞われる部分もありましたが、表参道の街並みを新しい視点で見直すこともでき、充実した研修をさせていただいたことに感謝しています。

## 21年度夏期研究協議会に参加して

栃木足利工業大学附属高等学校

山口 廣訓

### 1. 本校の概要

本校は、特進科、普通科、建築科、電気科、機械科、自動車科、情報処理科が設置されています。建築科、電気科、機械科の3科については、1年次に工業科として一括募集を行っています。1年次の前期に工業技術基礎の授業で建

築科、電気科、機械科のテーマをクラス毎にローテーションして3科の基礎を学習します。1年次の後期には、生徒が進みたい学科として建築科、電気科、機械科のいずれか1つの学科を選択します。そして、工業技術基礎の授業が選択した科の専門授業を受けることになります。2年次からは、希望の学科毎にクラスが再編成されます。一括募集のメリットは、生徒が工業知識を広く学ぶことができ、進路実現を見据えて正しい学科選択ができることです。

また、理系学科として数学力の向上のために学力に応じたクラス編成で複数教科担任制として数学力向上のための授業展開も行っております。しかし、単独学科募集に比較し、専門教科の授業の開始が後期からになってしまうことは、フォローしていかなければならない点として対策を取っています。

## 2. 本校建築科の取り組み

建築科では、建築デザイン部という部活動を活用し、全学科生徒対象にCADの資格取得のための取り組みを行っています。現在、建築に限らず工業分野では、CADの基礎知識が必要になることを考え、学科を問わずCADに興味のある生徒を募集し活動しています。

取り組んでいるのは、CAD利用技術者試験、建築CAD検定、レタリング検定、福祉住環境コーディネイター、大工技能検定の幅広い資格取得と設計競技に取り組んでいます。昨年は、1年次の建築科、電気科、機械科希望の生徒がCADで作成した設計競技に参加しました。今後も更なる幅広い工業技術習得の取り組みが必要であると考えています（図1）。



図1 建築デザイン部のCADについての講義の様子

## 3. CADを利用した授業展開

### (1) 情報技術基礎について

本校では、建築科2年生の情報技術基礎でJW-CAD及びマイホームデザイナーを使用して授業を行っています。

教科名：情報技術基礎2単位

使用CADソフト①：JW-CAD

教材：建築設計製図の教科書を使用

内容：まず、始めは建築製図の授業でドラフターを使用して完成させた手描きの図面と同様の課題についてCADを使用して完成させます。最初の課題は、木造平家建住宅平面図1：50を用いました。

使用CADソフト②：マイホームデザイナー

教材：教科担当が作成した住宅プランを使用

内容：参考の住宅プランで操作方法を学び、自主設計課題を与えてエスキスから図面の完成までを取り組みます。

### (2) 課題研究での活用

課題研究テーマ：里山整備計画

使用CADソフト：Vector-Works・マイホームデザイナー

本校近隣の群馬県邑楽郡千代田町の新福寺里山クラブは、ゴミの不法投棄を問題と考え、里山の下草刈りや間伐などの管理を行っています。徐々に住民の協力が得られるようになりましたが、整備に関しては人手不足であり、今後は更に住民へのPRを行い、理解・協力を得ていくことが必要でした。そこで、多くの住民に里山の魅力を伝え、協力が得られる活動としていくために建築科としてできることは何かと考えました。検討の末、いくつかの整備計画案の中で『ツリーハウス』建設が本研究の実施案となり、新福寺里山クラブの協力を得て活動が開始されました。

ツリーハウスの設計では、Vector-Works及びマイホームデザイナーを使用して設計案を検討していきました（図2・図3）。



図2 CADで作成したツリーハウス全体計画図



図3 ツリーハウス建設作業の様子

### (3) 第17回全国産業教育フェアへの参加

里山整備計画の作品展示は、ツリーハウス模型2点と研究内容をまとめた1000mm×800mmのパネル2枚（Vector-Worksで作成）、NHKのTV番組の「おはよう日本」で紹介されたVTRを紹介する大型液晶画面、第3回北関東三県工業高校生徒研究発表大会の発表の様子を映すためにパソコン1台を使用した。その他、来場者に配布する資料を作成しました。

来場者に研究内容を説明するための事前準備として生徒と共にパネル、模型、映像を用いての口答説明の原稿を作成し、プレゼンテーションの練習を行ってきました。大会初日には、大会関係者、高校生、一般の方、約180名にプレゼンテーションを行いました。大会2日間を通して約300名の方が、本校の研究についての説明を聞いてくれました。来場者一人一人と丁寧な対話形式による説明を心掛け、生徒は生き生きと自分達の研究について解説していました（図4）。



図4 来場者への説明の様子

## 4. 夏季研究協議会での成果

以上のような本校でのCAD利用の取り組みを踏まえ、CADの知識・技術の幅を広げられると思い、夏季研究協議会に参加しました。CADの活用法では、ただ図面を描くだけでなく、プレゼンテーションツールとしても使用できます。

今回の夏季研究協議会では普段、授業での演習問題や定期試験問題の作成で苦慮していた構造設計の問題を作成できる操作方法を学ぶことができ、CAD利用の新たな可能性を感じました。

主査の高橋先生が用意して下さった資料、講義は非常にまとめられていて分かり易く、すぐにでも実践として利用できるため、参加させて頂き本当に良かったと感じています。

特に、JW-CADの今までの使用の仕方では、文字の入力操作で構造設計の問題文章を入力するようなことは手間が掛かるため行っていませんでした。JW-CADで描いた図面をワードに貼り付けて作成する方法を取っていました。しかし、高橋先生から紹介された問題作成例では、JW-CADで長文の文章が入力されていて驚きました。長文の文章の簡単な入力方法についても丁寧に説明して下さいました。

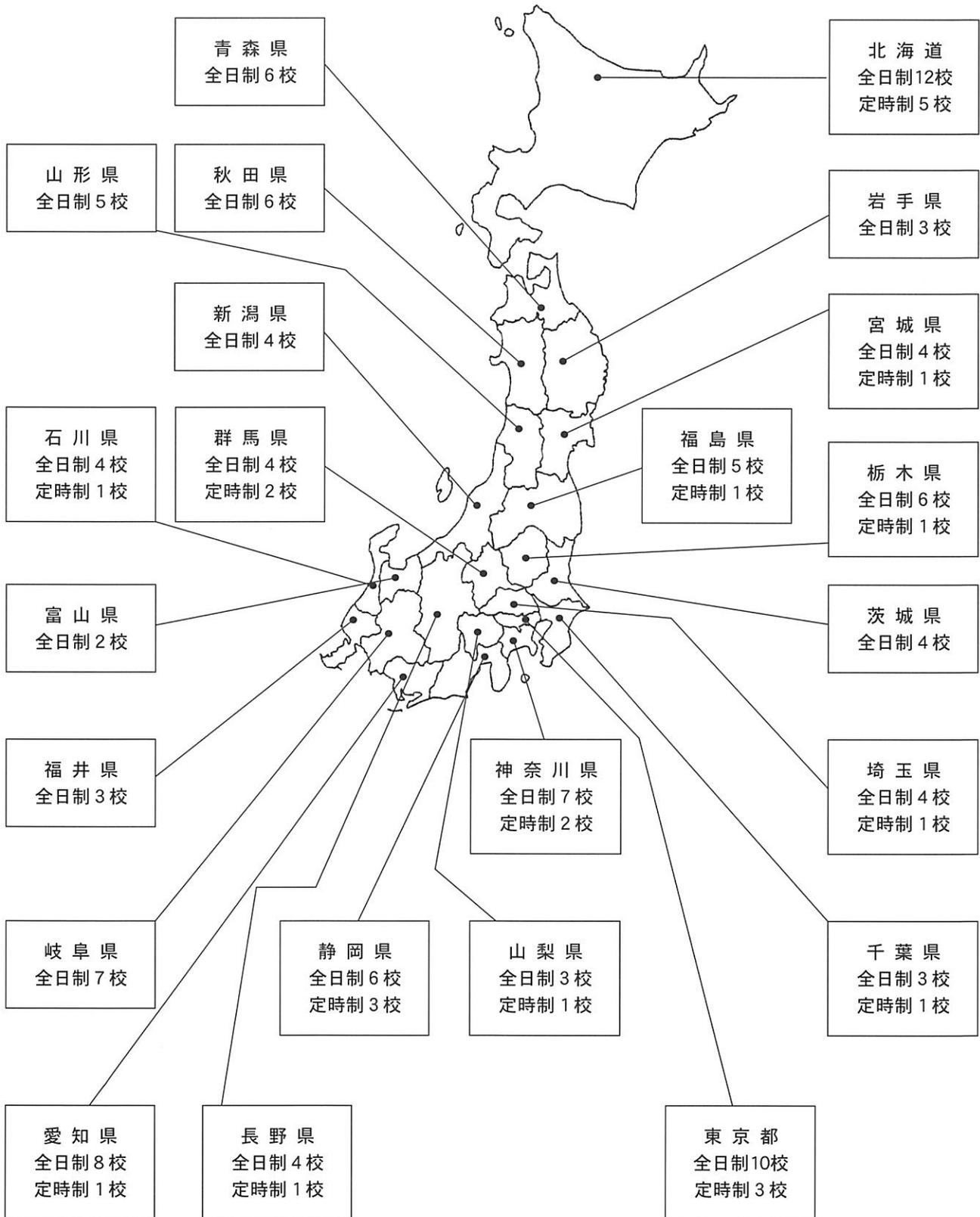
また、研究協議会では、持参した参考資料から各個人で問題を作成する実習もあり、私は、建築科2年生が12月に受験する建築技術検定模擬試験問題の作成に取り組みました。作業中、細かな所についても指導を頂くことができ、検定模擬試験問題に限らず、他の分野でも活用できる技術を学びました。今回の夏季研究協議会に参加させて頂き、他校の先生方のCADを活用した授業の取り組みについても意見交換することができました。CADの利用法では、新たに学ぶことが多く、研究協議会で得た知識を更に自分のものにできるよう発展させていくことが重要であると感じました。生徒の最大の教育環境は、教師自身であるとの自覚を再認識し、授業展開や建築に関する専門知識について更に自己研鑽に励んでいきたいと思えます。

最後にこのような機会を与えて下さった関係諸機関の皆様、並びに運営・準備等で関わって下さった諸先生方に深く感謝申し上げます。



# 会員校紹介

都道府県別・会員校数  
 全日制 120校  
 定時制 24校



# 北海道



北海道札幌工業高等学校(全・定)



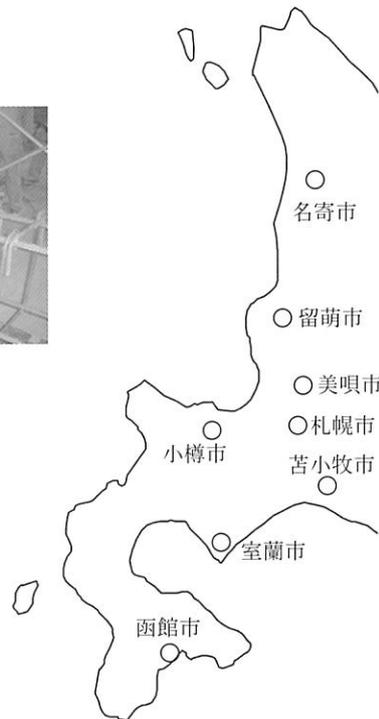
北海道美唄工業高等学校(全)



北海道小樽工業高等学校(全・定)



北海道留萌千望高等学校(全)



北海道苫小牧工業高等学校(全・定)



北海道函館工業高等学校(全・定)





北海道名寄産業高等学校(全)

北海道北見工業高等学校(全)



北海道旭川工業高等学校(全・定)



北海道室蘭工業高等学校(全)

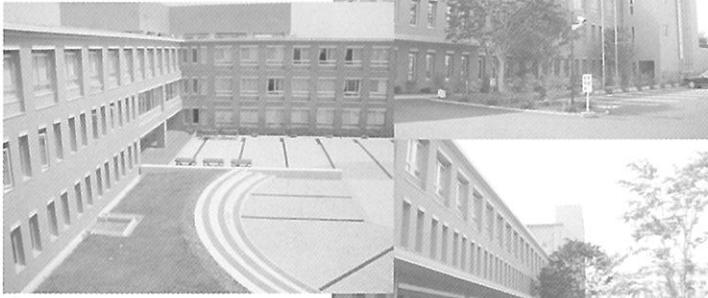


北海道帯広工業高等学校(全)



北海道釧路工業高等学校(全)

# 青森県



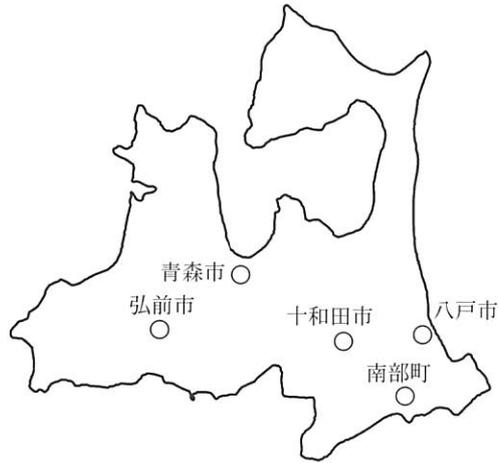
光星学院高等学校(全)



八戸工業大学第一高等学校(全)



青森県立青森工業高等学校(全)



青森県立十和田工業高等学校(全)



青森県立弘前工業高等学校(全)



青森県立南部工業高等学校(全)

# 宮城県



宮城県立石巻工業高等学校(全)



宮城県立古川工業高等学校(全)



宮城県立白石工業高等学校(全)



仙台市立仙台工業高等学校(全)



仙台市立仙台第二工業高等学校(定)

# 岩手県



岩手県立久慈工業高等学校(全)



岩手県立盛岡工業高等学校(全)

# 秋 田 県



秋田県立大館工業高等学校(全)



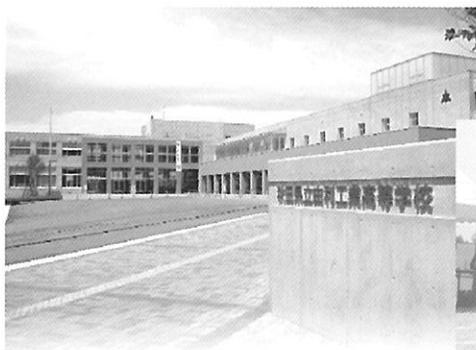
秋田県立能代工業高等学校(全)



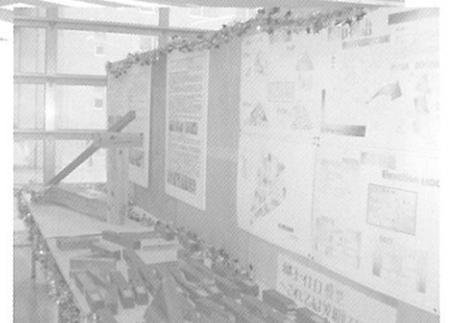
秋田県立大曲工業高等学校(全)



秋田県立秋田工業高等学校(全)

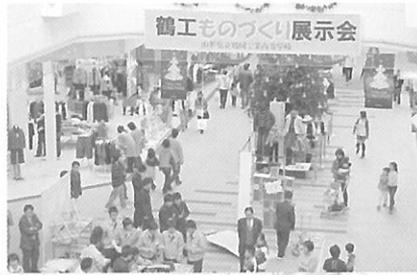


秋田県立由利工業高等学校(全)



秋田県立横手清陵学院高等学校(全)

# 山形県



山形県立鶴岡工業高等学校(全)



山形電波学園山形電波工業高等学校(全)



山形県立山形工業高等学校(全)



山形県立新庄神室産業高等学校(全)



山形県立米沢工業高等学校(全)



# 福島県



福島県立会津工業高等学校(全)



福島県立勿来工業高等学校(全)



福島県立郡山北工業高等学校(全)



福島県立福島工業高等学校(全・定)



松韻学園福島高等学校(全)

# 栃木県



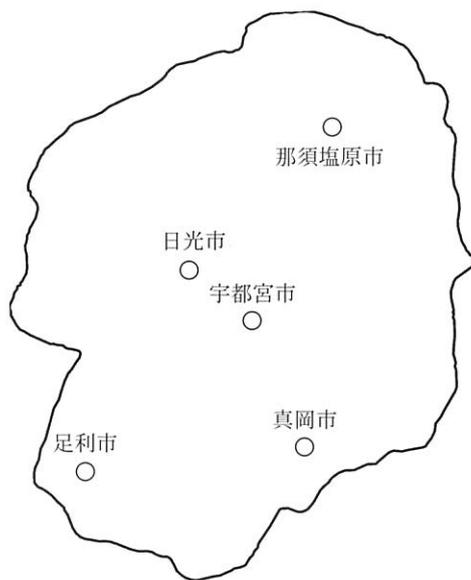
栃木県立今市工業高等学校(全)



私立足利工業大学附属高等学校(全)



栃木県立宇都宮工業高等学校(全・定)



栃木県立那須清峰高等学校(全)

栃木県立小山北桜高等学校(全)



栃木県立真岡工業高等学校(全)

群馬県



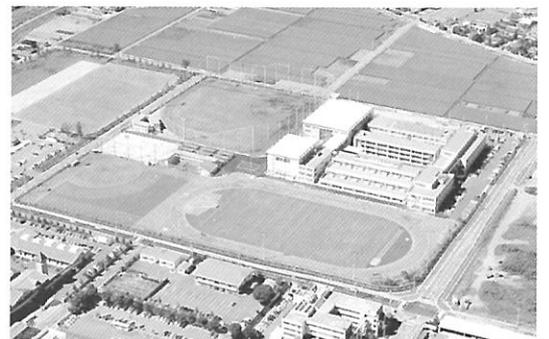
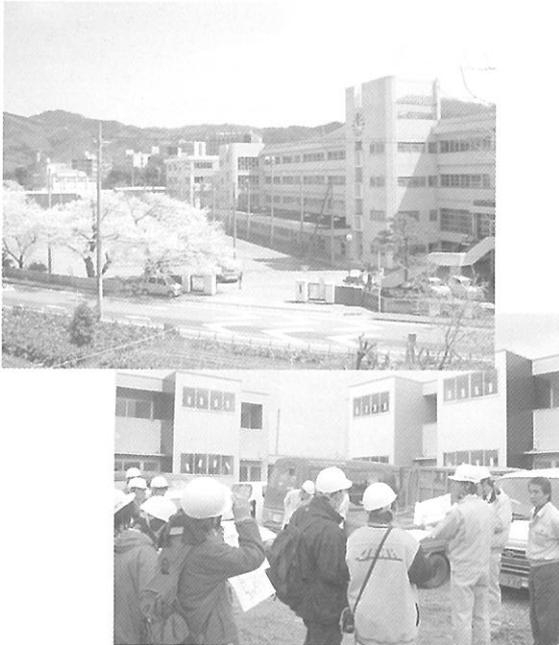
群馬県立館林商工高等学校(全)



群馬県立高崎工業高等学校(全・定)



群馬県立桐生工業高等学校(全)



群馬県立前橋工業高等学校(全・定)

埼玉県



埼玉県立熊谷工業高等学校(全)



埼玉県立春日部工業高等学校(全)



埼玉県立大宮工業高等学校(全・定)



埼玉県立川越工業高等学校(全)

茨城県



茨城県立つくば工科高等学校(全)



茨城県立下館工業高等学校(全)

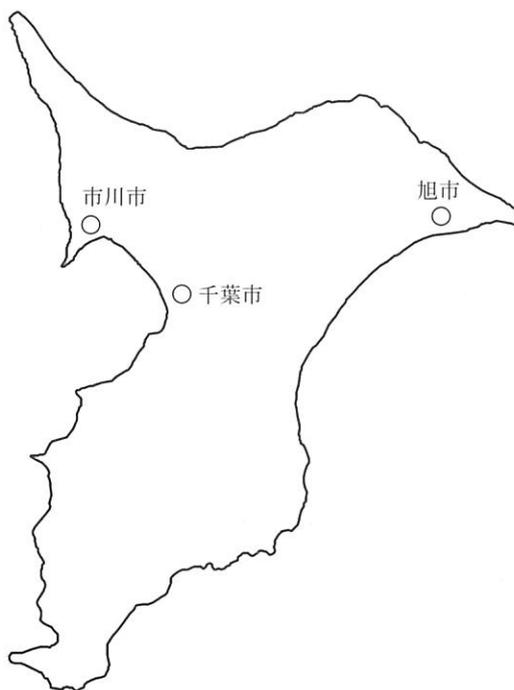


茨城県立土浦工業高等学校(全)



茨城県立水戸工業高等学校(全)

千葉県



千葉県立市川工業高等学校(全・定)



千葉県立東総工業高等学校(全)



千葉県立京葉工業高等学校(全)

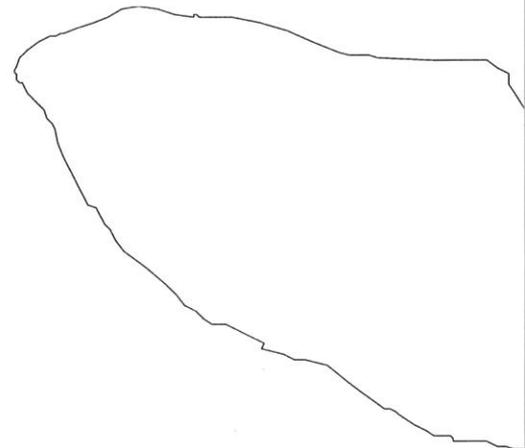
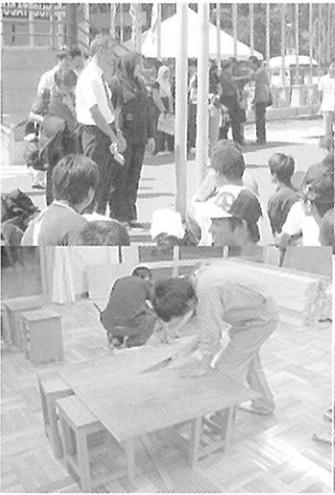
東京都



東京都立田無工業高等学校(全)



東京都立墨田工業高等学校(全・定)



東京都立総合工科高等学校(全・定)



昭和第一学園高等学校(全)



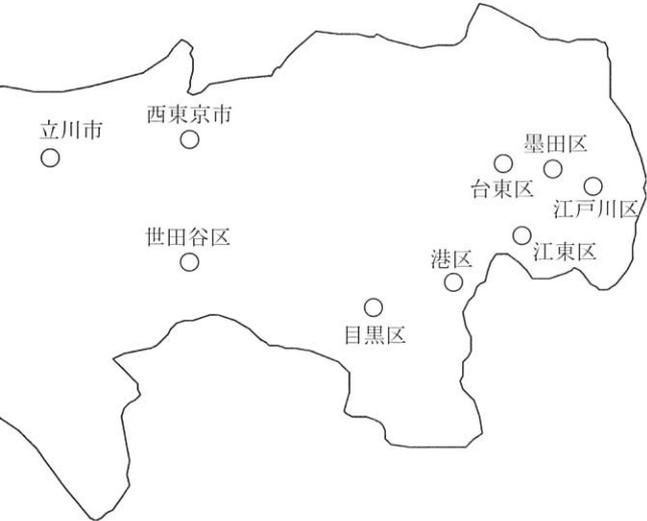
関東第一高等学校(全)



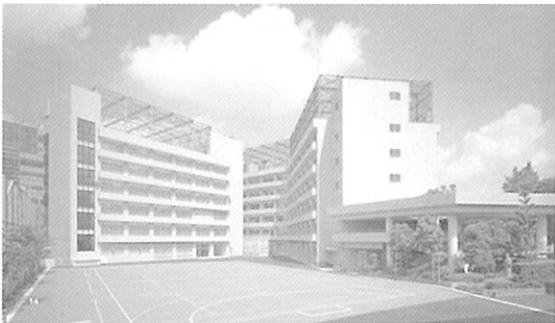
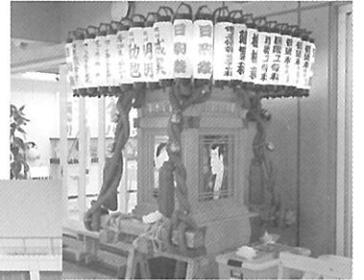
東京都立蔵前工業高等学校(全・定)



東京都立葛西工業高等学校(全)



日本工業大学駒場高等学校(全)

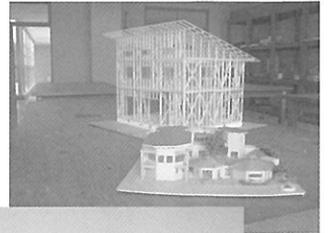
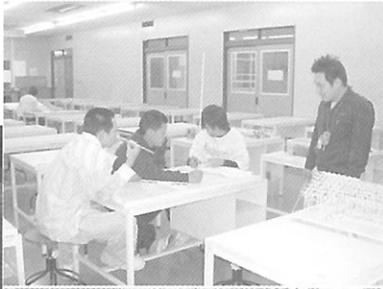


安田学園高等学校(全)



東京工業大学附属科学技術高等学校(全)

神奈川県



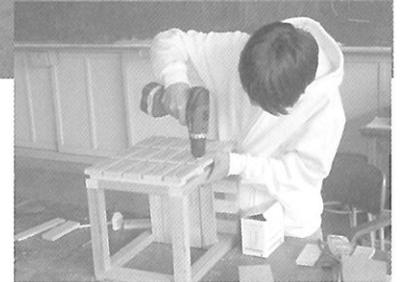
神奈川県立神奈川工業高等学校(全・定)



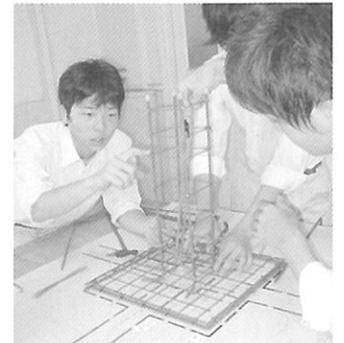
川崎市立川崎総合科学高等学校(全)



神奈川県立向の岡工業高等学校(全・定)



神奈川県立小田原城北工業高等学校(全)

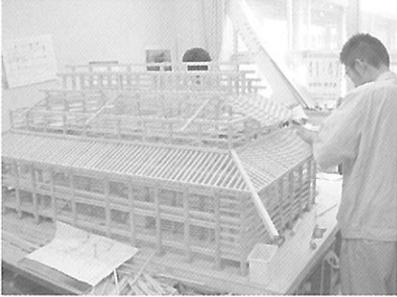


神奈川県立藤沢工科高等学校(全)



神奈川県立磯子工業高等学校(全)

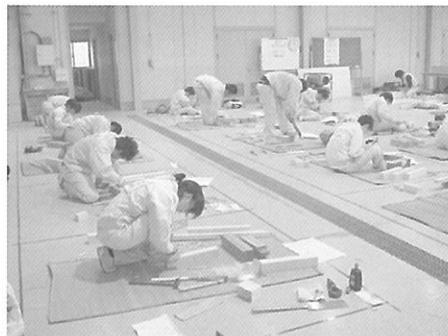
# 山梨県



山梨県立峡南工業高等学校(全)



山梨県立富士北稜高等学校(全)



山梨県立甲府工業高等学校(全・定)

# 新潟県



新潟県立新潟工業高等学校(全)



新潟県立新潟県央工業高等学校(全)



新潟県立上越総合技術高等学校(全)



新潟県立新発田南高等学校(全)

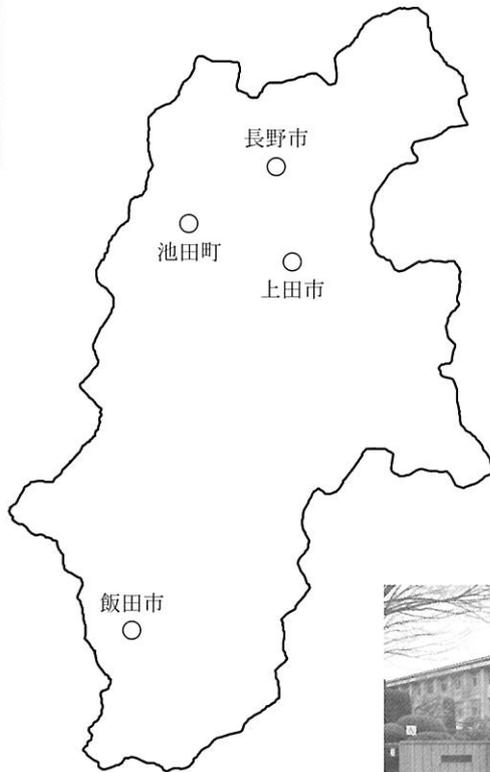
# 長野県



長野県立池田工業高等学校(全)



長野県立長野工業高等学校(全・定)



長野県立飯田長姫高等学校(全)

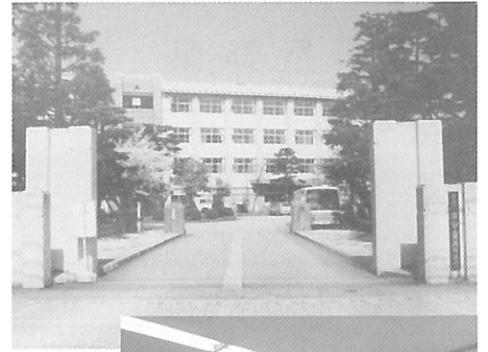


長野県立上田千曲工業高等学校(全)

# 富山県

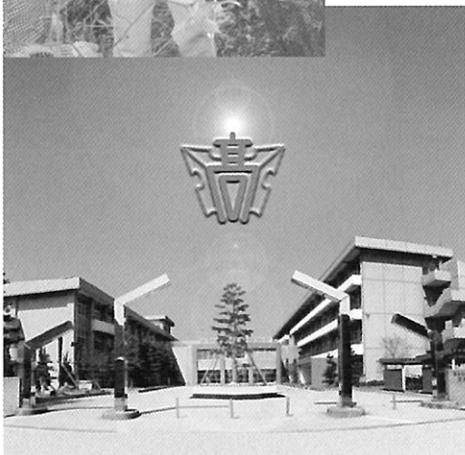


富山県立高岡工芸高等学校(全)



富山県立富山工業高等学校(全)

# 福井県



福井県立武生工業高等学校(全)



福井県敦賀工業高等学校(全)



福井工業大学附属福井高等学校(全)

# 石川県



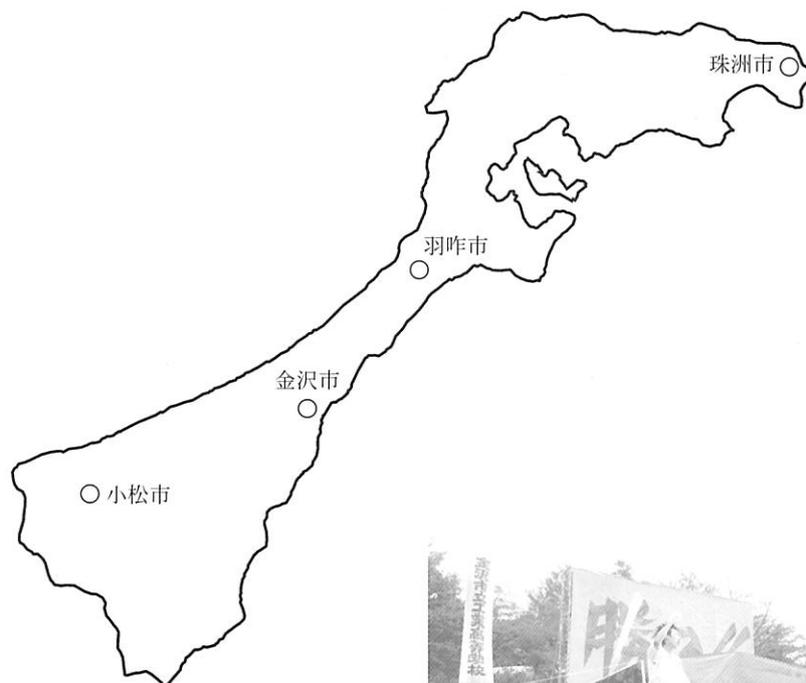
石川県立羽咋工業高等学校(全)



石川県立小松工業高等学校(全)

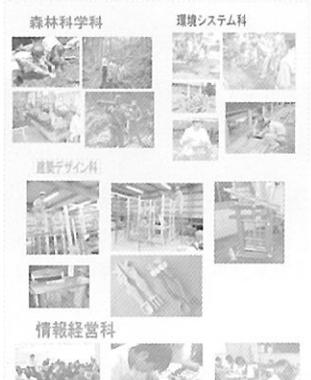


石川県立珠洲実業高等学校(全)

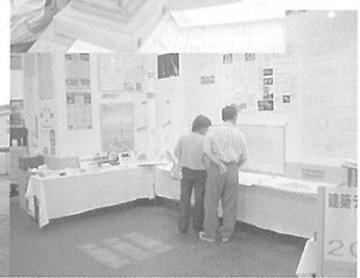


金沢市立工業高等学校(全・定)

# 静岡県



静岡県立科学技術高等学校(全・定)



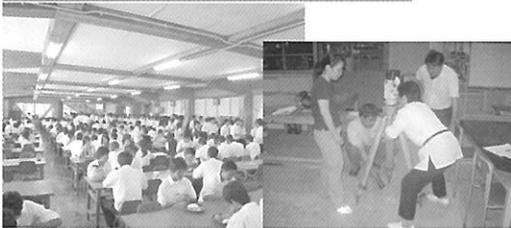
静岡県立天竜林業高等学校(全)



静岡県立沼津工業高等学校(全・定)



静岡県立浜松工業高等学校(全・定)



静岡県立修善寺工業高等学校(全)



静岡県立島田工業高等学校(全)

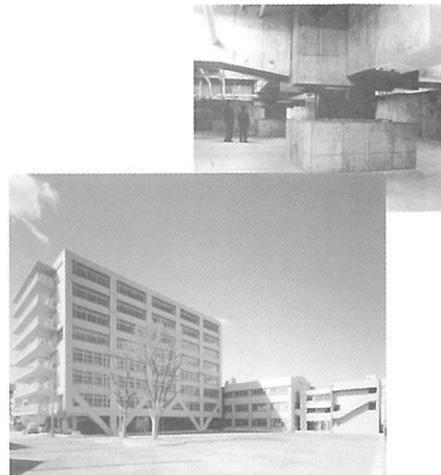


静岡県立伊豆総合高等学校(全)

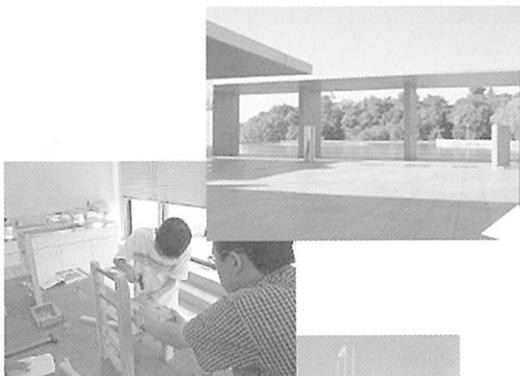
愛知県



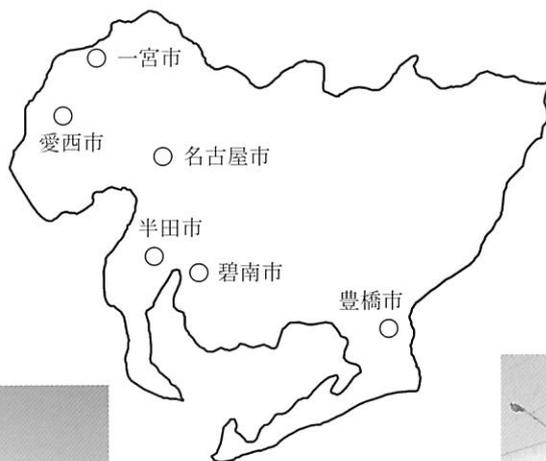
名古屋市立工芸高等学校(全)



名工学園名古屋工業高等学校(全)



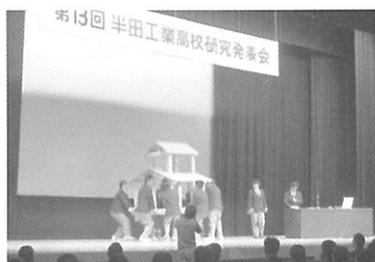
愛知県立佐織工業高等学校(全)



愛知県立一宮工業高等学校(全)



愛知県立愛知工業高等学校(全・定)



愛知県立半田工業高等学校(全)



愛知県立碧南工業高等学校(全)

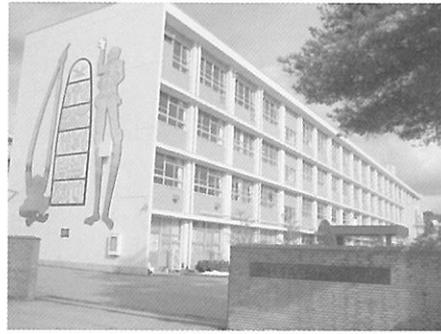


愛知県立豊橋工業高等学校(全)

# 岐阜県



関市立関商工高等学校(全)



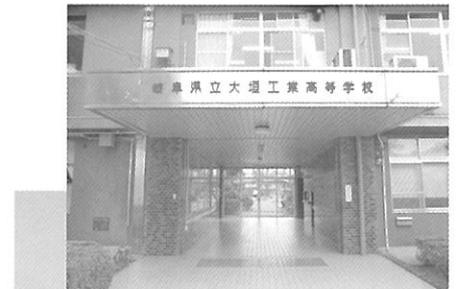
岐阜県立高山工業高等学校(全)



岐阜県立中津川工業高等学校(全)



岐阜県立岐南工業高等学校(全)



岐阜県立大垣工業高等学校(全)



岐阜県立岐阜工業高等学校(全)



岐阜県立可児工業高等学校(全)

# 分科会報告

## 製図分科会報告

千葉県立東総工業高等学校 小島 聡

創立50周年記念栃木大会（H12）から早くも10年が経ちました。平成13年（2001年）から10年間（2010年まで）の分科会報告をいたします。

この間、「CAD製図」と従来の「手描き製図」の指導についての議論を重ねると共に、「高齢化」、「バリアフリー」の視点が生徒にとって親しみやすい建築教育を考えることにつながるとして捉えていました。平成17年度に前主査の菊池先生より製図分科会の主査を引き継ぎ、18年度より「建築は造形芸術の最たるものであり、芸術も技術も豊かな創造性のあるところに無限の可能性が得られる」との思いより、「基礎的な製図力」や「デザインや発想を伝える図面」を描くための「表現力」はどのようにして育てるのかを研究主題として、「建築製図」に終わることなく「設計製図」としての指導方法について研究を行って来ました。また、《「初期製図教育の充実」と「成果確認の場」の設定により生徒の能力は伸びる》との仮説のもと研究に取り組み、第59回の埼玉大会では、全国で実施している高校生を対象とした建築設計競技優秀作品を集め、創作意欲あふれる作品を前に「卒業設計・建築コンペ」をテーマに研究協議を行い、「コンペ指導をとおして」の展開事例を報告することが出来ました。以下に活動のあらましを記しますが、任重く不足の点を先にお詫びして報告いたします。

### 10年間の研究活動の概要（平成13年〈2001〉～平成22年〈2010〉）

年度・総会	研究活動などの内容 (●印は総会の分科会研究協議議題、■印は分科会企画、★印は夏期研究協議会)
平成13年 (2001) 青森大会 (第51回) 主査：菊池	<p>●「自ら取り組ませるための設計製図Ⅱ」</p> <p>課題研究や自由設計のテーマとして「長寿社会」「バリアフリー」「環境への配慮」「リサイクル」など、社会生活に関わることが取り上げられる中、生徒自らが取り組んでいく「設計製図」のあり方を模索し、展開して行く手だてを取り上げ、各校での実践に少しでも資することをねらった。</p> <p>事例報告：関東第一高／春日部工／昭和第一高／真岡工／田無工</p> <p>資料：「平成12年度CAD作品展」12校、20作品を紹介</p>
平成14年 (2002) 東京大会 (第52回) 主査：菊池	<p>●パネルディスカッション 「これからの製図教育にもとめられる手書き製図・CAD製図について」</p> <p>パネラー：佐藤由久（大林組生産設計部）、藤岡正男（松山聖陵）、押野慶祥（小松工高）、小島正巳（前橋工高）</p> <p>事例・研究報告集配布</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p>★夏期研究協議会 7月24日(水)「研究施設見学」(於：都市基盤整備公団総合研究センター) 参加者39名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div>

<p>平成15年 (2003) 山梨大会 (第53回) 主査：菊池</p>	<p>●「やる気にさせる建築製図」－「先生できました！」の声を聞くために－ 学習意欲の低下傾向にある生徒や集中力の不足する生徒にどのように指導したら生徒が持てる力を引き出し達成感の喜びを得られるか、意欲的な取り組みを紹介し共有化を図った。 実践報告：櫻井良明（甲府工高）、矢島信一（前橋工高）、岡田幸雄（小山北桜高）、 齊藤信一（上越総合高）・ 教科書「建築設計製図」編修にあたって 塩澤 泰（関東一高） 事例・研究報告集配布</p>
<p>平成16年 (2004) 群馬大会 (第54回) 主査：菊池</p>	<p>●「やる気にさせる建築製図 PART II」－効果的な導入・取り組み－ 実践報告：蒔苗俊規（青森工高）、田母上三知夫（郡山北工高）、佐々木純悦（横手工高）、 伊田賢二（可児工高）、小島 聡（葛南工高・定） 事例・研究報告集配布</p>
<p>平成17年 (2005) 岐阜大会 (第55回) 主査：小島</p>	<p>●「福祉について取り組もう！」 －製図教育からの視点－ 講演者：卜部 聡（あい・あーる・けあ(株)） 実践報告：橋本政美（昭和第一学園）、笹崎ひろみ（田無工高）</p> 
<p>平成18年 (2006) 静岡大会 (第56回) 主査：小島</p>	<p>●「建築図面の読み方、描き方」 ～教科書の製図例をよみこなそう！～ 指導の際に感じている教科書の疑問点等について協議しました。 ★夏期研究協議会 7月25日（火）・26日（水）「施設見学」 ＝建築博物館都市つくばを歩く＝ （於：UR都市再生機構茨城地域支社 他） 協力：つくば建築研究会 参加者27名 「建築教育ニュース2006.11」に掲載 ■「第1回建築科教員のための建築製図指導者研修会」 11月29日（水） 製図コンクール参加作品閲覧及びコンクール審査基準について 於：関東第一高校 参加者24名</p> 
<p>平成19年 (2007) 岩手大会 (第57回) 主査：小島</p>	<p>■「第2回建築科教員のための建築製図指導者研修会」 3月2日（金） 甲府工高実践報告及び生徒作品見学 於：甲府工高 参加者19名 ●「建築製図のあり方と評価のポイント－1」 ＝展開事例から探る初期製図教育（平面図）＝ 授業展開資料（指導案、指導資料）提案 実践報告 加藤 伸（天竜林業高） 「建築教育ニュース2007.11」に掲載</p>
<p>平成20年 (2008) 北陸大会 (第58回) 主査：小島</p>	<p>■「第3回建築科教員のための建築製図指導者研修会」 3月11日（火） 事例発表：鈴木浩之（那須清峰高）、竹田 基（熊谷工高）、久保晴義（石巻工高）、 櫻井良明（甲府工高） 於：中央工学校 参加者23名</p>    <p>■「建築系高校生設計製図講習会」 7月25・26日 於：南ヶ丘倶楽部 町並み探索 参加者：生徒26名、教員5名</p>   

<p>平成20年 (2008) 北陸大会 (第58回) 主査：小島</p>	<p>●「建築製図のあり方と評価のポイントー2」 ＝展開事例から探る初期製図教育（断面・立面偏）＝ 授業展開資料（指導案、指導資料）提案 実践報告 鈴木浩之（今市工高）</p> <p>「建築教育ニュース2008.11」に掲載</p> 
<p>平成21年 (2009) 埼玉大会 (第59回) 主査：小島</p>	<p>■「第4回建築科教員のための建築製図指導者研修会」 3月12日（木） 事例発表：村井和幸（新発田南高）、小関茂雄（東総工高） 於：中央工学校 参加者21名</p>  <p>(建設業しんこう2009.10月号記事掲載)</p> <p>■「卒業設計及び各種設計競技についてのアンケート」実施（全国266校へ協力依頼）</p> <p>■「全国高校生建築設計競技優秀作品展2009」 7月29日～8月1日 於：With Youさいたま</p> <p>■「建築系高校生設計製図講習会」夏期講習会 7月21日～23日 於：南ヶ丘倶楽部 町並み探索と空間造形演習 （角材とジャンボ輪ゴムで家をつくる） 参加者：14名</p>  <p>■「設計製図指導者研修会」夏期研修会 7月21日～23日 於：南ヶ丘倶楽部 町並み探索と空間造形演習 （角材とジャンボ輪ゴムで家をつくる） 参加者：6名</p> <p>●「建築製図のあり方と評価のポイントー3」 ＝コンペ指導をとおして＝ 実践報告 竹田 基（熊谷工高）</p> <p>「建築教育ニュース2009.11」に掲載</p>  <p>■「建築系高校生設計製図講習会」冬期講習会 12月25日 於：日本工学院専門学校蒲田キャンパス CADによるプレゼンテーション演習 参加者：19名</p> <p>■「設計製図指導者研修会」冬期研修会 12月25日 於：日本工学院専門学校蒲田キャンパス CADによるプレゼンテーション演習 参加者：17名</p> 
<p>平成22年 (2010) 福島大会 (第60回) 主査：吉城</p>	<p>■「建築系高校生設計製図講習会」夏期講習会</p> <p>■「設計製図指導者研修会」夏期研修会</p> <p>●「構造を理解させる製図教材」＝木構造編＝</p> <p>■「建築系高校生設計製図講習会」冬期講習会</p> <p>■「設計製図指導者研修会」冬期研修会</p> <p>(予定)</p>

近年デザイン教育の重要性がクローズアップしてきている中で、建築設計競技や卒業設計への取り組みに消極的な学校も見られる現状を改善できればと考えます。今後も高校生が取り組んでいる建築設計競技作品の質の高さをより多くの人達にご理解いただけるよう努力するとともに、建築系工業高校がさらに活気づくことを期待し、実態に裏付けされた実践指導の手引きを作成できればと考えています。

そして、「高校生の設計日本一」を競う大会が実施できないものかと思案しております。今後とも分科会の活動に際し、会員校の皆さんをはじめ建築関係者の皆様からのご支援とご協力をお願いいたします。

## 計画分科会報告

埼玉県立大宮工業高等学校 三野輪 雄大

### ○はじめに

計画分科会の過去10年間を振り返ると、10年前に分科会活動の中心であった「建築法規学習ノート」の執筆活動が真先に思い出されます。私自身も、様々な参考書等で法規の内容について研修を重ねたことがつい最近のように感じられます。

その後、平成14年度より法規小委員会が立ち上がり、平成18年度の静岡大会で法規分科会が正式に発足した後の活動は、「フィールドワーク」や「住宅設計の評価」を中心に研究協議を行ってきました。

### ○過去の研究協議会内容

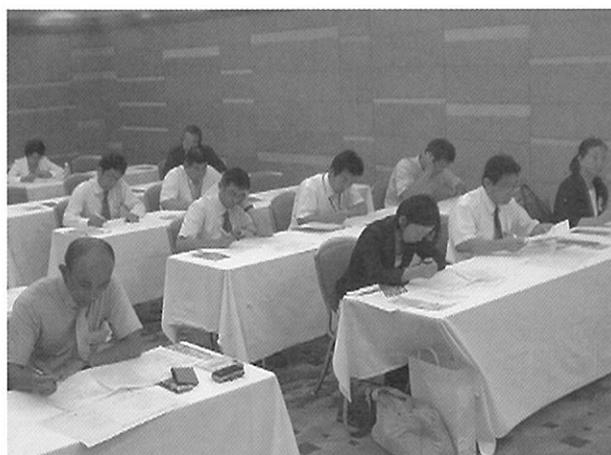
総会の研究協議会

年 度	研究協議の内容
平成12年度	計画実験の実施状況とこれからの在り方
平成13年度	新カリキュラムのへの展望と計画実習
平成14年度	講演 理想的設計手法の追求－最近の事例をもとにして－ 日本IBM(株) FMS事業開発部 FMコンサルティング 前田啓介 氏
平成15年度	講演 建築基準法 改正ポイント 東京都 都市計画局 市街地建築部 建築企画課 課長補佐 鈴木繁康 氏
平成16年度	講演 設計段階におけるシックハウス対策 (有)設計工房佐久間 代表取締役 佐久間順三 氏
平成17年度	研究発表 エコハウスの製作について 群馬県立前橋工業高等学校 機械科 近藤君 山崎君 分科会委員 荒木宏道 (前橋工)
平成18年度	研究発表 フィールドワークの実践報告 分科会委員 米原良慈 (小石川工) 江原聖直 (大宮工) 岩上成輝 (川崎総合科学)

年 度	研究協議の内容
平成19年度	研究発表 フィールドワークの実践報告 分科会委員 野村博美（小石川工） 三野輪雄大（春日部工）
平成20年度	研究実践 住宅設計の評価指標について 内容 LDK設計の評価実践
平成21年度	研究実践 住宅設計の評価指標について 内容 夫婦寝室設計の評価実践

その他の研究協議会

年 度	研究協議の内容
平成15年度	夏期研究協議会 伝統的建築物の見学および講演 講演「茶園南暎等の設計・施工について」 前田伸二 氏 「民家調査と設計・住まいを考える」 船木澄子 氏 「歴史的建物のフィールドワーク」 伊郷吉信 氏 見学「三五荘、茶園南暎等」  第1回建築写真技術講習会 「旧古川邸」 講師 宮本和義 氏
平成16年度	第2回建築写真技術講習会 「旧東京音楽学校 奏楽堂」 「東京国立博物館 表慶館・本館」 講師 秋山 実 氏
平成19年度	夏期研究協議会 旧富岡製糸場の見学および講演 講演「富岡製糸場の歴史」 今井幹夫 氏 「群馬県における絹産業の建造物」 村田敬一 氏 「旧富岡製糸場見学にあたって」 西岡 聡 氏 見学「旧富岡製糸場」
平成20年度	講演会 「実務設計のプロセス」 工藤 孝 氏



平成21年度 埼玉大会の様子

## ○今後の活動について

ここ数年、計画分科会では、一つの研究テーマを2～3年かけて研究協議を続けています。研究協議に参加された先生方に意見やディスカッションの場を多く設定し、教育現場で参考になるものを一つでも多く持ち帰っていただけるように工夫していきたいと思います。

また、研究テーマについても協議会に参加された先生方からの要望や建築界の情勢、生徒の現状を把握し、会員の先生方が実践に役立つテーマを設定し活動を行いたいと思います。

会員の先生方からのご意見、ご要望を今後ともよろしく願います。

## ○おわりに

私自身が、建築教育研究会60周年記念誌の執筆活動に携われたことを深く感謝いたします。これまで計画分科会の主査をされた先生方を始め、多くの分科会委員の皆様のご指導、ご協力により私も主査を努められているように感じます。

東日本建築教育研究会が、今後とも繁栄、発展していくよう私も微力ながら力になりたいと思います。

会員の先生方や協賛していただいている関係企業・大学・専門学校を始め多くの方々に感謝を申し上げます。今後のご指導も引き続きよろしく願います。

## 法規分科会報告

東京都立田無工業高等学校 米原 良慈

創立50周年から早くも10年の歳月を重ねてきましたが、福島大会で60周年の「還暦」を迎えた当研究会において「分科会」という位置付けは、教科研究会の根底にある「教材研究」を柱に活動しております。その分科会も従前は、4分科会（製図・計画・構造・施工）でした。

しかしながら規制緩和などを含めた建築法令の大改正（平成10年～12年頃）や教育現場における新カリキュラム（平成15年より実施されている高等学校向け新学習指導要領により17年度から文部科学省検定教科書「建築法規」使用）の導入などを背景として「法規」の専門的セクションを立ち上げる必要に迫られました。それまでの法規的課題を計画分科会が対応していた経緯のため計画分科会内小委員会の位置付けで平成14年の東京大会において「法規小委員会」として発足することになったのです。

当初は、「第五版 建築の基礎問題」（研究会編著）の法規部分の編修に取り掛かり、数年後の「分科会への移行」を目途にスタートしました。発足当時の委員数名の中から平素より研究会活動に馴染みの深かった私が委員長を担わせていただき、内部会議を重ねる過程で今後の「法規」としての活動内容・方向性を手探り状態で模索しました。

幸いにも委員の多くは建築士有資格者が多かったこともあり活動する上での前提として、「平素の授業科目の中では法規に関して職務上、建築実務から距離をおいており他の建築科目と比較して疎い状態であることを自覚」して「まず法規に慣れていくことから始めよう」という委員の声から、内部での会議も含めて市販参考書の一、二級建築士試験問題の過去問題を引っ張り出してきて、建築法令集を片手に過去の建築士受験勉強を思い返しながら問題を解いていったことが昨日のように回想されます。（これは、現在でも平素活動として法規教材の編修作業を法規分科会活動の柱に位置付けております）

これを機に「基礎的理解を深める発展的学習の教材」として、委員が担当エリアを分担（制度・単体・集団・その

他法令)して頒布当該年の新しい建築法令集に沿った法令条文の加除修正作業と掲載問題の新旧入れ替え作業による「建築法規 過去問題集」の完成に至りました。平素、建築法令集と突き合わせて差し替え見直し作業をおこなっており平成21年版より2級建築施工管理技術検定(法規関係)問題を少しずつ追加してきました。また、平成16年度より「生徒自らがノート代わりに手元に置きながら必要事項を整理することを眼目においた教材」として、「建築法規 ワークノート」の編修を過去問題集同様、委員で担当エリアを分担編修して完成させました。これも当該年の法令内容・条文に沿うように継続的な差し替え見直し作業をおこなっております。

以下にお示ししますように内部委員での法規教材編修作業と併せて会員参加型の講習会を平成16年度から毎年、企画・実施をして頻繁に改正される建築法令の周知にも苦心しました。平成18年度の静岡大会には、小委員会発足から4年の歳月をかけて目途であった「法規小委員会→法規分科会」へ移行しました。

ご存知のとおり現在では分科会委員も10名を超えて安定した活動体制により、2つの法規教材を総会分科会協議会、講習会でデジタルデータで頒布すると共に研究会HPに掲載して広く会員への提供をおこなっております。

他方、数年前からの法令改正だけでも、シックハウス対策、改正省エネルギー法、改正ハートビル法(現在はバリアフリー新法に移行)、天空率の導入等々、年中行事のように新たな法令の大きな動きがありました。極めつけは、平成17年に発覚した構造計算書偽装問題により建築士の受験資格までもが改正されるに至り、この10年間で建築業界を取り巻く状況が大変革であったことを改めて感じさせられました。

以下に時系列で発足から現在までの主だった活動状況を記します。〈原稿入稿の関係上、平成22年3月現在〉

■ (02年度)平成14年度 第52回総会・研究協議会 東京大会(タワーホール船堀・関東第一高等学校にて)

- 1) 総会での承認により、「法規小委員会」として発足する
- 2) 「第五版 建築の基礎問題」(研究会編著)の法規部分編修

■ (03年度)平成15年度 第53回総会・研究協議会 山梨大会(石和観光温泉ホテル「慶山」にて)

- 1) 計画分科会(共催)研究協議「建築基準法 改正ポイント」
- 2) 法規教材「建築法規の過去問題集」の編修作業着手

■ (04年度)平成16年度 第54回総会・研究協議会 群馬大会(伊香保温泉 ホテル「天坊」にて)

- 1) 計画分科会(共催)研究協議「設計段階におけるシックハウス対策」
- 2) 「第1回 建築確認申請 講習会」平成16年7月23日(東京都江東区森下文化センター)

〈内容:建築法令の概要・制度規定〉

- 3) 法規教材「16年版 建築法規の過去問題集」の編修完成→総会・講習会でデジタルデータとして頒布
- 4) 法規教材「建築法規 ワークノート」編修着手

■ (05年度)平成17年度 第55回総会・研究協議会 岐阜大会(岐阜観光ホテル「十八楼」にて)

- 1) 「日影図および天空図作図講習会」平成17年8月3日(東京都新宿区(株)週刊住宅新聞社 大会議室)

〈内容:平成15年1月施行の「天空率」の制定の理解と日影図



「第1回 建築確認申請 講習会」の様子  
〈内容:建築法令の概要・制度規定〉



「日影図および天空図作図講習会」の様子  
〈内容:改正建築基準法の「天空率」(平成15年1月施行)の概要理解と実践演習〉

の再確認>

- 2) 法規教材「17年版 建築法規の過去問題集」の編修完成→講習会頒布・研究会HPに掲載
- 3) 法規教材「17年版 建築法規ワークノート」(サンプル版) 研究会HPに掲載
- 4) 文科省推奨観点別評価編修

■ (06年度) 平成18年度 第56回総会・研究協議会 静岡大会 (静岡文化芸術大学にて)

- 1) 「法規小委員会→法規分科会」へ総会での承認により移行する
- 2) 「第2回 建築確認申請 講習会」平成18年7月31日 (東京都江東区森下文化センター)

<内容: 建築法令の概要・単体規定>

- 3) 法規教材「18年版 建築法規の過去問題集」の編修完成→講習会頒布・研究会HPに掲載
- 4) 法規教材「18年版 建築法規ワークノート」(試用版) 研究会HPに掲載
- 5) 文科省推奨観点別評価 研究会HPに掲載



「第2回 建築確認申請 講習会」の様子  
<内容: 建築法令の概要・単体規定>

■ (07年度) 平成19年度 第57回総会・研究協議会 岩手大会 (つなぎ温泉ホテル大観にて)

- 1) 協議題目「建築法規の授業展開 (事例発表)」
- 2) 「第3回 建築確認申請 講習会」平成19年7月30日 (東京都江東区森下文化センター)

✦ <内容: 建築法令の概要・集団規定>

- 3) 法規教材「19年版 建築法規の過去問題集」編修完成→分科会協議会・講習会頒布・研究会HPに掲載
- 4) 法規教材「19年版 建築法規ワークノート」(第1版完成) →講習会頒布・研究会HPに掲載



「第3回 建築確認申請 講習会」の確認申請書と竣工写真  
<内容: 建築法令の概要・集合規定>

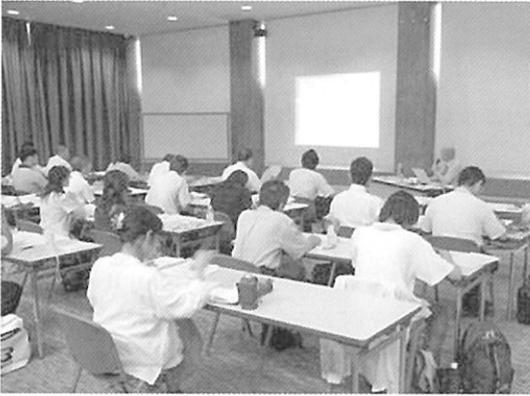
■ (08年度) 平成20年度 第58回総会・研究協議会 北陸大会 (金沢歌劇座にて)

- 1) 協議題目「こんなに変わった!! 建築基準法および建築士法の改正・解説」
- 2) 「夏期研究協議会: 建築法令指導講習会」平成20年8月4日・5日

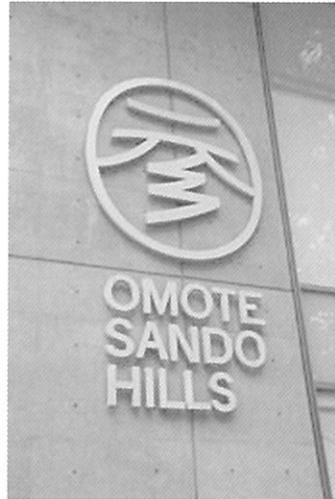
(東京都渋谷区 建築家会館、表参道ヒルズおよびその周辺)

<内容: 1日目...改正建築法令の概要・課題演習、2日目...表参道ヒルズ・近在の現代建築の見学会>

- 3) (新東京タワー)東京スカイツリー現場見学会 平成20年12月2日 (東京都墨田区スカイツリー現場)
- 4) 法規教材「20年版 建築法規の過去問題集」編修完成→分科会協議会・講習会頒布・研究会HPに掲載
- 5) 法規教材「20年版 建築法規ワークノート」編修完成→分科会協議会・講習会頒布・研究会HPに掲載



「第1日目：改正建築法令の概要・課題演習」の様子



「第2日目：表参道ヒルズ見学会 外観」



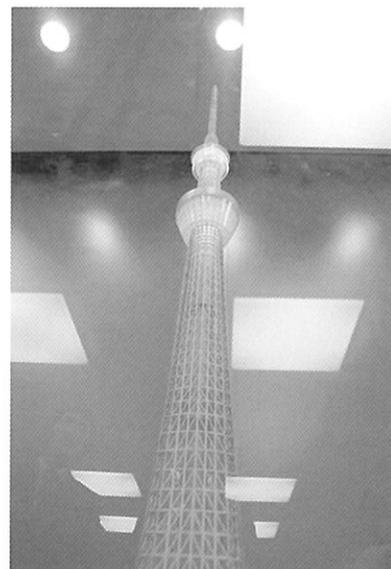
「第2日目：表参道ヒルズ見学会 内観」  
 <館内中央のメイン階段より上部をのぞむ>



表参道ヒルズにて集合写真



「新東京タワー：東京スカイツリー建設現場」

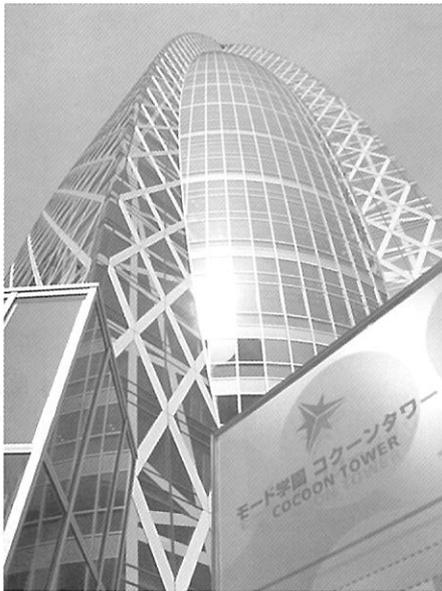


「新東京タワー：東京スカイツリー完成模型」

■ (09年度) 平成21年度 第59回総会・研究協議会 埼玉大会 (ラフレさいたまにて)

- 1) 協議題目「ポイント解説：2級建築施工管理技術検定試験の制度・法令について」
- 2) 「千葉工業大学津田沼校舎ツインタワー現場見学会」平成21年12月8日 (千葉県習志野市津田沼)  
「東京モード学園 コクーンタワー見学会」平成22年3月2日 (東京都新宿区西新宿)  
(丹下都市建築設計担当者による解説)  
「金龍山 浅草寺 外部改修工事見学会」平成22年3月2日 (東京都台東区浅草)
- 3) 法規教材「21年版 建築法規の過去問題集」編修完成→分科会協議会・研究会HPに掲載
- 4) 法規教材「21年版 建築法規 ワークノート」編修完成→分科会協議会・研究会HPに掲載

【モード学園 コクーンタワー】



「最上階：展望フロアから  
新宿界限をのぞむ」



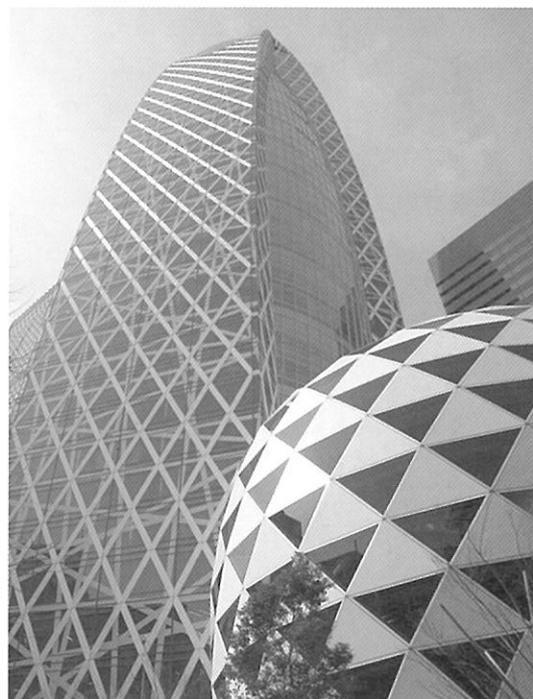
「最上階：展望フロア」



高層フロアにある  
「サロン実習室」



立体キャンパスと捉えた  
「学生サロン：3層吹抜」



【金龍山 浅草寺 外部改修工事】



「浅草寺本堂屋根：下り棟下地作業」



「チタン葺き見本：軒先巴瓦」



「仮囲いに山本寛斎氏がプロデュースした巨大金龍」



「チタン葺き作業中：隅棟」

■ (10年度) 平成22年度 第60回総会・研究協議会 福島大会 (会津東山温泉御宿東鳳にて)

- 1) 協議題目「出題傾向から読み取る二級建築施工管理技術検定のポイント指導」
- 2) 「首都高速道路中央環状線 大橋ジャンクション見学会 (予定)」(東京都目黒区)  
「根津美術館 見学会 (予定)」(設計：隈研吾建築都市設計事務所)(東京都港区南青山)  
「三菱一号館 見学会 (予定)」(東京都千代田区丸の内)
- 3) 法規教材「22年版 建築法規の過去問題集」編修完成→分科会協議会・研究会HPに掲載
- 4) 法規教材「22年版 建築法規 ワークノート」編修完成→分科会協議会・研究会HPに掲載

当分科会では、さらなる法規理解を深めるための研究調査による研鑽で活動の原動力である「建築法規 過去問題集」(基礎的理解を深める発展的学習の教材)と「建築法規 ワークノート」(生徒自らがノート代わりに手元におきながら必要事項を整理するための教材)の2つの教材編集・成果品頒布、法令改正情報の発信(適宜、研究会HP掲載・総会配布資料)をおこない、会員参加型講習会である各種講習会・現場見学会の実施を活動の両輪と捉えてこの

還暦の年を節目により一層の研鑽に励んでまいりたいと考えております。どうぞ今後とも会員各位のご指導とご鞭撻をお願いして節目のご報告に代えさせていただきたく存じます。

## 構造分科会報告

神奈川県立神奈川工業高等学校 高橋 裕

平成11年から平成21年9月までの構造分科会活動状況の概略を報告いたします。

構造分科会の主査は、大久保 健先生（墨田工業）、沢野 茂先生（墨田工業）、そして平成20年より高橋 裕（神奈川工業）が担当しています。

○平成11年度秋田大会総会において、共通テーマ「21世紀の建築教育の在り方」を受け、構造分科会でサブタイトル「建築構造設計の基礎・基本とは何かを考える」としてアンケート調査を実施しまとめた。

アンケートの回答

・教科書ではどの範囲まで取り組んでいますか。

多くの学校は第4章 部材の性質と応力度までであった。

・重要ポイントはどこですか。

構造物の応力算定ができること。単純梁について全員が解けることを目標にしている。

・建築構造設計の授業展開で問題点を具体的に上げて下さい。

単位の概念が理解できない。簡単な少数、分数を理解できない。関数が理解できない。

学力差があり授業を一本化して行うことに難しさがある。

学校により単位数がまちまちである。工業課程を含め4単位の学校が多い。

・今後の建築教育の在り方

建築を通じて社会の発展に貢献できる人材を輩出するためにも、建築科を卒業する生徒の資格取得は必要不可欠であるとする。特に建築構造設計の基礎・基本は資格取得において必要性が高く、2級建築士を取得するための力を付けることが一つの目標となる。

○平成12年度栃木大会総会

テーマ「新学習指導要領にからむ建築教育の在り方」

構造分科会サブテーマ「2単位で教えらるる建築構造」

年間指導計画（案）について分科会参加校の意見交換を行った。

おもな意見として

指導案の内容には、現在3～4単位で教えているので2単位で教えることにはだいぶ無理がある。

学校には格差がある、他教科との関連性が重要だ。

インターン・シップで3日間の職場体験する学習を進め成果をあげている。

○平成13年度青森大会総会

構造分科会・建築基準法改正に伴う改正点の報告

・法規改正のポイント（蔵前工定 池上委員）

積雪荷重・風圧力の改正の趣旨、旧規定の問題点について報告

・性能規定化と建築基準法改正に伴う現行教科書の問題点と限界耐力法について（仙台第二工 益野委員）

・「建築構造設計」教科書改訂の概要について（蔵前工 松井委員）

・生徒の実態報告（北海道建築教育研究会専門委員会 札幌工 高崎先生）

#### ○平成13年度夏期研究協議会

平成13年8月7日（火）～8日（水）葛西工業高等学校 参加者53名

・構造設計ソフトウェア「BUS-2.5」を利用して、建築設計製図教科書・製図例8 商店設計の構造計算を題材に実際のモデル化と計算方法を体験。

#### ○平成14年度委員研修見学会 平成14年4月3日（水）港区虎ノ門4丁目

・「F美術館」意匠設計・（株）坂倉建築研究所 構造設計・（有）O.R.C事務所 構造・規模 SRC造、地上7階 地下1階 免震装置

#### ○平成14年度東京大会総会

分科会テーマ 「これからの建築教育がめざすもの」

1. 講演 （有）シグマ設計室 関 昌孝氏

主 題「これからの建築教育がめざすもの」

建築ニュースからの内容要約

①本は覚えるためにあるのではなく、活用するためにある。大切なことは、どう活用するか覚えることである。

②今の若者に足りないものは何か。それは、人ときちんと話ができること。言葉が足りないことから起こるトラブルが多い。また、仕事に責任を持つこと。ものを作る責任というものがあることを自覚してほしい。

③基準法はあくまで最低の基準である。したがって、基準法にあてはまっていれば、OKという考えではいけない。

④古い神社建築には図面がない。当時は模型をいくつも作って、それから実際の建物を建てていきたい。

⑤若者には、豊かな発想をもってほしい。そのためには経験を多く積ませることだ。全て教えると、人まねでコピー人間になってしまう。コピー人間になると考えることをしなくなる。若者には、構法を考える人間になってもらいたい。

#### 2. 新教育課程についての意見交換

「建築構造」と「建築構造設計」の2教科を中心に、新教育課程についての意見交換を行いました。参加された先生方の学校状況も、今までの工業高校だけでなく、コース制あり、2学期制あり、統廃合ありと様々な状況にあることがわかりました。そうした中で特徴的であったのは、大半の学校で選択制を導入し、科目の最低取得単位を以前に比べ下げているものの、選択によっては以前より多く科目を選択することが可能としている点でした。

#### ○構造分科会現場見学会 平成15年6月20日（金）

所沢市民体育館改修工事 監理：所沢市都市整備部営繕課 設計：（株）坂倉建築研究所 施工：フジタ・平岩特別共同企業体 参加者：9名

構造・規模：RC造主体で、屋根は、圧縮材として木材、引張材として鉄骨を使った大スパン立体シェル構造。

○平成15年度山梨大会総会

全体テーマ 「新たな建築教育をめざして」

分科会テーマ 「フレッシュ教材づくり」・生徒と教師のための建築構造

・15年版「建築構造」教科書の補助的教材の発表

事前に行った参加者へのアンケート調査によれば、視覚にうったえる補助教材への要望が非常に多くあり、心境箇所の目次にあわせて、部材や部位などについて写真集としてホームページに掲載した。また、過去の2級建築士に出題された問題を、項目をクリックすることで表示するなど、パソコンを使った教材づくりとして発表した。

○構造分科会研究協議会 平成15年9月26日（金）東京建築カレッジ練馬実習場

木造軸組構法の構造実験の見学

貫構法の構造体に平行荷重をかけて変位を測定する実験を見学。貫構法が思ったより粘り強く、変位があるものの荷重を解除すると、また元に戻るといった特性を見ることができました。

○平成16年度群馬大会総会

全体テーマ 『時代に即した効果的な建築教育をめざして』

分科会テーマ 「フレッシュ教材づくり」パートⅡ・視覚と資格を捉えた建築構造

昨年山梨大会で発表した建築構造補助教材の内容をさらに充実させ、特に木構造の内容を大幅に増やし、榎本委員（安田学園）が発表。また、資料には、該当する項目に2級建築士の過去問題が出題されている場合、クリックして出せるように工夫した。これは、高校生にも在学中から2級建築士の問題にふれさせることと、国家試験でも取り上げられるほどの重要事項であるという認識を持たせることを目的とした。

○平成17年度岐阜大会総会

全体テーマ 『建築教育に求められる社会貢献』

分科会テーマ 「地震と建築」

講演 「宮城県内の工業高校における地震防災教育としての木造耐震診断授業と実践的研究」

宮城県石巻工業高等学校 竹 幸宏先生

宮城県では、木造耐震診断の普及・啓発活動を防災教育活動の観点で捉え、地域の中・高生に対して地震防災教育を推進しようとするものであり、高校生に対しては、授業において「木造耐震診断」を行い、そこで学んだ成果を地域の住民を対象に行うという活動報告がされた。

○平成17年度夏期研究協議会

平成17年8月1日（月）～2日（火） 千葉県立市川工業高等学校

内容 「木造耐震診断」 講師 日本大学理工学部講師 八島 信行先生

国土交通省監修のフリーソフトを利用した木造住宅の簡易耐震診断の演習

（財）日本建築防災協会の一級診断方法の演習後、市川市民を対象とした「木造耐震診断」の公開講座を見学。

○構造分科会研究協議会 平成17年12月7日（木）都立葛西工業高等学校

内容 耐震チェックⅡを使った「木造耐震診断」

講師に八島信行先生を招いて、研修会を行った。細部診断を行うためには現地調査が必要であるということも分かった。

○平成19年度岩手大会総会

全体テーマ 『実践に根ざした建築教育の再構成』

分科会テーマ 「みんなで学ぼう耐震診断・作って試そう構造模型」

・「木造耐震診断」の講演及び演習 宮城県仙台第二高等学校 竹 幸宏先生

「木造住宅の耐震診断を学ぶ」と題したテキストを使って耐震診断の演習を行った。このテキストは工業高校生のみならず、中学校の出前授業などにも使われているもので、平易に解説されたすぐれものという印象であった。

・建築構造設計の補助教材として活用できる「構造模型」の発表及び紹介。安田学園高等学校 榎本吉晃委員 都立墨田工業高等学校 鈴木隆委員

○構造分科会見学会 平成20年3月28日（金）

国土交通省主催 東京空港D滑走路他見学

○平成20年度北陸大会総会

全体テーマ 『生徒の可能性を引き出す建築教育』－かわるもの かわらないもの－

分科会テーマ 「JW\_CADを用いた効率的な構造設計の問題作り」

・構造設計の問題集を作成に取り組んでみたところ、委員の先生方がいろいろなソフトウェアを用いて作成していて、問題を共有するのに不都合であることが分かった。数多くの学校で製図の授業で利用されているフリーソフトウェアであるJW\_CADを用いると、正確で簡単な問題作りができることを榎本吉晃委員、星野志保委員からインストールの方法や問題の作り方などを紹介した。

○平成21年度埼玉大会総会

全体テーマ 『未来へはばたく建築教育』－原点を見つめて－

分科会テーマ 「JW\_CADを用いた問題作成Ⅱ」

・JW\_CAD利用状況アンケート集計結果の報告

JW\_CADを構造設計の授業または教材作成に利用していますか。の間に対して

はい 25校 いいえ 54校

利用しなかった理由として

CADを利用する発想がなかった	21	
利用する必要性を感じない	18	
他のソフトを利用している	16	など

・このアンケートの結果を踏まえて

JW\_CADの「図形登録」と「図形」を利用した、スタンプ感覚の問題作成と問題の共有化を提案。

#### ○平成21年夏期研究協議会

平成21年8月6日（木）～7日（金） 安田学園 高等学校 パソコン室

内容 JW\_CADによる問題作成

配布した<<図形 東日本>>をプログラム上に張り付け準備完了。このファイルを利用することによりスタンプ感覚で問題が作成できることを説明した。

持参していただいた想定問題をもとに、問題と解答を作成。参加された先生方の知識を駆使し、講師も知らない裏技が飛びだし、和やかな雰囲気の中、実りある研修が終了。

## 施工分科会活動報告

埼玉県立大宮工業高等学校 塩山 昇

### 1 はじめに

最初に、平成12年度より10年間について施工分科会活動の概要を振り返り報告致します。平成12度の主査は、日本工大付属東京工業高等学校・内藤 美雪丸先生で、18名の施工分科会委員で構成されていました。その後、平成14年度から昭和第一学園高等学校・田辺 登先生に引継がれ、平成20年度から私が引き受け、当初15名でしたが、現在は学科再編や諸事情により12名の下記委員で活動しています。来年度は夏期研究協議会の運営をする年なので、委員が14名になり新たに活動する予定です。

#### ○平成21年度施工分科会委員

丸山 悟 (田無工業高校)	小嶋 計一 (宇都宮工業高校定)	田辺 登 (昭和第一学園高校)
権田 幸男 (大宮工業高校)	平柳 政幸 (日本工大駒場高校)	高橋 篤史 (安田学園高校)
網中 正仁 (館林商工高校)	峯 孝一 (市川工業高校)	吉村 公利 (春日部工業高校)
林 祐介 (京葉工業高校)	鷹野 正明 (向の岡工業高校定)	塩山 昇 (大宮工業高校)

#### ○平成20年度以前の主な委員 (上記以外) …当時の勤務校

伊藤 彰人 (鶴見工業高校)	堀口 武 (武蔵越生高校)	田島 昇 (大宮工業高校)
小池 逸朗 (甲府工業高校)	飴谷 知久 (安田学園高校)	高橋 康弘 (田無工業高校)
千葉 一雄 (東京工大附属)	寒河江美和 (新潟工業高校)	飯塚日登美 (新潟工業高校)

### 2 活動報告

平成12年度夏期研究協議会は、施工分科会の運営で開催されました。内容は、「クレーンの運転業務の特別教育」でした。会場は神奈川労働局長指定教習機関、(株)石川島技術教習所で、8月7日～8日の1泊2日で実施されました。30数名の参加者があり、同じ敷地内の宿泊施設を利用し、朝は起床後のラジオ体操に始まり、講習時間の規定があるので講義を受けた後に実技を実践し、皆熱心に取り組んでいました。神経を注いだため大変疲労し、休憩時に食べたスイカの味が忘れられません。2日目に実技及び学科の終了テストが実施され、参加者全員無事に修了証が手渡され、大変有意義な体験ができました。

また、平成13年度から（社）全国工業高等学校長協会主催の「高校生ものづくりコンテスト木材加工部門」が実施され、関東大会が施工分科会の主催で実施される事になりました。課題は「プランター工作」でした。第1回と第2回は大宮高等技術専門学校を会場に開催しました。第3回から都立江戸川技術専門学校に会場が移りました。当初は県大会が開かれず、関東甲8都県の学校より参加者を募り定員30名程度で実施されました。平成15年の第5回大会から、新課題の「小屋組」になり、各校2名以内の参加で人数を調整し実施されました。また、埼玉県立大宮工業高等学校を会場に新課題の技術研修及び研究協議会を開催しました。



ものづくりコンテスト関東大会 競技風景

そして、平成16年度夏期研究協議会は、施工分科会の運営により「木材加工用機械作業主任者」の技能講習が7月29日～30日に都立品川技術専門学校に於いて開催されました。参加者54名で、安全面を中心に機械の設置や取り扱いの方法など、講義が中心の講習でした。最終日に終了試験があり、参加者全員が熱心に取り組み、全員に修了証が手渡され大変有意義な2日間でした。



ものづくりコンテスト関東大会 審査風景

続きまして、平成12年度より10年間のまとめとして、東日本建築教育研究会総会・研究協議会を振り返り、その年度の研究内容と当時の思い出などを含めて述べさせていただきます。次の表はその内容を一覧にまとめたものです。

平成 年度	研究 内容	発表大会
12	職業資格と関連する施工実習の指導案 施工実習の中に於ける安全教育 生徒の職業資格取得への取組	栃木大会
13	ものづくりへの取り組み（関東大会）	青森大会
14	高校生ものづくりコンテストブロック大会について	東京大会
15	鉄筋コンクリート構造 躯体工事	山梨大会
16	” 仕上工事	群馬大会
17	” 土工事	岐阜大会
18	木造住宅 解体～基礎工事	静岡大会
19	” 建方～屋根工事	岩手大会
20	” 仕上げ・設備工事	北陸大会
21	3級技能検定（建築大工工事）	埼玉大会

平成12年度より14年度までは、多様化された生徒の入学が増えて来た実態に対応し、具体的な施工実習の内容や展開方法などを検討し、如何に目的意識をもたせれば社会に出て実践できる能力を育成する事ができるかをテーマとして研究しました。

平成15年から20年までの6年間は、現場経験が少ない方のために、「建築施工」の授業の手助けになればと、本分科会の研究課題は、建築施工【視覚的補助教材の作成】について取り組んできました。この補助教材の研究は、鉄筋コンクリート構造の躯体工事、仕上げ工事、土工事。また、木造住宅の解体から基礎工事、基礎から上の建方による軸組・床組構造と屋根工事、仕上げ・設備工事の順でシリーズ化し、昨年度で完成しましたので終了致しました。この資料に使用した写真の撮影にあたり、現場の状況と撮影日程を合わせるタイミングの難しさ、時間的余裕の作り方等に変苦勞しました。また、撮影した写真が安全面や施工法等の関係で使用できない場合があり、使用する写真の選定にあたり大変神経を注ぎました。質疑・応答の際、「動画もあり分かり易い。資料のデータベース化ができないか。学校の実情にあったものに改変したい。」等の意見がありました。視覚的教材を見ただけで終わりにせず、プリントの作成等でフォローするなど、授業展開を工夫する必要があります。

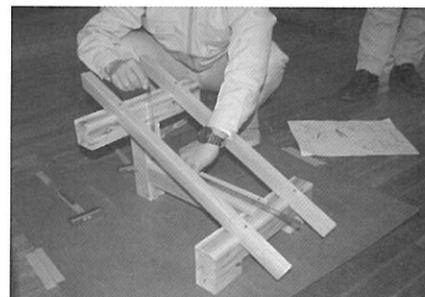
本年度は、「3級技能検定（建築大工工事）について」を研究課題として活動してきました。決定するにあたり、会員の方から「大工技能検定2・3級課題や大工道具の手入れ法についての講習会」など、個人の技能を高めるような希望が多くありました。これは、「高校生ものづくりコンテストの指導」などを通し、各教員の技能に対する意識の向上が伺えます。しかしながら、教育現場の現状として建築実習や建築施工関連の授業を実施するにあたり、普段研修の機会が少ない担当者が多いので、検討の結果このテーマに決定し、活動して来ました。

### 3 まとめ

施工分科会では、「ものづくりコンテスト」に関しては、平成13年度の第1回大会から第5回大会まで、関東大会の運営側として携さわって来ました。第1回全国大会の時からブロック大会を実施したのは、関東ブロックだけでしたが、第2回大会からは北海道ブロックも実施し、その後第6回大会までに、全国9ブロックでブロック大会が実施されるようになりました。当時は、建築教育で製図指導重視の風潮が大きかったですが、最近は建築教育の流れとして、ものづくりを重要視している学校が、増えて来ていることを実感しています。ものづくりコンテストなどによって、社会的に技能・技術の向上につながった事が、嬉しく思えてなりません。これからも、“ものづくり教育”がより良い方向に発展することを期待しております。また、来年度の夏期研究協議会は、「大工道具の手入れと使用法について」をテーマに現在検討中です。多くの会員にご都合をつけて参加して頂き、有意義な研修となる事を希望しております。また、施工分科会の委員も世



H19. 11. 22 於：宇都宮工業高校



H19. 11. 22 於：宇都宮工業高校



H20. 12. 9 於：大宮工業高校



H21. 7. 30 埼玉大会 発表風景



H21. 7. 30 埼玉大会 質疑応答風景

交代の時期に来ています。ご協力していただける方のご参加を心よりお願いし、まとめの挨拶と致します。

# 委員会報告

## 編集委員会

東京都立墨田工業高等学校 鈴木 健

本委員会は20年度より休止しております。

これは委員が年を追うごとに減り、最終的には委員長の遠藤先生と事務局長兼務の鈴木のみが残り、この状態では正常な業務は難しいと判断したためです。

委員の募集については、以前より総会や主査会、理事会等でも行ってきましたが、一人として委員が入ることはありませんでした。

現在は主査会が代行して業務をおこなっております。

編集委員会の業務としては「会員名簿」を総会時に「建築教育ニュース」を12月発行・送付を担当しています。

担当者は

1987～ 古賀昌之（東工大附工） 池田幸正（川崎市立工） 遠藤勇（東京工） 中尾太郎治（葛西工）

1989～ 古賀（墨田工） 池田 遠藤 大間俊彦（関東第一高） 中尾

1991～ 古賀 池田 遠藤 大間 鈴木健（葛西工）

1993～ 古賀 遠藤 大間 菊池貞介（市川工） 鈴木

1994～ 大間 遠藤 菊池 古賀（墨田工） 鈴木

1999～ 鈴木（田無工） 伊藤和生（葛西工） 遠藤 大間 武田明広（市川工） 古賀

2002～ 伊藤 古賀 大間 武田 鈴木

2003～ 伊藤 古賀 大間 武田 鈴木 柳澤力也（田無工）

2004～ 伊藤 古賀 鈴木 柳澤 遠藤啓史（市川工）

2005～ 伊藤 鈴木 遠藤

2008～ 遠藤 鈴木 →休止 主査会で代行

### 建築教育ニュース

建築教育ニュースは本研究会の年間活動の記録が中心の会報誌で、次のような内容で構成されています。

1. 会長あいさつ .....会長
2. 前年度事業及び会計（決算）報告 .....事務局
3. 当年度事業計画・会計（予算）及び役員名簿 .....事務局
4. 当年度総会。研究協議会報告 .....大会事務局
5. 夏期研究協議会体験報告 .....参加者代表
6. 5分科会活動報告（製図、計画、法規、構造、施工） .....各分科会主査
7. 製図コンクール運営委員会報告（審査結果報告） .....委員長
8. 資格取得推進委員会報告 .....委員長

9. 各県の建築教育の現況（教育活動報告・紹介）……………各県理事  
 10. 事務局ニュース・報告 ……………事務局

平成4年より各県ごとの建築教育活動の報告・紹介をしていただいております。

近年は各県とも統廃合や科名変更の紹介が多く、時代の流れとはいえ学校ごとの大変な努力が伺えます。

会員名簿

昭和55年東日本建築教育研究会創立30周年記念事業として記念誌とともに現行名簿の体裁の会員名簿が発行された。当時名簿の発行は毎年ではなかったが昭和61年、建築教育ニュースとともに名簿も毎年発行の機運が生まれました。時代の流れとともに個人情報の点から名簿廃止案などが話し合われましたが、必要との声も多く現在に至ります。

資格取得推進委員会

今市工業高等学校 五十嵐 忠彦

東日本建築教育研究会が60周年を迎えるという事で、大変歴史のある団体であり、あらためて先輩方のご努力と功績に敬意を表したいと思います。

東日本建築教育研究会の中で本委員会の前身である資格取得検討委員会の発足は、2級建築施工管理技術検定試験の高校生受験を可能にするために発足した組織だと聞いております。

先輩方（岡田義治先生 松井貞二先生 長島佳久先生）の熱心な活動が、現在も資格取得推進委員に受け継がれ、委員会の先生方が勢力的に活動しています。

年 度	委員長	副委員長	委 員		
平成11	長島 佳久		山崎 敏広 菊池 貞介 古賀 昌幸 三原 齊	松井 貞二 大庭 孝雄 高橋 義治	小沢 宏 大久保 健 石井 直樹
平成15	鈴木 隆		石井 直樹 長島 佳久 遠藤 啓史	鈴木 誠 小沢 宏	泉 隆一 五十嵐忠彦
平成20	小沢 宏	鈴木 隆	五十嵐忠彦 遠藤 啓史	泉 隆一 白井 尚美	石井 直樹 片山 路仁
平成21	五十嵐忠彦	石井 直樹	小沢 宏 遠藤 啓史 菅原 久法	鈴木 隆 白井 尚美	泉 隆一 秋山 竜二

(過去10年間の委員)

過去10年間の活動内容といたしましては、2級建築施工管理技術検定試験を受験可能にした事を受け、さらには2級建築士、木造建築士の高校生受験の実現を柱に、活動を展開してまいりましたが、某設計士による不正により、法律の改正など大きな問題に直面し、思うように進めませんでした。先生方へのアンケート結果によりますと、受験

の実現に対する全国から多くの期待が寄せられております。今後とも資格取得推進委員会では様々な資格とともに取り組んでまいりたいと思います。

ここ数年の取り組み状況としては、

平成14年度

- ・ 2級建築施工管理技術検定試験のアンケート
- ・ 各資格試験への要望をまとめる。

平成15年度

- ・ レタリング技能研修会実施（8月18日・19日）
- ・ 2級建築施工管理技術検定試験に関するアンケート、および追跡調査
- ・ 福祉施設見学会 「越谷市住まいの情報館」（8月26日）
- ・ 実業高校教員のための現場体験研修 「富士教育訓練センター」
- ・ 建築士への高校生資格取得への活動が始まる。

（主にアンケートを中心に全国の先生方から意見を聞く事から始めた。）

平成16年度

- ・ 大工育成塾見学
- ・ 建設系高校生徒体験実習第1回開始「富士教育訓練センター」以降現在まで継続
- ・ 建築および電気工事施工技術者試験に対する調査検討懇談会
- ・ 建築士受験へのアンケート

平成17年度

- ・ 2級建築士の問題分析、及び模擬試験の検討
- ・ 高校生対象に2級建築士問題の解答率調査、及び分析
- ・ 2級建築士問題データ集計、学校ごとの設問別正答数調査

平成18年度

- ・ 建築士受験に関するアンケート
- ・ 2級建築施工管理技術検定試験の取り組み

平成19年度

- ・ 平成18年度におこなわれた、建築士受験に関するアンケート集計、分析
- ・ 各都道府県の役所、及び建築士会への協力依頼をおこなう。
- ・ 2級建築施工管理技術検定試験（学科）試験の分析

平成20年度

- ・ 建築系資格試験に関するアンケート調査

平成21年度

- ・ アンケート調査から、全国の要望、意見をまとめ優先順位を決め活動を行っている。

平成22年度の主な活動予定

21年度の要望を受け、2級建築施工管理技術検定試験について取り組みます。

- ・ 合格者有効期限の撤廃

- ・合格率の向上
- ・受験者数の増加
- ・他に、試験日や試験地などについても取り組みたいと思います。

ここ、数年の活動を簡単にまとめてみますと、2級建築士と2級建築施工管理技術検定試験を柱に活動していることがご理解頂けると思います。今後も資格取得推進委員会では、この2つを柱に様々なことに対して取り組み、活動していきたいと考えております。

具体的な取り組みとしては、まず、2級建築施工管理技術検定試験の合格率を高めることです。その実績が2級建築士高校生受験を可能にするための、一つの手段ではないかと考えています。

現在、不景気の中で就職活動が大変な状況であり、さらに大学卒との競争に高校卒の学生達が戦う上で、学歴に代わり実力を示す資格を取得することが重要な事ではないでしょうか。

そういった意味では、私たちの活動は責任が大きく重要なことだと考えております。

これからも、私たちの活動に、ご理解とご協力を頂き、一致団結した行動が国や関係機関を動かす大きな力となります。何卒、よろしくお願い致します。

## 製図コンクール運営委員会報告

製図コンクール運営委員長 塩澤 泰

昭和57年第1回「製図コンクール」の応募校数72校、応募総作品数274点に始まり、平成21年第28回「全国高校生製図コンクール」の応募校数77校、応募総作品数360点と、皆様方のご支援により運営してまいりました。

製図コンクール実施の発端は、昭和45年から実施の(株)トンボ鉛筆主催の全国工高製図コンテストが昭和56年に中止することが、昭和55年に決定したことでした。

コンクールは1年間たりとも休むことなく本研究会が継続するべく、昭和57年度の研究会事業として承認され、今日に至っております。協賛していただいております(株)建築資料研究社には、発足時から今日までのコンクール継続の大きな原動力となっただいております。

平成11年第18回までの入賞作品集を、創立50周年時に発行いたしました。今回、創立60周年を記念して、作品DVDを発行することになりました。

この10年間のコンクールの変遷につきまして記載させていただきます。

平成13年第20回、手書き図面をCADで作図させる趣旨で、課題4(CAD製図)を設定しました。

平成14年第21回、応募作品数を各課題2点から3点に増やしました。平衡して、集計事務処理作業にコンピュータを本格的に使用開始しました。

平成15年第22回、会員校以外の学校にもコンクールを広める趣旨で、「製図コンクール」の名称を「全国高校生建築製図コンクール」に改称しました。

平成17年第24回、応募作品数も増えてきましたので、CAD作品展(現課題5)に賞を授与しました。

平成18年第25回、テーマを統一する趣旨で、CAD作品展(現課題5)の課題内容を、課題3のプレゼンテーション課題としました。

平成19年第26回、コンペ競技の形式にする趣旨で、CAD作品展(現課題5)の表現方法をさらに自由にしました。

平成20年第27回、作品応募を一本化する趣旨で、手書き製図（課題1・課題2・課題3）、CAD製図（課題4）、CAD作品展（課題5）と整理し、課題1～課題5として「全国高校生建築製図コンクール」名で統一して作品募集しました。

いろいろ変遷し、又コンクールの内容は変化しますが、生徒にとって建築の設計製図の基本とは何かを常に念頭に置き委員会活動を継いでいく所存です。全国の会員校および会員校以外の諸先生方、今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます。

尚、作品DVD集には金銀銅賞受賞作品（返却しました作品を除く）と入賞者の一覧表がデータ化してあります。生徒のご指導にお役に立てていただければ幸いです。

## 広報委員会報告

広報委員長 榎本吉晃

東日本建築教育研究会公式ホームページにつきまして、立ち上げてから5年目を迎える事ができました。ホームページを立ち上げた経緯ですが、「社会のIT化」に加え、「4月の発送文書が関係職員に行き渡っていない」、「申込用紙や回答用紙等の紛失」、「大会、講習会等の申込期限の失念」等の諸問題に対し、電話連絡やFAX送信より迅速且つ費用をかけずにできる事を見込み、作成しました。

お陰様で閲覧カウントも18000を越え、徐々に浸透してきた感じが見受けられます。ホームページには「見せるホームページ」と「伝えるホームページ」がありますが、研究会という体質上、伝える事を主目的として作成しました。さらには各分科会や委員会の情報やデータを公開し、「情報の発信、共有、交換の場」として広く活用していただきたいと思っています。

現在、ホームページの管理、運営に関しては専門業者に委託しております。理由としましては、委員会の内容として、「コンピュータに関する専門的な知識が無いとできない内容」では困るからです。専門業者へ委託後は各主査、委員長から受け取ったデータを画像データに変換し、専門業者へメール添付して送るのみを行っています。委託前に比べ、若干のタイムラグは生じますが、委託してから9ヶ月経ちましたが、トラブルは一切生じていません。

今後のホームページの方向性としては、個人的には容量が可能な限り、動画の配信なども視野に入れると良いのではないかと考えています。徐々に定着しているホームページに関し、今後も数々のご意見を戴きたいと同時に、多大なるご理解とご支援を賜りたいとお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが報告とさせていただきます。

## 東日本建築教育研究会のあゆみ

\* (理)：理事長名、(会)：会長名、(事)：事務局長名

年	会長および事務局*	研究会の活動	文部省、全国工業高等学校長協会	社会の動き
昭和26年	(理) 蔵前工高校長 伏見 三郎 (事) 蔵前工高 浅野 三郎	11. 6-7 本会設立総会(東京・若葉荘にて)「関東地区建築教育研究会」と称す。 ○「建築計画」(文部省)の教科書委員の決定。 主として浅野・岸田・山田先生が執筆。	○文部省「建築計画・設備」教科書発行を計画 建築科の科目数は6科目	7. 朝鮮休戦会談開始 9. 大平洋安全保障条約、サンフランシスコ講話条約
昭和27年	(理) 蔵前工高校長 伏見 三郎 (事) 蔵前工高 浅野 三郎	2. 教科書対策委員会(市立川崎工高にて) 5. 16-17 総会・研究協議会(県立沼津工高にて)「教科書、資格教育の問題について」 ○産振設備基準についての意見聴取(参加約30名、宿泊 熱海荘)	中央教育審議会設置	10. 23 十勝地震(M8.3)
昭和28年	(理) 蔵前工高校長 伏見 三郎 (事) 蔵前工高 浅野 三郎	2. 産振設備基準修正調査 2. 14-15 関東・関西・東海地区建築課程研究協議会(県立沼津工高にて、参加約50名)「産業設備基準」 5. 教科書対策委員会(都立蔵前工高にて) 6. 25-26 総会研究協議会(県立高崎工高にて)「視覚教育・教科書編修の問題について」(参加約40名)(宿泊、水上奥利根温泉) 7. 教科書対策委員会(実教にて)会誌発行 9. 13-14 研究会・都内見学会(若葉荘、参加者約60名)会名を「東日本建築教育研究会」に改称 6. 26 近畿連盟と合同の教科書委員会 7. 27 開催(執筆分担決定、実教出版にて)		8. 18 「高等学校の定時制教育および通信制教育振興法」公布 10. 13 「学校教育施行令」公布
昭和29年	(理) 蔵前工高校長 伏見 三郎 (事) 蔵前工高 浅野 三郎	2. 6 見学会：東京都体育館(斎藤謙次先生説明)、講演会：「リミットデザインについて」小野薫先生(若葉荘にて) 6. 11-12 総会・研究協議会(長野工高にて、宿泊、わたり温泉) 6. 会誌発行 10. 15 見学会：鉄道会館(八重洲口駅舎)東京都庁舎、講演会：「桂離宮について」(藤岡通夫先生)、「構造」後藤一雄先生(東工大付工高にて)	構造力学(実教)発行	12. 鳩山内閣成立 朝鮮復興特需で不況克服
昭和30年	(理)(蔵前工高校長) 墨田工高校長 伏見 三郎 (事) 蔵前工高 森安 四郎	5. 19-20 総会・研究協議会・見学会：(県立宇都宮工高にて)(宿泊、鬼怒川温泉) 10. 会誌発行 10. 1 伏見理事長、墨田工高校長となる。 事務局、都立墨田工高、宇都宮先生	建築計画(文部省)発行	12. 石橋内閣成立 この年、神武景気おこる

年	会長および事務局*	研究会の活動	文部省、全国工業高等学校長協会	社会の動き
昭和30年	(事) 墨田工高 宇都宮 新	10.18 見学会：NHKテレビホール見学、講演会(蔵前工高にて)：「海外の建築」狩野春一先生 11. 演習書編集委員会 構造力学演習書(昭晃堂)発行		
昭和31年	(理) 墨田工高校長 伏見 三郎 (事) 墨田工高 宇都宮 新	6.7-8 総会・研究協議会「実習に関する研究発表」(県立高田工高にて)(参加約60名)(宿泊、妙高ホテル) 7. 第1回標準テスト(建築材料、構造力学)実施 7.8.9 演習書編集委員会 11.17 見学会：羽田空港ビル 会誌発行 建築法規学習書(昭晃堂)発行	11.10 高等学校工業「学習指導の手びき」建築課程編発行 建築の科目数が14科目となる	この年高天原景気
昭和32年	(理) 墨田工高校長 伏見 三郎 (事) 墨田工高 宇都宮 新	6.9-10 総会(東京・若葉荘にて) 見学会：リーダーズ・ダイジェスト社、法政大学、東京駅 9. 研究発表会「計画実験」(県立弘前工高にて) 文部省研究指定校としての研究発表を兼ねて行なわれた。 この会にて「学習指導の手引き」建築科編発表 第2回標準テスト 構造計算(実教)発行	11.11 中央教育審議会「科学技術教育の振興方策について」答申	10. ソ連人工衛星打ち上げ成功 株式暴落、鍋底景気に落ち込む
昭和33年	(理) 墨田工高校長 伏見 三郎 (事) 墨田工高 宇都宮 新	6. 総会(県立甲府工高にて) 11. 研究授業「構造力学」 宇都宮先生(墨田工高にて) 11.15 第3回標準テスト	7.28 中央教育審議会「教員養成制度の改善方策について」答申	9.26 狩野川台風 12. 東京タワー完成
昭和34年	(理) 墨田工高校長 伏見 三郎 (事) 墨田工高 宇都宮 新	6. 総会(県立川越工高、宿泊、飯能) 11. 研究授業「造形」中村先生、「構造」山田先生(東工大附工高にて) 講演会：「海外の建築について」(加藤六美先生)	12. 産振設備基準改訂協議会(近畿と合同)	1. メートル法実施 この年岩戸景気
昭和35年	(理) 墨田工高校長 伏見 三郎 (事) 墨田工高 宇都宮 新	6.5-6 総会(県立神奈川工高にて、宿泊、湯本) 9. 研究会(都立小石川工高にて、都研究指定校、視聴覚教育研究発表を兼ねて) 講演会：「ライトの研究」山本学治先生 建築工事積算演習書・建築法規演習書(昭晃堂)、 建築製図上・下(実教)発行	3.31 教育課程審議会「高等学校教育課程の改善について」答申 10.15 「高等学校学習指導要領」を告示	1. 日米新安保条約調印
昭和36年	(理) 静岡工高校長 中江 齊 (事) 静岡工高 関 淳一郎 小石川工高 岡登 五郎	3.31 伏見理事長勇退 6.5-6 総会(県立静岡工高にて、宿泊、三保)、理事長中江先生(参加40校、70名) 12.1-2 講習会「計画実験」(東工大にて勝田研究室、参加44校、70名) 見学：日比谷三井ビルの設備、日本生命ビルの特殊潜函工法とハイテンションボルト工法	8.30 「高等専門学校設置基準」の静定 科学技術教育重視	4. ソ連人間衛星に成功

年	会長および事務局*	研究会の活動	文部省、全国工業高等学校校長協会	社会の動き
昭和37年	(理) 静岡工高校長 中江 斉 (事) 静岡工高 関 淳一郎 小石川工高 岡登 五郎	6.1-2 総会(県立郡山工高にて、宿泊、磐梯熱海) 11. 講習会「構造実験」建設省建築研究所にて、出席約70名 建築構造1.2(実教)発行	3. 31 「技能教育施設の指定等に関する規則」制定	9. 若戸大橋開通
昭和38年	(理) 静岡工高校長 中江 斉 (事) 静岡工高 関 淳一郎 小石川工高 岡登 五郎	5. 30 総会・研究協議会・研究発表 6. 1 (県立水戸工高にて、宿泊、大洗) 参加59校、80名 見学：東海村原子力研究所 8. 17 近畿工高連盟と連絡会開催(県立静岡工高にて) 11. 講習会「音響実験」東大生産技術研究所 NHK技術研究所(東大石井先生)、参加約70名	10. 19 中央産業教育審議会「高等学校における産業教育実験・実習施設、設備の基準の改善について」答申	1. 北陸地方豪雪
昭和39年	(理) 静岡工高校長 中江 斉 (事) 静岡工高 関 淳一郎 小石川工高 岡登 五郎	5. 23-24 総会・研究協議会(県立市川工高にて、宿泊木更津)参加64校、102人 10. 20-21 講習会：「設備実験」(虎ノ門共済会館にて、早大、井上先生) 参加58校、67人 見学：代々木オリンピック競技場、虎ノ門病院	「学習指導要領の手引」(建築科編)発行	6. 16 新潟地震(M7.5)
昭和40年	(理) 静岡工高校長 中江 斉 (事) 小石川工高 岡登 五郎	6. 5-6 総会・研究協議会(県立新潟工高にて、宿泊、とやの観光ホテル、参加70校、109人) 11. 30 講習会：「防水工事」「TILT-UP工法」 12. 1 千葉大、波多野先生、日本住宅公団関係技師 見学：田島応用化工、作草部団地(西千葉) 参加36校、62名	2. 30 「産業教育振興法施行規則」の一部改正、施設、設備基準の改訂 11. 10 産業教育80年記念式典挙行	3. 三井霞が関ビル起工式
昭和41年	(理) 静岡工高校長 中江 斉 (事) 小石川工高 岡登 五郎	6. 11-12 総会・研究協議会 研究発表(県立古川工高にて、宿泊、鳴子温泉、参加60校、95人) 11. 25-26 講習会：「超高層建築」(鹿島建設技術研究所にて) 三井不動産、山下壽郎事務所、鹿島建設技術研究所(出席80名) 見学：鹿島建設技術研究内、三井霞が関ビル、参加59校、95人	10. 31 中央教育審議会「後期中等教育の拡充整備について」最終答申	8. 中国文化大革命 9. 24-25 台風、24、25号 18才人口戦後ピークの249万人
昭和42年	(理) 向の岡工高校長 富塚 信司 (事) 田無工高 森安 四郎	6. 2-3 総会・研究協議会(県立前橋工高にて、宿泊、伊香保温泉、参加者117名) 「建築教育の問題と改善の方向について」 11. 24-25 講習会：「基礎構造・土質実験について」(建設省建築研究所にて)、岸田英明先生外、第3、第4研究部員、見学：建築研究所、パレスサイドビル、「総合事務所建築の計画、施工について」日建、林昌二先生外、設計部員 建築設備、建築史、建築計画(実教) 建築設備演習、建築構造演習(昭晃堂)発行 2. 25 高等学校工業科「学習指導の手引き」建築科編発行	8. 1 理科教育産業教育審議会「高等学校における職業教育の多様化について」答申	

年	会長および事務局*	研究会の活動	文部省、全国工業高等学校長協会	社会の動き
昭和43年	(理) 向の岡工高校長 富塚 信司 (事) 田無工高 森安 四郎	6. 7-8 総会・研究協議会(県立宇都宮工高にて、宿泊、那須温泉) 「建築科の多様化について」中江先生 11. 21-22 講習会:「万博の施設について」(蔵前工業会館にて)、万博協会建設部次長林光夫先生 見学:国際貿易センター、日本鋼管、国立博物館(東洋館)、参加100名 3. 1 高等学校工業科「学習指導の手びき」建築科資料編上発行	4. 12 文部大臣から教育課程審議会あて「高等学校教育課程の改善について」諮問 7. 13 工業教育会館地鎮祭	4. 3 三井霞が関ビル竣工 5. 16 十勝沖地震(M7.9) 8. ソ連・東欧軍チェコ侵入
昭和44年	(理) 向の岡工高校長 富塚 信司 (事) 田無工高 森安 四郎	3. 6-7 総会・研究協議会(埼玉県秩父、秩父鉄道有隣クラブにて)、参加150名 「学習指導要領の改訂」総則編について、各分科会(製図・実習・計画・構造) 11. 21-22 講習会:(工業教育会館にて) 「改正建築基準法について」水越義幸先生(建設省)「学習指導要領総則編の改訂について」関口先生 見学:東芝科学館、京王プラザ、旭ガラス、日本鋼管	建築測量(実教)発行 6. 10 高等学校工業科「学習指導の手びき」建築科資料編中・下(文部省)発行 3. 新工業教育会館完成	1. 23 能研テスト廃止
昭和45年	(会) 鶴見工高校長 長谷川光次 (事) 田無工高 森安 四郎	4. 5-6 総会・研究協議会(県立山形工高にて)(宿泊、よねや旅館) 「学習指導要領の改訂」建築科編について、各分科会(製図・実習・計画・構造) 11. 27-28 講習会:(工業教育会館にて) 「電子計算機の利用について」小倉正士先生 見学:東海ビル、京浜急行ホテル(建設現場)東芝科学館、電子計算機の実績(日立、芝電商事)	造形(実教)発行・建築会社就職全科(昭晃堂)発行 5. 6 「高等学校学習指導要領案」発表 10. 15 同告示(48年度実施) 10. 24 中学生の高校への進学率発表、全国平均82.1%(44年度79.4%)	
昭和46年	(理) 向の岡工高校長 富塚 信司 (事) 田無工高 森安 四郎	7. 28 東日本建築教育研究会創立20周年記念式典(社会文化会館にて) 7. 29-30 総会・研究協議会 理事長制を廃止、会長制度をとる(会則変更)	3. 13 文部省、特殊小中学部の新学習指導要領を告示 5. 28 「国立及び公立の義務教育諸学校等の教育教員の給与等に関する特別措置法」公布	5. 6 京王プラザ営業開始
昭和47年	(会) 鶴見工高校長 長谷川光次 (事) 田無工高 森安 四郎	6. 2-3 総会・研究協議会(秋田県) 新学習指導要領による教育課程の編成 8. 2-4 施工部会主催「施工実習の指導法」(横須賀市立工) 11. 17-18 講習会:最近の鋼構造について(工業教育会館) 見学:成田空港(東京国際空港)、検見川団地 建築実習(1、2年)(実教出版)発行	7. 3 教員養成審議会「教員養成の改善策について」建議 10. 5 学制100年記念式典	

年	会長および事務局*	研究会の活動	文部省、全国工業 高等学校校長協会	社会の動き
昭和48年	(会) 埼玉県立玉川工 高校長 池田 壽男 (事) 田無工高 森安 四郎	5. 1-2 総会・研究協議会(茨城県土浦市)「教育課程の 編成と実務上の問題点」 見学: 鹿島臨海工業団地 11. 16-17 講習会: 「製図指導上の問題点」 竹中工務店、仁木設計事務所 見学会: 新宿副都市、その他 建築構造(実教出版) 発行 建築計画(実教出版) 発行	9. 25 「筑波大 学法成立」 11. 21 小・中・ 高一貫教育を固 るための新教育 課程審議会発足 建築の科目が8科 目に減少	石油ショック 工業高校への希望 者減少と生徒の学 力低下が表面化
昭和49年	(会) 埼玉県立玉川工 高校長 池田 壽男 (事) 葛西工高 松本 延夫	6. 7-8 総会・研究協議会(愛知県名古屋) 「産業教育の改善に関する委員会審議の経過をめぐって」 見学: 犬山城、明治村 (製図・実習・計画・構造) 8. 7-9 施工部会主催「施工実習の指導法、実技教育」 (於盛岡工高)	2. 25 「学校教 育の水準の維持 向上のための義 務教育諸学校の 教育職員の人材 確保に関する特 別措置法」公布 5. 27 「教頭職 法制化法」成立 12. 9 三木内閣、 永井道雄民間文 相誕生	高校進学率90% 超
昭和50年	(会) 埼玉県立玉川工 高校長 池田 壽男 (事) 葛西工高 松本 延夫	7. 6-7 総会・研究協議会(千葉県成田市) 「工業教育の改善、専門科目の最小限教育内容について」 見学: 成田空港 8. 21-22 計画部会主催(於小石川工高) 「計画実験・実習の指導法(日照、換気、音響、 空調)」、ミサワホーム総合研究所見学 建築設計図、建築施工、建築構造設計(実教出版) 発行 プレハブ住宅(コンクリート編) 16mm映画	4. 28 「短期大 学設置基準」公 布 7. 15 文部省、 小・中・高校の 主任制の法制化 発表	
昭和51年	(会) 葛西工高校長 遊佐 五郎 (事) 葛西工高 松本 延夫	5. 28-29 総会・研究協議会(山梨県富士吉田市) 「基礎実習の実践と問題点」 8. 23-24 構造部会主催(於田無工高) 「材料、構造実験・実習」「コンピューター講習会」 建築史(実教出版) 発行	1. 10 「専修学 校設置基準」公 布 3. 1 主任制度化 施行 12. 18 教育課程 審議会「教育課 程の基準の改善 について」答申	
昭和52年	(会) 葛西工高校長 高橋 豊次 (事) 葛西工高 松本 延夫	6. 10-11 総会・研究協議会(東京九段会館) 「教育課程の改善について」 「産振法、設備基準の改訂による運用上の問題点」 6. 20-21 製図部会(於東工大付工高) 「透視図のかき方、着色実技」 建築の基礎問題(市ヶ谷出版) 教材委員会発行 建築資料集(実教出版) 発行、 建築実習(1、2)改訂版(実教出版) 発行	5. 2 大学入試セ ンターの発足 7. 23 文部省、 小・中学校新学 習指導要領告示 9. 22 文部省、 全面改定の教科 書検定規則、検 定基準を公布	

年	会長および事務局*	研究会の活動	文部省、全国工業高等学校長協会	社会の動き
昭和53年	(会) 葛西工高校長 堀 重雄 (事) 葛西工高 松本 延夫	6. 10-11 総会・研究協議会(青森県青森市) 「学習指導要領の改訂について、建築科科目の統合」 8. 18-19 「教材の作成と視聴覚教材の指導法」(於東京工大)	6. 17 中央教育審議会「教員の資質向上について」答申 10. 1 教育大学(上越、兵庫)開学	
昭和54年	(会) 葛西工高校長 堀 重雄 (事) 葛西工高 松本 延夫	6. 8-9 総会・研究協議会(栃木県鬼怒川) 「改訂学習指導要領の問題点」 8. 20-21 施工部会主催(於横須賀市、三浦ドッグ社員寮) 「安全教育について」	1. 13 第1回共通第1次学力試験実施 4. 1 養護学校の義務制実施	
昭和55年	(会) 足立工高校長 堀 重雄 (事) 東工大付工高 五十嵐永吉	7. 29-30 総会・研究協議会(札幌市内ホテル東急イン) 「新教育課程と工業基礎・工業数理について」 記念講演会「北海道の建築」(北海道大学助教授越野武先生) 研究視察:札幌市内の建築物の見学 30周年記念誌発行	4. 25 40人学級法案可決 11. 25 文部省、校内暴力等の防止対策を通知	
昭和56年	(会) 蔵前工高校長 國兼 光由 (事) 蔵前工高 高山 英一	6. 12-13 総会・研究協議会(長野市内長野ホテル) 「新教育課程と学習指導について(工業基礎・工業数理)」 8. 20-21 講習会「照明の基礎・光源と照明設計」 (於中央工学校田端校舎) 見学会:NHKホール、東京電力KK大塚支社	6. 11 「放送大学学園法」公布、中央教育審議会「生涯教育について」答申	
昭和57年	(会) 蔵前工高校長 國兼 光由 (事) 蔵前工高 高山 英一	6. 11-12 総会・研究協議会(群馬県草津市) 全健プラザ 8. 6 講習会(於日本光学横浜工場) 「建築測量に関する実技演習並びに工場見学」 第1回製図コンクールの実施	5. 6 文部省「新高校教育課程編成状況調査」結果発表 建築科目建築史・法規が減り6科目となる	
昭和58年	(会) 蔵前工高校長 國兼 光由 (事) 蔵前工高 高山 英一	5. 20-21 総会・研究協議会(富山県東砺波郡庄川町) 「越中庄川荘」 「工業基礎・工業数理の実践報告」 講演会「建設業の今後の展望と建築教育」 8. 9-12 建築科目に関するパソコンの実技指導と実技演習(参加者81名) 第2回製図コンクールの実施	11. 22 教員養成審議会「教員の養成及び免許制度の改善について」答申	
昭和59年	(会) 墨田工高校長 楠見 善男 (事) 墨田工高 井上 満	6. 15-16 総会・研究協議会(岩手県盛岡市ホテル東日本) 「工業基礎をどのような計画のもとにどのような内容で指導したか」 「工業数理における一考察について」 「パソコンについての実践報告」 映画発表「躍進田無工高・卒業生はいま」 9. 1-3 講習会「建築施工実習研究協議会」(於向の岡工高) 第3回製図コンクール	8. 8 「臨時教育審議会設置法」公布	東西ドイツ統一

年	会長および事務局*	研究会の活動	文部省、全国工業高等学校長協会	社会の動き
昭和60年	(会) 墨田工高校長 楠見 善男 (事) 墨田工高 井上 満	6. 7-8 総会・研究協議会 (高山市民文化会館) 「工業基礎の授業について」・「建築技術者に必要な実習内容に関する調査のまとめと分析」・「パソコンを利用した教育内容と、その指導について」 8. 1-3 「パソコンの実技演習」(於日本工業大学) 第4回製図コンクール	6. 26 臨時教育審議会「教育改革に関する第1次答申」提出	
昭和61年	(会) 墨田工高校長 加地 正義 (事) 墨田工高 佐藤 賢吉	6. 6-7 総会・研究協議会 (福島市飯坂温泉ホテル聚楽) 「建築科における情報技術教育はどのように計画・実施したらよいか」 「建築製図の指導法について」 8. 1-2 「建築計画・設備の実験実習」(於蔵前工高) 東京芸大「奏楽室」移築工事現場見学 第5回製図コンクール	6. 4 文部省、中等教育改革の推進に関する調査研究協力者会議を設置	
昭和62年	(会) 小石川工高校長 加曾利政男 (事) 小石川工高 松田 紘	6. 12-13 総会・研究協議会 (石川県片山津温泉「ホテルながやま」) 「透視図の学習指導について」 「コンピュータによる室内環境測定」 研究視察:「那谷寺」「九谷焼資料館」「成巽閣」 7. 31-8. 1 実習・実験「鉄筋コンクリートばりの構造実験」(安田学園高等学校) 見学:清水建設KK技術研究所 第6回製図コンクール	8. 20 臨教審解散	
昭和63年	(会) 小石川工高校長 松村 篤躬 (事) 小石川工高 松田 紘	6. 10-11 総会・研究協議会 (埼玉県産業文化センター) (大宮ソニックシティ) 「CAIによる建築設計の実践と効果」 「木造実習」二階建住宅の実践 8. 4-6 「建築施工実習の実践指導について」 (東京工業高校、赤倉研究所) 第7回製図コンクール	4. 1 文部省、単位制高校を制度化	
平成元年	(会) 小石川工高校長 松村 篤躬 (事) 小石川工高 松田 紘	6. 9-10 総会・研究協議会 (静岡県焼津観光ホテル「松風閣」) 「赤外線映像装置による温度測定と外壁診断」 「関市立体地図の製作ならびに提示用CAIの開発」 研究視察「登呂遺跡・同博物館及び芹沢銈介美術館」 7. 25-26 「設計製図の指導について (CADの実技演習と建設会社での利用状況)」(埼玉県立大宮工業高校) 参加45名 第8回製図コンクール		昭和天皇崩御 皇太子明仁親王即位、新年号平成となる 横浜ベイブリッジ完成 サンフランシスコ地震 (M6.9)

年	会長および事務局*	研究会の活動	文部省、全国工業 高等学校長協会	社会の動き
平成2年	(会) 田無工高校長 清水 守男 (事) 田無工高 赤地 龍馬	7. 25-26 総会・研究協議会 (神奈川県、湯本ホテルお かだ) 「川崎市におけるインテリジェントスクールの試 み」 「コンピュータを授業にどう取り入れたらよいか ～CADの実践を通しての試案」 創立40周年記念式典 記念講演会「わが国の耐震建築理論」 (東京大学名誉教授 工学博士 梅村 魁先生) 40周年記念誌発行 6. -8 夏期研究協議会講習会「建築施工実習研究協議 」 「透視図の着彩と添景の実技演習」(於:東京工高) 第9回製図コンクール	大学入試センター 試験開始	
平成3年	(会) 田無工高校長 清水 守男 (事) 田無工高 本間 正明	8. 5-6 総会・研究協議会 (宮城県ホテル松島「大観荘」) 「新しい設備を活用した「課題研究」の実践につ いて」 「現代住宅と重要文化財「我妻家」との比較」 「卒業設計の実践」 7. 22-23 夏期研究協議会 (計画分科会神奈川県勤労会 館) 「建築法規」「建築史」講習並びに見学会 (横浜 の近代建築) 第10回製図コンクール		新都庁舎落成 雲仙・普賢岳土石 流発生 ソ連共産党解散
平成4年	(会) 田無工高校長 清水 守男 (事) 田無工高 本間 正明	6. 12-13 総会・研究協議会 (新潟県月岡温泉ホテル 「清風苑」) 「建築設計におけるFCAIの実践報告」 「課題研究の実践報告」 研究視察「豪農の館」北方文化 7. 27-29 夏期研究協議会 (施工分科会・越生高等学校 軽井沢研修センター) 「木造・S造・RC造・測量実習」の実技講習会 第11回製図コンクール	学校週5日制スタ ート	沖縄本土復帰20 周年 ミニ新幹線「つば さ」開業
平成5年	(会) 葛西工高校長 吉村 義弘 (事) 葛西工高 松井 貞二	6. 10-11 総会・研究協議会 (茨城県「大洗パークホテ ル」) 「専攻科に関する実践報告」 「課題研究の実践報告」 研究視察:「好文亭(偕楽園)」「弘道館」 7. 27-28 夏期研究協議会 (構造分科会・葛西工高) 「振動模型の製作とそれを利用した模型実験」の 実技講習 第12回製図コンクール		北海道南西沖地震 (M7.8)
平成6年	(会) 葛西工高校長 吉村 義弘 (事) 葛西工高 松井 貞二	6. 16-17 総会・研究協議会 (山形県天童温泉「滝の湯 ホテル」) 「地方都市における建築教育に関する報告」 講演会「風土と建築」本間利雄先生 7. 26-28 夏期研究協議会 (製図分科会・新潟県六日町 白银山荘) 「間伐材を使用したログテーブルの製作」 第13回製図コンクール	建築科目に「法規」 が復活	不況型倒産最高と なる 日本人初の女性宇 宙飛行士向井千秋 スペースシャトル コロンビアに乗る 関西空港開港 北海道東方沖地震 (M7.9)

年	会長および事務局*	研究会の活動	文部省、全国工業 高等学校長協会	社会の動き
平成7年	(会) 葛西工高校長 吉村 義弘 (事) 葛西工高 松井 貞二	6. 8-9 総会・研究協議会(千葉県「ホリディ・イン東武成田」) 「建築施工技術者試験の指導法について」 「建築と子供達カリキュラム」(アメリカ・アンテラ教授)から学ぶもの 「歴史的建築物の実測調査及び模型製作」 7. 27-28 夏期研究協議会(計画分科会・川越工業高校) 「建築法規・建築史講習並びに川越の町並・文化財」見学 第14回製図コンクール		阪神・淡路大地震発生(震度7) 地下鉄サリン事件 国内で生れた日本人の子供数118万7,067人で過去最低
平成8年	(会) 蔵前工高校長 北島 敬己 (事) 蔵前工高 堀内 仁之	6. 6-7 総会・研究協議会(愛知県「名古屋国際会議場」) 「単位減に伴う教科指導法」について 「紙を生かした課題研究の取り組み」 「本校におけるCAD教育」 「建築積算の指導法について」 「建築教育におけるマルチメディア」 「私の環境論」名工大名誉教授宮野秋彦先生 7. 29-30 夏期研究協議会(施工分科会・神奈川工業高校) 「建築施工」に関する講習並びに見学会 第15回製図コンクール		病原性大腸菌O-157発生
平成9年	(会) 蔵前工高校長 北島 敬己 (事) 蔵前工高 堀内 仁之	6. 12-13 総会・研究協議会(長野市「ホテル国際21」) 「厳選に伴う内容の整理」 「善光寺の歴史と建物」 研究視察:「冬季オリンピック施設」 7. 24-25 夏期研究協議会(構造分科会・田無工業高校) 「教科学習及び学習補助教材としての学習ソフトの製作」 第16回製図コンクール		秋田新幹線開通 香港中国に返還 長野新幹線開通 東京湾アクアライン開通 消費税5%に引き上げ
平成10年	(会) 蔵前工高校長 北島 敬己 (事) 蔵前工高 堀内 仁之	6. 11-12 総会・研究協議会(北海道「ホテルライフオート札幌」) 「厳選に伴う内容の整理」 「北海道の建築教育」 研究視察:「北海道開拓の村」 8. 4-5 夏期研究協議会(製図分科会・市川工業高校) 「JW-CADの基本操作の体験と授業への活用」 50周年記念事業特別委員会設置 第17回製図コンクール		明石海峡大橋開通 長野冬季オリンピック
平成11年	(会) 墨田工高校長 稲見 辰夫 (事) 墨田工高 小沢 宏	6. 17-18 総会・研究協議会(秋田県「秋田ビューホテル」) 「21世紀の建築教育のあり方」 講演会「思春期の心の理解」山崎友丈先生 「建築教育実践」 研究視察:「みちのく小京都角館」 7. 23-24 夏期研究協議会(計画分科会・蔵前工業高校・鹿島KIビル) 「建築設計」・「建築史講習並びに見学会」 「江戸東京博物館・浜離宮庭園」見学 8. 4-5 製図分科会自主開催(蔵前工高) 「JW-CADの基本操作の体験と授業への活用」 第18回製図コンクール		

年	会長および事務局*	研究会の活動	文部省、全国工業高等学校長協会	社会の動き
平成12年	(会) 墨田工高校長 原田 昭 (事) 墨田工高 小沢 宏	7. 26-27 総会・研究協議会 (栃木県鬼怒川温泉「ホテルニュー岡部」) 創立50周年記念式典 記念講演会「世界文化遺産日光東照宮の謎」 (日光東照宮禰宜、総務部長高藤晴俊氏) 50周年記念誌・製図コンクール作品集発行 8. 7-8 夏期研究協議会 (施工分科会・石川島技術教習所研修センター) 「クレーン特別教育講習会」 第19回製図コンクール	教育改革国民会議 (小淵内閣)	
平成13年	(会) 墨田工高校長 原田 昭 (事) 墨田工高 小沢 宏	7. 26-27 総会・研究協議会 (青森県古牧温泉「古牧グランドホテル」) 「21世紀を拓く建築教育－高校建築教育再構築への取り組み－」 8. 7-8 夏期研究協議会 (構造分科会)「構造設計計算プログラムの活用実習」 8. 23-24 建築汎用CAD講習会 8. 21 建築CAD体験セミナー	文部省と科学技術庁が統合し文部科学省となる 文科省でゆとり教育推進	アメリカ同時多発テロ事件
平成14年	(会) 小石川工高校長 堀川 忠義 (事) 小石川工高 岩見 立也	7. 25-26 総会・研究協議会 (東京都「江戸川区総合区民ホール」) 「これからの建築教育にもとめられるもの」 7. 24 夏期研究協議会 (製図分科会「都市基盤整備公団総合研究センター研究施設見学」) 8. 26-27 資格取得 (レタリング技能) 研究協議会	完全学校週5日制を実施 小中で学習内容大幅削減の教科書登場 (高校は翌年)	
平成15年	(会) 小石川工高校長 佐藤 清親 (事) 小石川工高 岩見 立也	7. 31-8. 1 総会・研究協議会 (山梨県「石和観光温泉ホテル」) 「新たな建築教育をめざして」 7. 23-24 夏期研究協議会 計画分科会 (南ヶ丘倶楽部) 「伝統的建築物の見学及び講演」 8. 18-19 資格取得 (レタリング技能) 研究協議会 3. 29-30 第1回建築写真技術講習会		宮城県北部地震
平成16年	(会) 小石川工高校長 佐藤 清親 (事) 小石川工高 岩見 立也	7. 26-27 総会・研究協議会 (群馬県「伊香保温泉 ホテル天坊」) 「時代に即した効果的な建築教育をめざして」 7. 29-30 夏期研究協議会 施工分科会 (東京都品川技術専門学校)「労働安全衛生法による技能講習会」 7. 23 第1回建築確認申請講習会 3. 29-30 第2回建築写真技術講習会		アテネ五輪、新潟県中越地震
平成17年	(会) 田無工高校長 能智 功 (事) 田無工高 鈴木 健	7. 28-29 総会・研究協議会 (岐阜県「岐阜観光ホテル十八楼」) 「建築教育に求められる社会貢献」 8. 1-2 夏期研究協議会 (構造分科会)「木造耐震診断研修会」 8. 3 日影図および天空率作図講習会 8. 24-26 建築系高校生徒体験実習 富士教育訓練センター		

年	会長および事務局*	研究会の活動	文部省、全国工業 高等学校長協会	社会の動き
平成 18年	(会) 田無工高校長 能智 功 (事) 田無工高 鈴木 健	8. 1-2 総会・研究協議会(静岡県「静岡文化芸術大学」) 「意欲を高める建築教育あり方」 7. 25-26 夏期研究協議会(製図分科会)「建築博物館都 市つくばを歩く」 7. 31 第2回建築確認申請講習会 8. 21-23 建築系高校生徒体験実習 富士教育訓練セン ター		WBCで日本優勝
平成 19年	(会) 田無工高校長 能智 功 (事) 田無工高 鈴木 健	7. 26-27 総会・研究協議会(岩手県「つなぎ温泉 ホ テル大観」) 「実践に根ざした建築教育の再構築」 7. 25-26 夏期研究協議会(計画分科会)「旧富岡製糸 場見学他・講演」 7. 30 第3回建築確認申請講習会 8. 20-23 建築系高校生徒体験実習 富士教育訓練セン ター	全員対象の全国学 力テスト復活	
平成 20年	(会) 葛西工高校長 佐藤 則夫 (事) 葛西工高 鈴木 隆	7. 31-8. 1 総会・研究協議会(石川県「金沢歌舞伎座」) 「生徒の可能性を引き出す建築教育」 8. 4-5 夏期研究協議会(法規分科会)「建築法令講習会」 8. 18-21 建築系高校生徒体験実習 富士教育訓練セン ター	初の全国体力テス ト	リーマンショック 北京五輪
平成 21年	(会) 葛西工高校長 平林 博 (事) 葛西工高 鈴木 隆	7. 30-31 総会・研究協議会(埼玉県「ラフレさいたま」) 「未来にはばたく建築教育」 8. 6-7 夏期研究協議会(構造分科会)「CADによる問 題作成講習会」 8. 18-21 建築系高校生徒体験実習 富士教育訓練セン ター	小学校英語 教員免許更新制開 始	WBCで日本二連 勝 民主党政権誕生 18才人口121万 人に
平成 22年	(会) 葛西工高校長 平林 博 (事) 葛西工高 鈴木 隆	7. 29-30 総会・研究協議会(福島県「御宿東鳳」) 「身近に感じさせる建築教育-生活体験を通して-」 8. 6-7 夏期研究協議会(施工分科会)「大工道具の手 入れと使用法」 8. 18-21 建築系高校生徒体験実習 富士教育訓練セン ター	高校授業料の実質 無償化	バンクーバー五輪

## 編集後記

平成21年6月に実行委員会を開催し、編集会議は主査会・理事会にあわせ数回の会合を重ねて平成22年5月20日を最後に編集を完了した。

この記念誌の編集は40周年記念誌、50周年記念誌の方針を引き継ぎ60周年を礎に、近い未来に向けて発展を続けようとする姿を表現する。すべての会員校が参加できる内容とする。内容の構成は51～60周年の10年間を中心にまとめた。

実行委員会はそれぞれの職場での校務、さらに各分科会のまとめ役としての仕事を抱えながら、研究会の業績を将来に残すべく、使命感と奉仕の精神を持って作業に当たった。各委員の誠意あるご協力のおかげで、この記念誌が予定どおり発行できることは大変喜ばしく思います。なお、ご協力いただきました、文部科学省池守滋調査官をはじめ、歴代会長・多くの先輩方・加盟校の先生方に心より感謝の意を表す次第です。また発行にあたり協賛していただいた、賛助会会員・企業・各学校の方にお礼を申し上げます。

(記 大久保)

### <記念行事実行委員>

榎本 吉 晃 (安田学園高等学校)  
大久保 健 (東京都立墨田工業高等学校)  
小 沢 宏 (東京都立総合工科高等学校)  
小 島 聡 (千葉県立東総工業高等学校)  
沢 野 茂 (東京都立墨田工業高等学校)  
塩 澤 泰 (関東第一高等学校)  
塩 山 昇 (埼玉県立大宮工業高等学校)  
高 橋 裕 (神奈川県立神奈川工業高等学校)  
三野輪 雄 大 (埼玉県立大宮工業高等学校)  
森 嶋 真 一 (山梨県立峡南工業高等学校)  
米 原 良 滋 (東京都立田無工業高等学校)  
鈴 木 隆 (事務局)  
土 田 裕 康 (参与)

### 東日本建築教育研究会60周年記念誌

---

平成22年6月24日印刷

平成22年7月1日発行

編集 東日本建築教育研究会60周年記念誌編集委員会

発行 東日本建築教育研究会 (代表者 平林 博)

印刷 株式会社エスプリ

---

